

Sun Fire X4800 M2 サーバーサービスマ ニュアル



Part No: E24547
2011 年 8 月

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する場合、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

目次

このマニュアルの使用法	5
製品のダウンロード	5
ドキュメントおよびフィードバック	6
このドキュメントについて	6
寄稿者	7
変更履歴	7
Sun Fire X4800 M2 サーバースーマニュアルの概要	9
サーバーとコンポーネントの概要	11
Sun Fire X4800 M2 サーバースの概要	11
コンポーネントの概要	21
電源およびリセット	47
電源モード	47
電源ボタンおよび電源 OK LED	48
サーバーに電源を投入する方法	48
サーバーの電源を切断する方法	49
サーバー電源の遠隔制御	50
コンポーネントの取り外しと取り付け	53
サービスおよび操作のための準備	53
取り外しおよび取り付け手順	59
電源装置 (CRU) の取り外しと取り付け	61
ハードドライブ (CRU) の取り外しと取り付け	66
ハードドライブフィルターの取り外しと取り付け	71
ハードドライブバックプレーン (FRU) の交換	74
CMOD (CRU) の追加、取り外し、取り付け	79
CPU モジュール (CMOD) の指定と配置規則	87
CMOD フィルターの取り外しと取り付け	90
CMOD バッテリ (CRU) を交換する方法	93
DIMM (CRU) の取り外しと取り付け	96

DIMM 配置規則	100
RAID 拡張モジュール (CRU) の取り外しと取り付け	101
ファブリック拡張モジュール (CRU) の取り外しと取り付け	104
CPU とヒートシンク構成部品 (FRU) の交換	107
ファンモジュール (CRU) の取り外しと取り付け	114
ファンモジュールコントローラボード (FRU) の交換	118
NEM または NEM フィラー (CRU) の取り外しと取り付け	122
PCIe EM (CRU) の取り外しと取り付け	127
サービスプロセッサモジュール (CRU) の取り外しと取り付け	131
マルチポートケーブルの取り外しと取り付け	134
サブアセンブリモジュール (FRU) の取り外しと取り付け	136
Sun Fire X4800 M2 サーバーのサービスに関する手順および情報	145
FRUID 情報の管理	145
ファームウェアに関する情報および手順	147
BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする方法	148
BIOS 設定ユーティリティー画面	149
LED 部品の位置と機能	180
温度センサーの位置	191
Sun Fire X4800 M2 サーバー仕様	195
物理仕様	195
電源仕様	195
環境仕様	196
索引	197

このマニュアルの使用方法

この節では、製品情報、ドキュメントとフィードバックのリンク、およびドキュメントの変更履歴を示します。

- 5 ページの「製品のダウンロード」
- 6 ページの「ドキュメントおよびフィードバック」
- 6 ページの「このドキュメントについて」
- 7 ページの「寄稿者」
- 7 ページの「変更履歴」

製品のダウンロード

すべての Oracle x86 サーバーおよびサーバーモジュール (ブレード) 用のダウンロードは、My Oracle Support (MOS) にあります。MOS には 2 種類のダウンロードがあります。

- ラック搭載サーバー、サーバーモジュール、モジュラーシステム (ブレードシャーシ)、または NEM に固有のソフトウェアリリースバンドル。これらのソフトウェアリリースバンドルには、Oracle ILOM、Oracle Hardware Installation Assistant、および他のプラットフォームのソフトウェアとファームウェアが含まれます。
- 複数のタイプのハードウェアで共通するスタンドアロンソフトウェア。これには、Hardware Management Pack と Hardware Management Connectors が含まれます。

▼ ソフトウェアとファームウェアのダウンロード

- 1 <http://support.oracle.com> にアクセスします。
- 2 My Oracle Support にサインインします。
- 3 ページの上部にある「Patches and Updates (パッチと更新)」タブをクリックします。
- 4 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Product or Family (製品またはファミリー)」 (「Advanced Search (高度な検索)」) をクリックします。

- 5 「Product? Is (製品は?)」フィールドに、一致するもののリストが表示されるまで製品名の全体または一部を入力し(例: **Sun Fire X4800 M2**)、目的の製品を選択します。
- 6 「Release? Is (リリースは?)」プルダウンリストで、下矢印をクリックします。
- 7 表示された画面で、製品フォルダアイコンの隣にある三角印(>)をクリックし選択肢を表示してから、該当するリリースを選択し、「Close (閉じる)」をクリックします。
- 8 「Patches Search (パッチ検索)」ボックスで、「Search (検索)」をクリックします。製品のダウンロードのリスト (パッチとしてリストされる)が表示されます。
- 9 目的のパッチ名を選択します。たとえば、**X4800SW1.1 - Oracle ILOM**および**BIOS**の場合は**10333322**です。
- 10 表示された右側の区画で、「Download (ダウンロード)」をクリックします。

ドキュメントおよびフィードバック

ドキュメント	リンク
すべての Oracle 製品	http://www.oracle.com/documentation
Sun Fire X4800 M2	http://download.oracle.com/docs/cd/E20815_01/index.html
Oracle ILOM 3.0	http://www.oracle.com/technetwork/documentation/sys-mgmt-networking-190072.html#ilom

このドキュメントについてのフィードバックは次の URL からお寄せください。<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

このドキュメントについて

このドキュメントセットは、PDF および HTML の両形式で利用できます。情報は (オンラインヘルプと同様の) トピック単位の形式で提供されるので、章、付録、節などの番号はありません。

特定のトピック (ハードウェア設置やご使用にあたってなど) に関するすべての情報が含まれる PDF を取得するには、ページの左上にある PDF ボタンをクリックします。

寄稿者

主な執筆者: Ralph Woodley、Michael Bechler、Ray Angelo、Mark McGothigan。

寄稿者: Kevin Cheng、Tony Fredriksson、Richard Masoner。

変更履歴

次の一覧はこのドキュメントセットのリリース履歴です。

- 2011年7月初版。

Sun Fire X4800 M2 サーバーサービスマニュアルの概要

『Sun Fire X4800 M2 サーバーサービスマニュアル』では、サーバーの保守に関する情報および手順について説明します。次の表に、このマニュアルの構成を示します。

節	リンク
一般的なサーバーの機能およびコンポーネントの概要に関する情報	11 ページの「サーバーとコンポーネントの概要」
電源関連の情報および手順	47 ページの「電源およびリセット」
安全性に関する情報、コンポーネントの取り外し、および取り付けのタスク	53 ページの「コンポーネントの取り外しと取り付け」
保守に関する手順および情報	145 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサービスに関する手順および情報」
システム仕様	195 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー仕様」

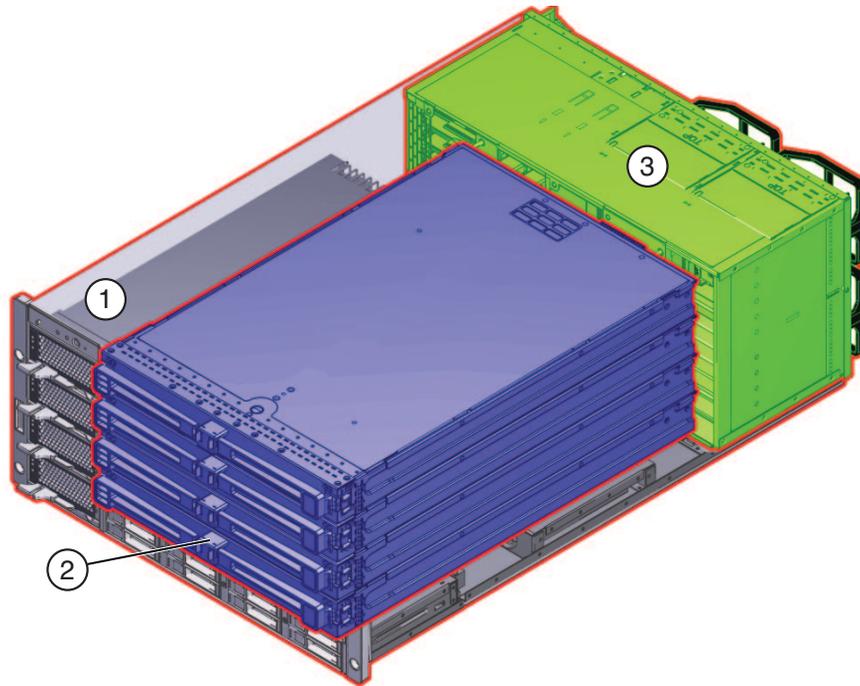
サーバーとコンポーネントの概要

この節では、Sun Fire X4800 M2 サーバー およびそのコンポーネントに関する概要について説明します。

- 11 ページの「[Sun Fire X4800 M2 サーバー の概要](#)」
- 21 ページの「[コンポーネントの概要](#)」

Sun Fire X4800 M2 サーバー の概要

Sun Fire X4800 M2 サーバー はシャーシコンポーネント、CPU モジュール (CMOD) コンポーネント、およびサブアセンブリモジュールコンポーネントで構成されています。

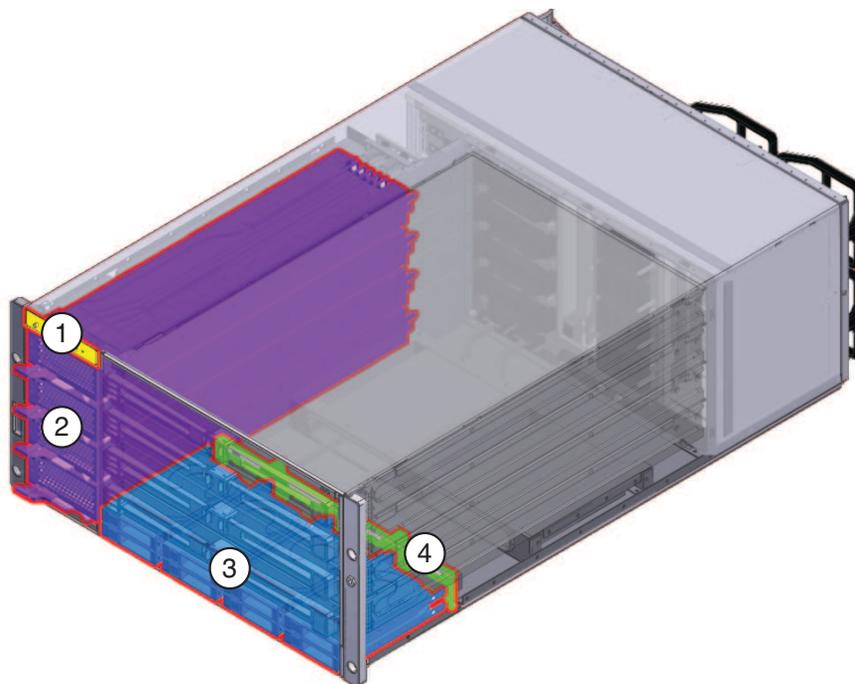


説明

コンポーネント	リンク
1 シャーシモジュール (シャーシ、電源装置、ハードドライブを含む)	12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシの概要」
2 CPU モジュール (CMOD)	14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
3 サブアセンブリモジュール	18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」

Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシの概要

Sun Fire X4800 M2 サーバーには5つの RU シャーシがあり、次のものが搭載されています。



注-ハードウェアおよびソフトウェアのサポートに関する最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバード使用にあたって』を参照してください。

シャーシの内容	リンク
1 フロントパネルのインジケータ構成部品	22 ページの「フロントパネルのインジケータモジュールの概要」
2 ホットスワップ対応 2000W の負荷分散電源装置用のスロット 4 つ	24 ページの「電源装置の概要」
3 2.5 インチのsmallフォームファクタ SAS-2 ホットスワップ対応、デュアルポート、エンタープライズクラスのハードドライブを 8 台サポートするドライブベイ	26 ページの「ハードドライブと XL ブラケット構成部品の概要」
4 ハードドライブバックプレーン	27 ページの「ドライブバックプレーンの概要」

参照:

- [11 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの概要」](#)

- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」

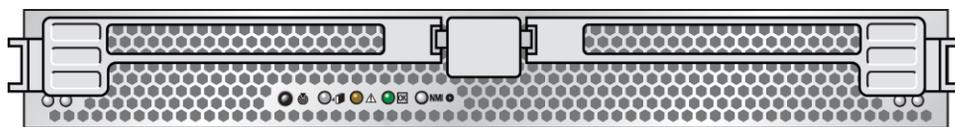
Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて

- 14 ページの「Sun Fire X4800 サーバーバージョン間の CMOD の非互換性」
- 15 ページの「CPU モジュールおよびフィラーモジュール」
- 17 ページの「CMOD 内部コンポーネント」
- 18 ページの「CMOD 接続」

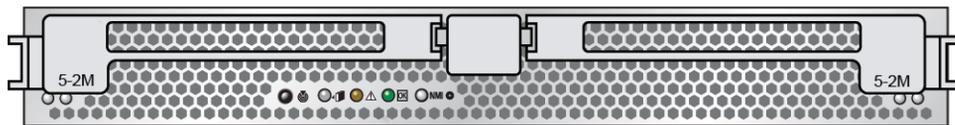
Sun Fire X4800 サーバーバージョン間の CMOD の非互換性

Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールはサーバーファミリの M2 モデルに固有であり、Sun Fire X4800 サーバーで使用される CPU モジュールと互換性はありません。同様に、Sun Fire X4800 サーバーに指定された CPU モジュールは、Sun Fire X4800 M2 サーバーと互換性はありません。

Sun Fire X4800 M2 サーバーで使用するよう設計された CMOD は、ちょうつがいの近くにある CMOD ロックレバーの外側エッジに貼られている 5-2M 指定ラベルによって、M2 以外のサーバーから区別できます。この特徴は CMOD フロントパネルで確認できます。次の図に、2 つのサーバーの CMOD フロントパネルの比較を示します。



Sun Fire X4800 CMOD



Sun Fire X4800 M2 CMOD

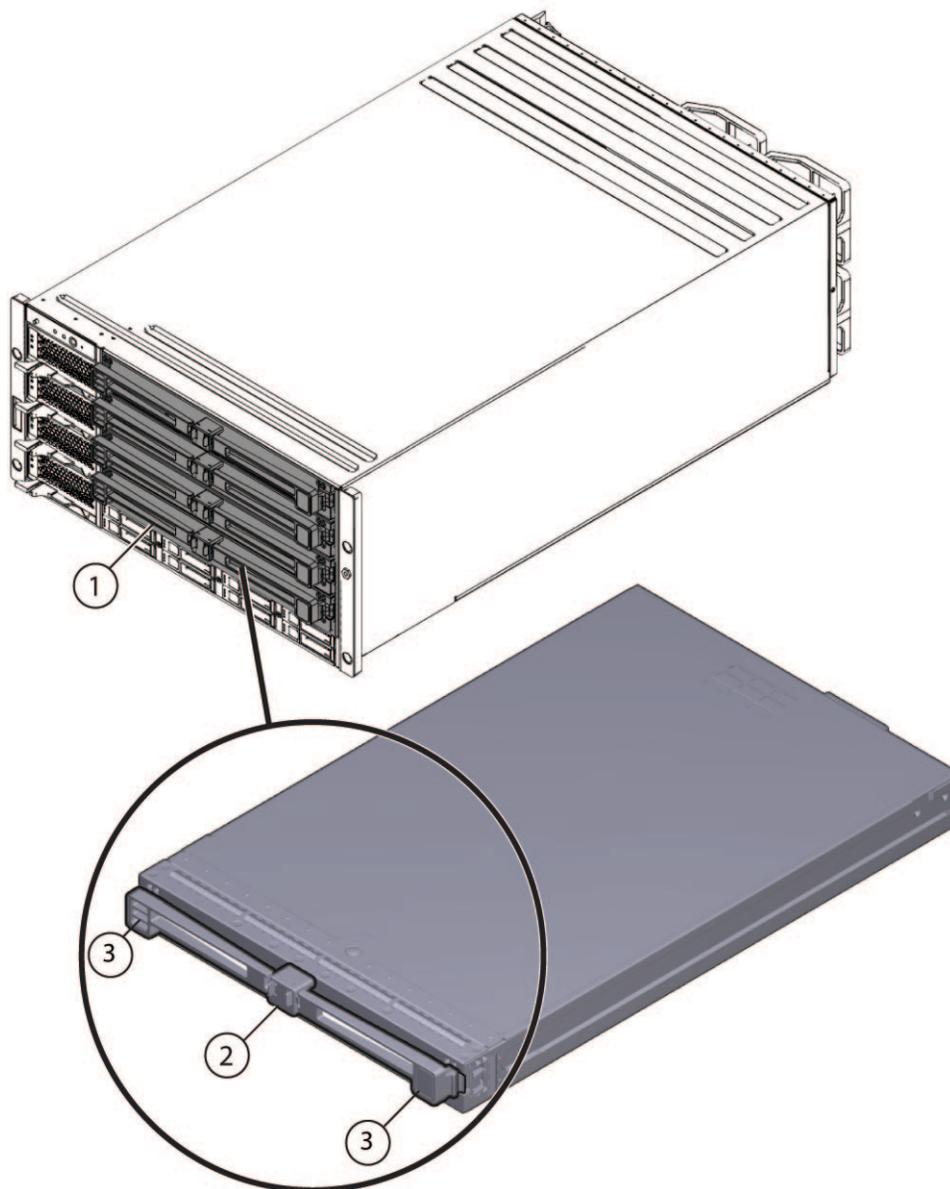
関連項目: 15 ページの「CPU モジュールおよびフィラーモジュール」

CPU モジュールおよびフィルターモジュール

CPU モジュール (CMOD) は Sun Fire X4800 M2 サーバー の処理エンジンです。各 CMOD にはプロセッサ (CPU) 2 基、メモリー、PCIe およびギガビット Ethernet 対応の I/O が含まれています。

Sun Fire X4800 M2 サーバー の CMOD ベイには、最大 4 つの CMOD を搭載できます。このサーバーでは、2 モジュール構成とフル搭載の 4 モジュール構成の 2 つの構成がサポートされます。どちらの構成でも、CMOD 0 (BL 0) がマスター CMOD になります。2 モジュール構成では、CMOD を搭載していないスロットにフィルターモジュールを使用する必要があります。CMOD とフィルターモジュールには、取り外しと取り付けに使用するレバー機構があります。レバーはロックラッチで正しい位置に固定されています。

注 - CMOD と CPU フィルターモジュールは、顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。



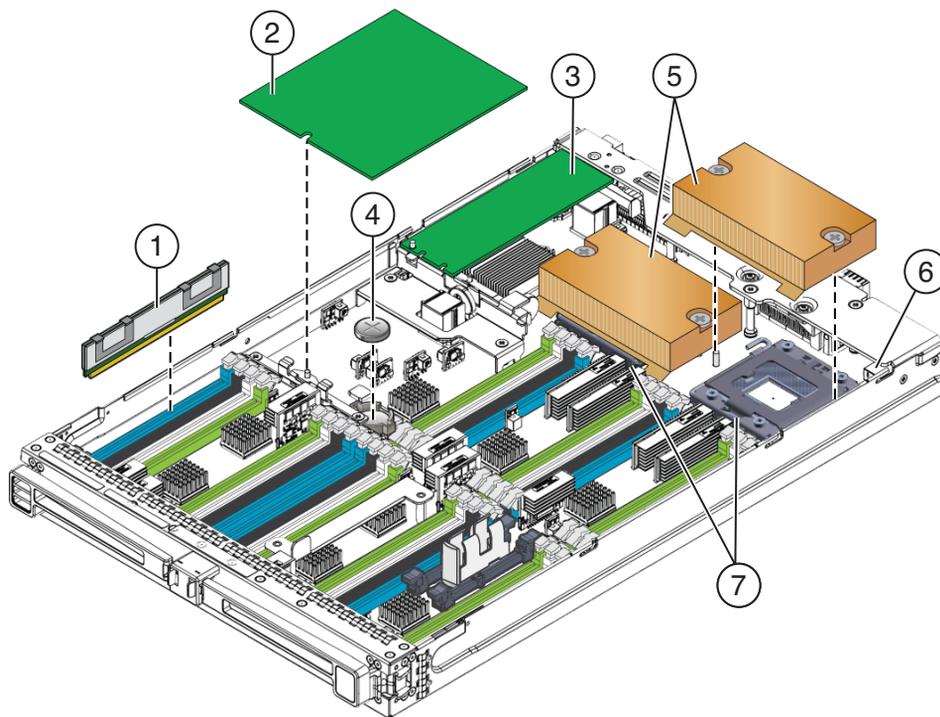
-
- | | |
|---|------------------|
| 1 | CPU モジュール (CMOD) |
| 2 | レバーのリリースラッチ |
| 3 | 5-2M 指定 |
-

参照:

- 17 ページの「CMOD 内部コンポーネント」
- 12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシの概要」
- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」

CMOD 内部コンポーネント

次の図に、CMOD の内部コンポーネントを示します。



コンポーネント	リンク
1 32 の DIMM スロット。最大 32 の DDR3-1066 MHz RDIMM (CPU あたり 16) をサポート	29 ページの「DIMM の概要」
2 SAS-2 RAID 拡張モジュール (REM)	30 ページの「RAID 拡張モジュールの概要」
3 ファブリック拡張モジュール (FEM) (FEM 0 のみ)	32 ページの「ファブリック拡張モジュールの概要」

コンポーネント	リンク
4 システムバッテリー	93 ページの「CMOD バッテリー (CRU) を交換する方法」
5 ヒートシンク (2)	33 ページの「CPU とヒートシンク構成部品の概要」
6 内蔵 USB (部分的に閉塞)	35 ページの「内蔵 USB ポートの概要」
7 Intel Xeon X75xx CPU ソケット 2 個 (CPU あたり最大 130W TDP SKU)	33 ページの「CPU とヒートシンク構成部品の概要」

CMOD 接続

CMOD 接続

USB 接続:

- フラッシュメモリースティック用の内蔵 USB ポート 1 つ (サーバーのストレージファブリックに接続)
- サーバードライブから SP モジュール KVM への USB 接続 1 つ

PCIe 接続:

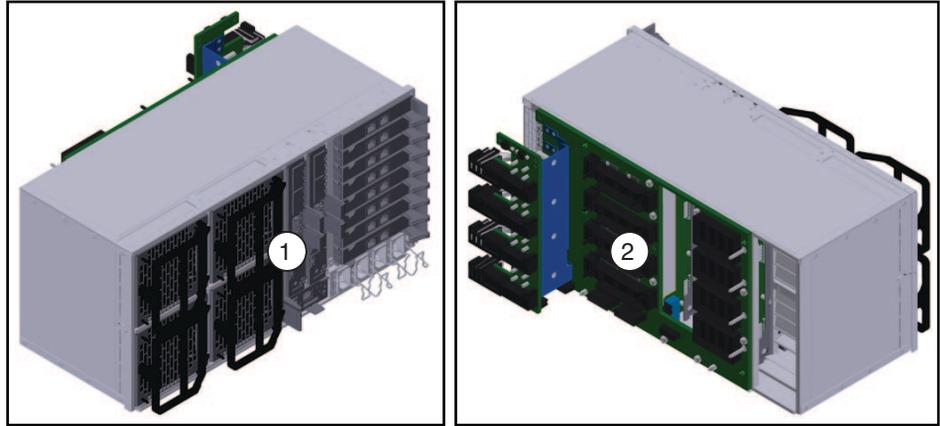
- 2 つの 8x PCIe (2.0) Express モジュール (PCIe EM) への相互接続
- 2 つのオンボード 10 GbE 10/100/1000BaseT ポートを備えた PCIe (2.0) Network Express Module (NEM) への相互接続

ギガビット Ethernet 接続:

4 つのギガビット Ethernet ポートを備えた Network Express Module (NEM) への相互接続

Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要

サブアセンブリモジュール (SAM) はシャーシ内にあり、SAM の内部前面にはミッドプレーン、SAM の背面には背面のサーバーコンポーネントが搭載されています。



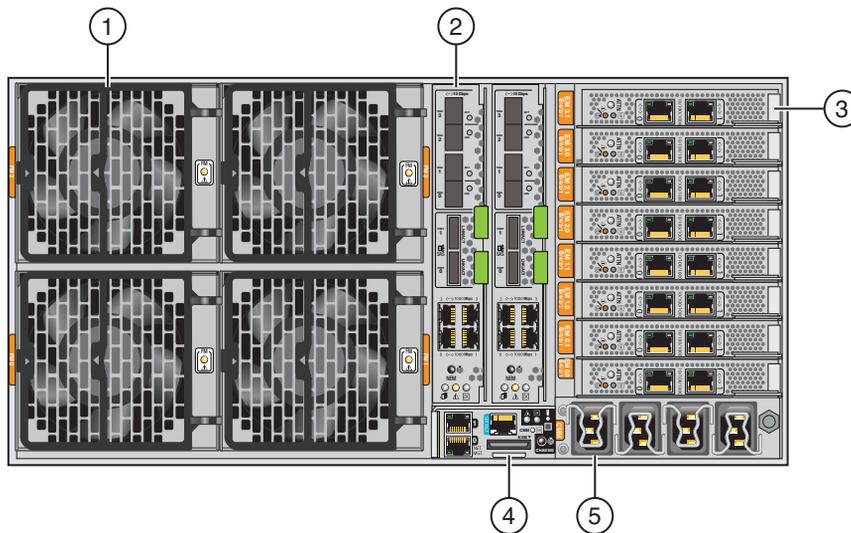
説明

1 SAMの背面

2 SAMの前面(内側)のミッドプレーンボード

SAMでは、AC電源入力と電源装置との間の相互接続が提供されます。また、バックエンドコンポーネント(EM、NEM、SP)と前面のコンポーネント(ハードドライブおよびCPUモジュール)間のミッドプレーンインターコネクトも提供されます。さらに、SAMにはCPUモジュール(CMOD)用の冷却システムが搭載されています。EM、NEM、SPモジュールの冷却は、電源装置のファンによって行われます。

注-SAMは現場交換可能ユニット(FRU)に指定されています。



アイテム	説明	概要
1	2つのファンモジュールコントローラボード (FB) によって制御される4つのホットスワップ対応ファンモジュール (FM) により、CMOD あたり最大 800 W のシャーシ冷却能力 (前面から背面への通気) を提供。	35 ページの「ファンモジュールの概要」
2	2つのホットスワップ対応 Network Express Module (NEM)。NEM あたり4つの 10/100/1000Base-T Ethernet ポート、NEM あたり4つの 10 ギガビット Ethernet SFP+; SR、LR、LRM、Twin-ax、NEM あたり2つの (サポート対象外) 4x mini SAS コネクタ (6.0 Gbps、3.0 Gbps、1.5 Gbps)。	36 ページの「Network Express Module の概要」
3	8x PCIe 5 GT/s または 2.5 GT/s を備えたホットスワップ対応 Constellation PCIe Express Module 8 個。	40 ページの「PCIe Express Module の概要」
4	2つの 10/100/1000Base-T シャーシ管理ポート、シリアルコンソールポート (RJ-45)、KVMS アクセスを提供するマルチポートケーブル用の UCP (ユニバーサルコネクタポート) を備えたホットスワップ対応 SP モジュール1個。	37 ページの「サービスプロセッサ (SP) モジュールの概要」
5	AC 電源ブロック。 ラッチ機構付き AC 電源コネクタ 4 個。	41 ページの「AC 電源ブロックの概要」

アイテム	説明	概要
	ミッドプレーンインターコネクトボード (非表示)	43 ページの「ミッドプレーンの概要」

参照:

- 12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のシャーシの概要」
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー の CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」

コンポーネントの概要

この節では、サーバーシャーシ、CMOD、サブアセンブリモジュールの各コンポーネントの概要について説明します。

注-当初サポートされていなかったコンポーネントがある場合があります。サポートされるハードウェアに関する最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

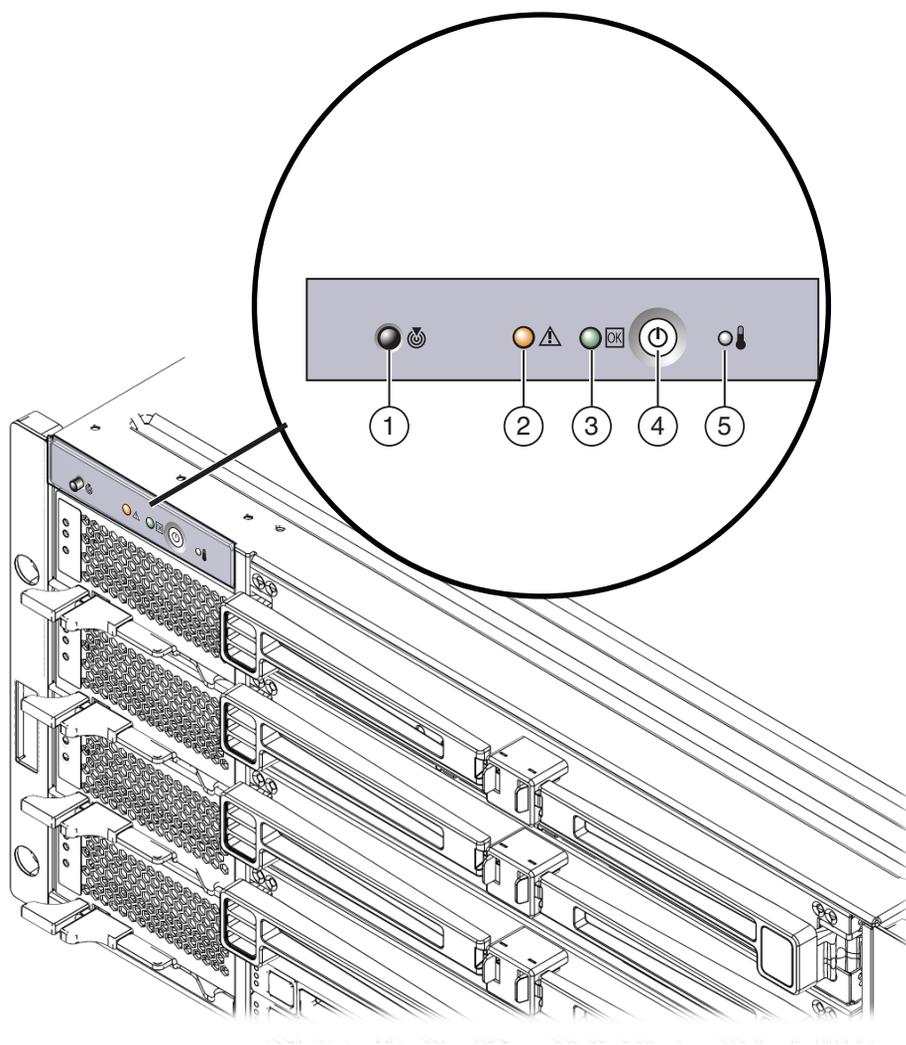
概要	
シャーシコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> ■ 22 ページの「フロントパネルのインジケータモジュールの概要」 ■ 24 ページの「電源装置の概要」 ■ 26 ページの「ハードドライブと XL ブラケット構成部品の概要」 ■ 27 ページの「ドライブバックプレーンの概要」
CPU モジュール (CMOD) コンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> ■ 29 ページの「DIMM の概要」 ■ 30 ページの「RAID 拡張モジュールの概要」 ■ 32 ページの「ファブリック拡張モジュールの概要」 ■ 33 ページの「システムバッテリーの概要」 ■ 33 ページの「CPU とヒートシンク構成部品の概要」 ■ 35 ページの「内蔵 USB ポートの概要」

概要

サブアセンブリモジュールコンポーネント	<ul style="list-style-type: none">■ 35 ページの「ファンモジュールの概要」■ 36 ページの「Network Express Module の概要」■ 37 ページの「サービスプロセッサ (SP) モジュールの概要」■ 39 ページの「SP モジュールマルチポートケーブルの概要」■ 40 ページの「PCIe Express Module の概要」■ 41 ページの「AC 電源ブロックの概要」■ 42 ページの「ファンモジュールコントローラボード (FB) の概要」■ 43 ページの「ミッドプレーンの概要」
取り外しおよび取り付けレバー	44 ページの「コンポーネントの取り外しおよび取り付けレバー」

フロントパネルのインジケータモジュールの概要

インジケータモジュールは、シャーシのフロントパネルにあります。フロントパネルを使用して、サーバーの電源オンとオフおよびサーバーの動作状態を判断します。



説明

- | | | | |
|---|---------------|---|---------------|
| 1 | 位置特定 LED ボタン | 2 | 保守要求 (障害) LED |
| 3 | OK (電源状態) LED | 4 | 電源ボタン |
| 5 | 異常な温度上昇 LED | | |

参照:

- 12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシの概要」
- 181 ページの「フロントインジケータパネルの LED」

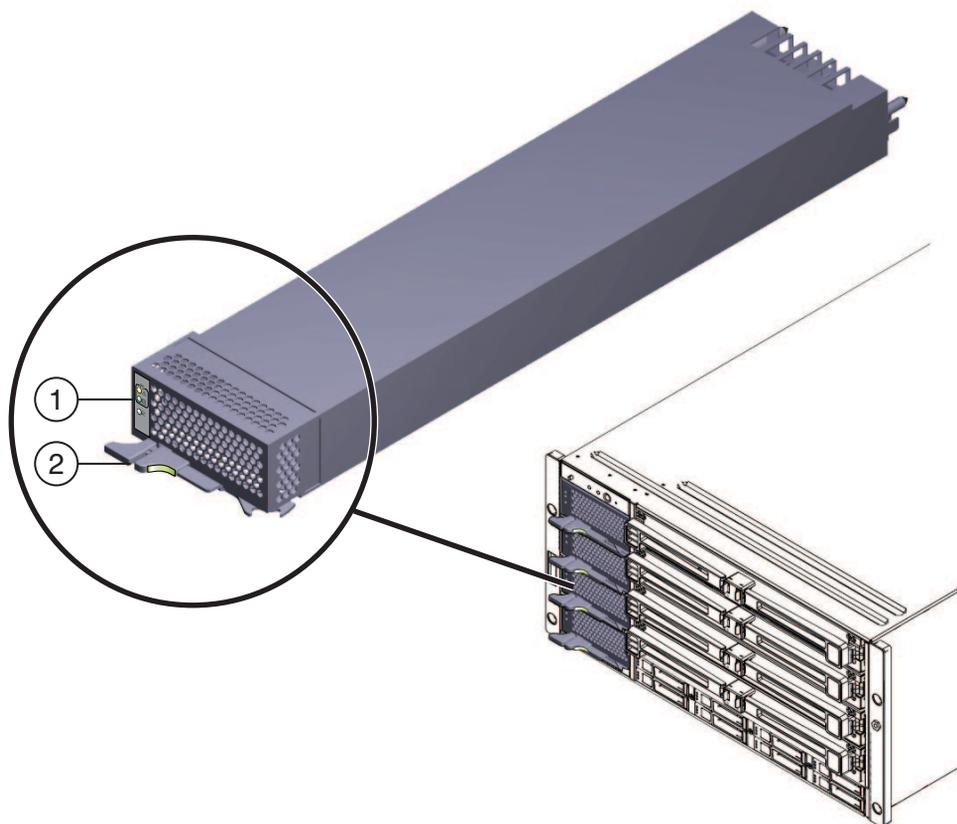
- 47 ページの「電源およびリセット」

電源装置の概要

Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシには、ホットスワップ対応 2000W の負荷分散電源装置を最大 4 台搭載できます。この構成により 2+2 の電源の冗長性が提供されます。サーバーを動作させるには 2 台の電源装置が必要です。電源装置のファンは、PCIe EM と NEM の冷却を補助します。電源装置の通気は、前面から背面です。I/O を適切に冷却するには、4 台すべての電源装置を取り付けることをお勧めします。

各電源装置には、電源の状態を報告する LED パネルと、コンポーネントの取り外しと取り付けを補助するロックレバーがあります。電源装置がない場合には、前面と背面の保守要求 LED が点灯します。電源装置の AC 電源コネクタの差し込み口は、AC 電源ブロックのサブアセンブリモジュール上のサーバー背面にあります。サーバーに 4 台の電源装置を搭載している場合 (推奨構成)、2 つの別々の回路から AC 電源を取得する必要があります。

注 - 電源装置は顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。



説明

1	LED インジケータパネル	2	ロックレバー
---	---------------	---	--------

参照:

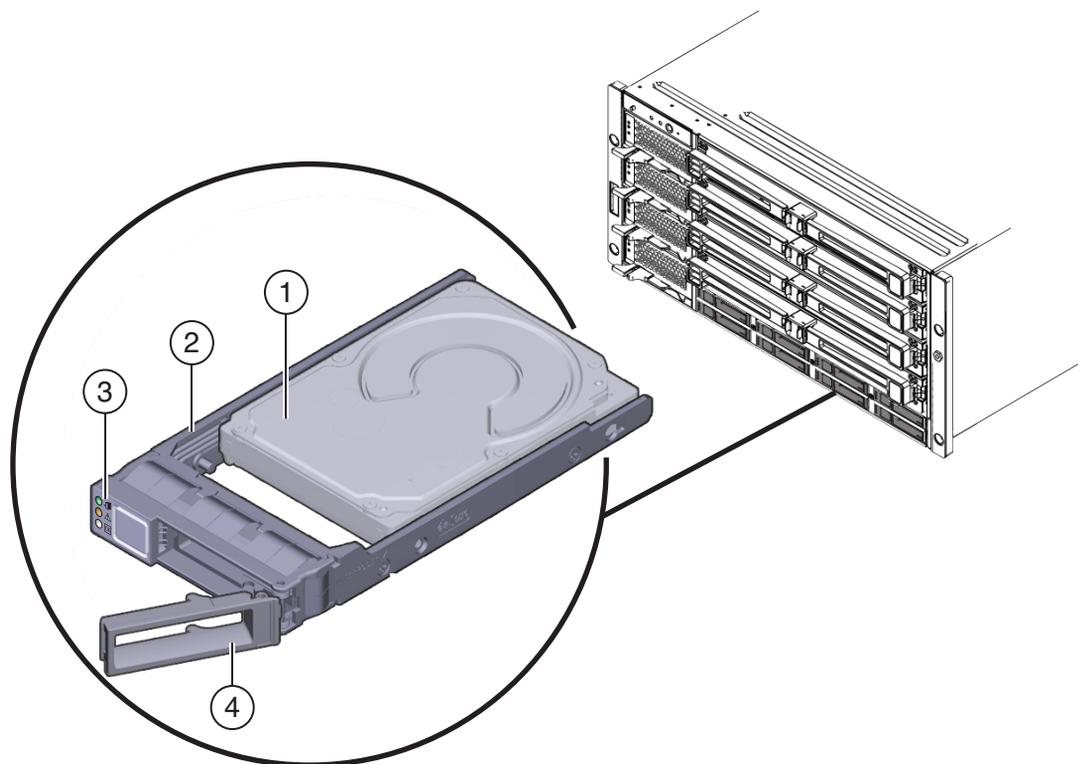
- 12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシの概要」
- 184 ページの「フロントパネル電源装置のLED」
- 41 ページの「AC 電源ブロックの概要」
- 61 ページの「電源装置 (CRU) の取り外しと取り付け」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

ハードドライブとXLブラケット構成部品の概要

注-ハードウェアおよびソフトウェアのサポートに関する最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

ハードドライブとブラケット構成部品は、サーバー前面のシャーシ内にあります。Sun Fire X4800 M2 サーバーのドライブベイでは、最大8台のSAS-2ドライブをサポートできます。各ドライブはXLブラケット内にマウントする必要があります(XLブラケットは標準サイズのHDブラケットよりも長くなっています)。XLブラケットには状態インジケータパネルとドライブの取り外しを補助するレバーがあります。サーバーの冷却システムの完全性を維持するため、HDを搭載していないドライブスロットにはハードドライブフィルターを設置する必要があります。Sun Fire X4800 M2サーバーのベースシステムによって、最大構成のドライブに十分な電力が供給されます。

注-ドライブは顧客交換可能ユニット(CRU)に指定されています。



説明

1	ハードドライブ	2	ドライブブラケット
3	インジケータパネル	4	レバー

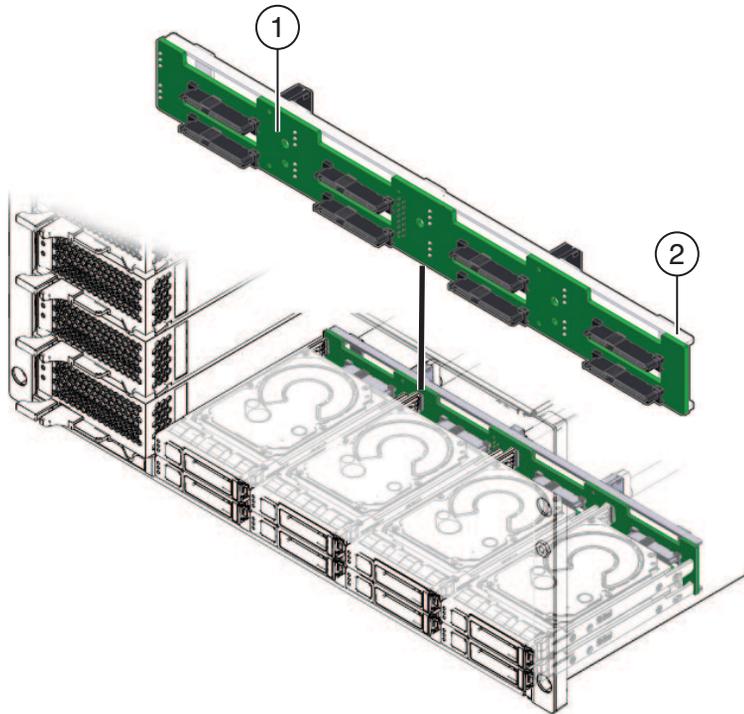
参照:

- 12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のシャーシの概要」
- 185 ページの「フロントパネルハードドライブの LED」
- 66 ページの「ハードドライブ (CRU) の取り外しと取り付け」
- 71 ページの「ハードドライブフィルターの取り外しと取り付け」
- 27 ページの「ドライブバックプレーンの概要」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

ドライブバックプレーンの概要

Sun Fire X4800 M2 サーバー のドライブバックプレーンによって、ドライブベイからミッドプレーン、最終的には CPU モジュール (CMOD) と背面のサーバーコンポーネントへの信号相互接続が提供されます。

注- ドライブバックプレーンは現場交換可能ユニット (FRU) に指定されています。



説明

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | ドライブバックプレーンボード |
| 2 | ドライブバックプレーンのサポートブラケット |

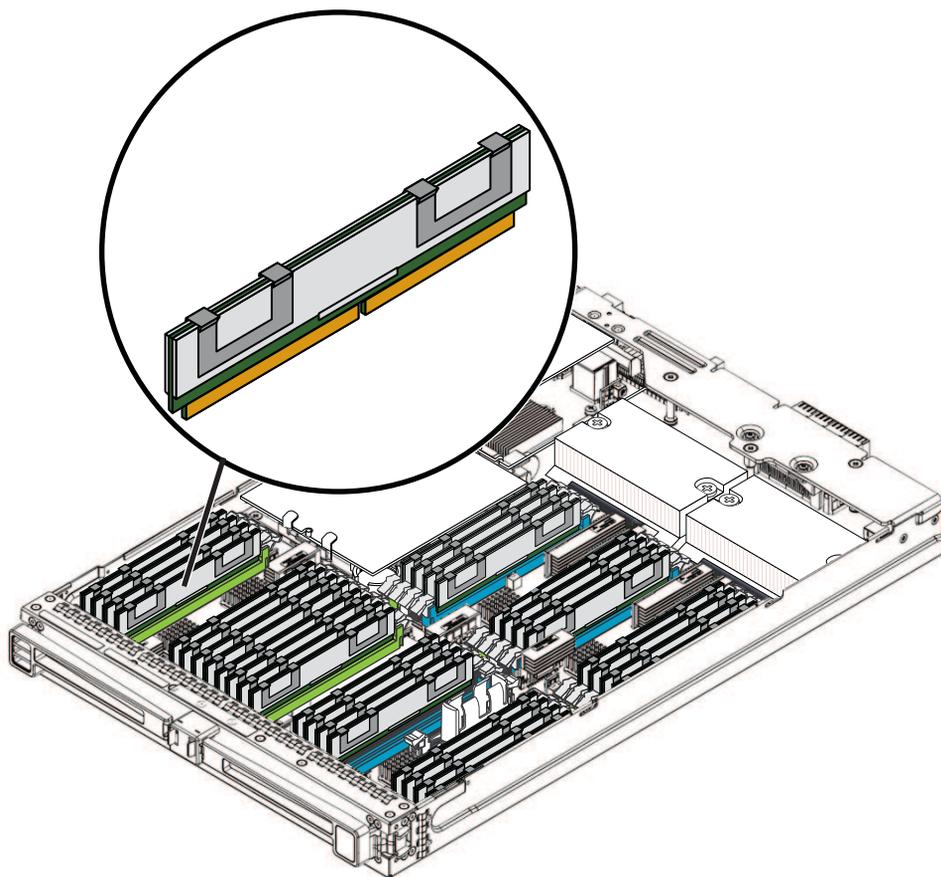
参照:

- 12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシの概要」
- 43 ページの「ミッドプレーンの概要」
- 74 ページの「ハードドライブバックプレーン (FRU) の交換」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

DIMM の概要

注-ハードウェアおよびソフトウェアのサポートに関する最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

各 CPU モジュール (CMOD) は最大 32 個の DDR3-1066 MHz RDIMM (CPU あたり 16 個の DIMM) をサポートできます。



サポートされる DIMM のサイズと周波数

2 GB DDR3 1066 MHz

4 GB DDR3 1066 MHz

サポートされる DIMM のサイズと周波数

8 GB DDR3 1066 MHz

注 - DIMM は顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。

参照:

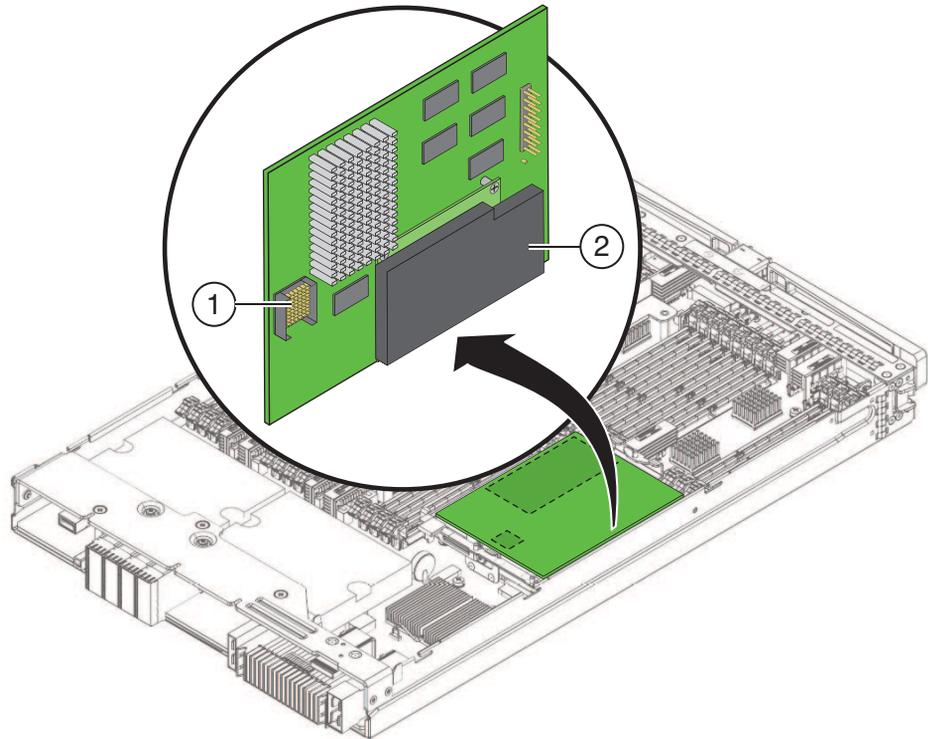
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
- 96 ページの「DIMM (CRU) の取り外しと取り付け」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

RAID 拡張モジュールの概要

注 - 当初サポートされていなかったコンポーネントまたは機能がある場合があります。サポートされるハードウェアに関する最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

サーバーのストレージファブリックに接続するため、Sun Fire X4800 M2 サーバーのオンボードストレージ機能には、6 Gb/秒のバッテリバック式 SAS-2 RAID 拡張モジュール (REM) HBA のサポートが含まれています。これは CPU モジュール 0 (CMOD 0) でサポートされます。

注 - REM は顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。



説明

- | | |
|---|-------|
| 1 | コネクタ |
| 2 | バッテリー |
-

参照:

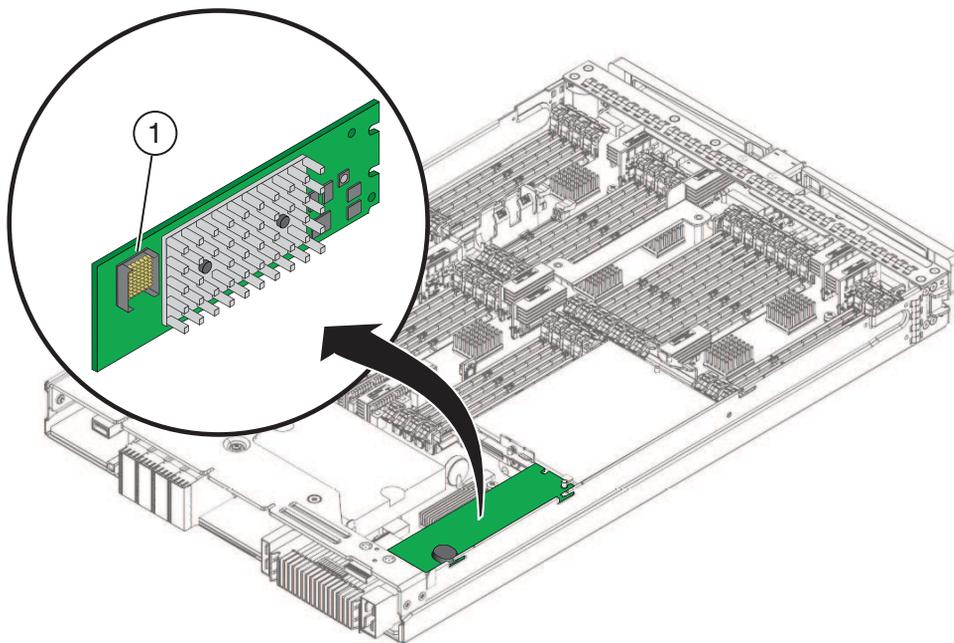
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
- 101 ページの「RAID 拡張モジュール (CRU) の取り外しと取り付け」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

ファブリック拡張モジュールの概要

注-当初サポートされていなかったコンポーネントまたは機能がある場合があります。サポートされるハードウェアに関する最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールでは、スロット 0 でのみファブリック拡張モジュール (FEM) を 1 つサポートできます。

注-FEM は顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。

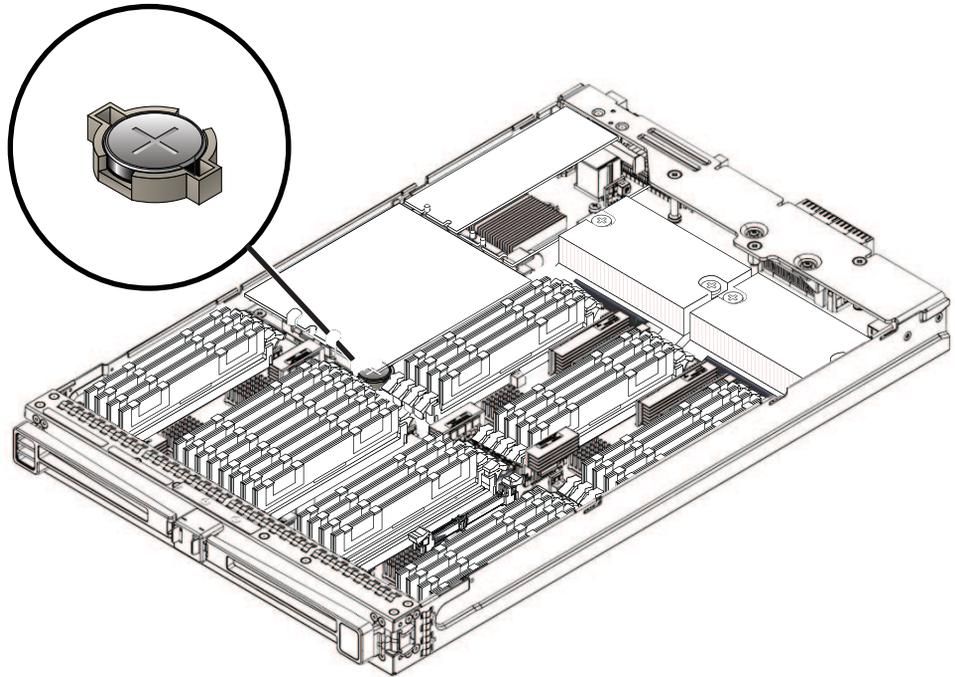


参照:

- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
- 104 ページの「ファブリック拡張モジュール (CRU) の取り外しと取り付け」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

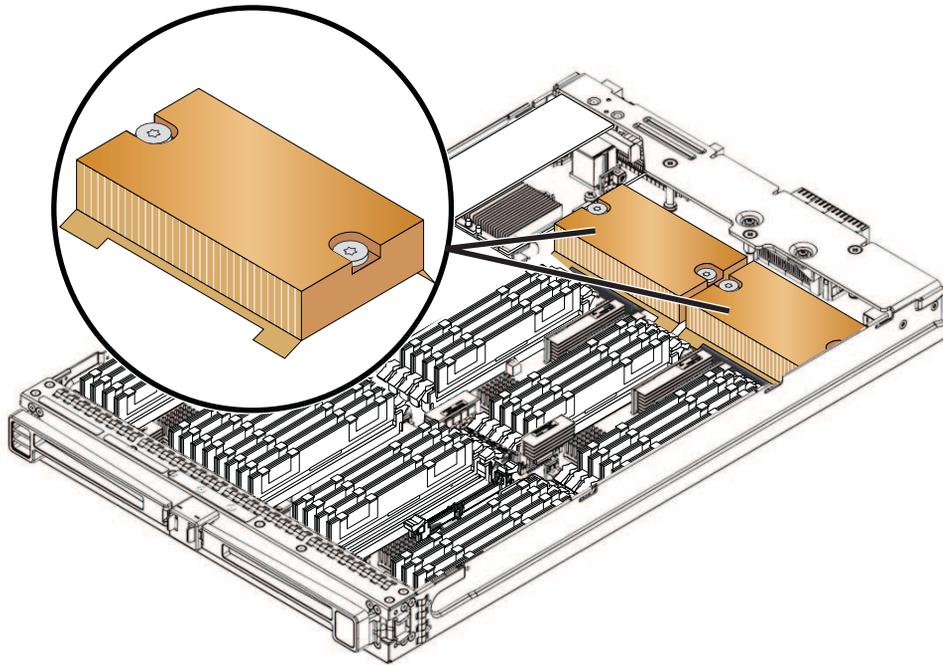
システムバッテリーの概要

システムバッテリーは、マザーボード上にあります。REMが取り付けられている場合は、バッテリーにアクセスするためにREMを取り外す必要があります。バッテリータイプはCR2032です。



CPUとヒートシンク構成部品の概要

Sun Fire X4800 M2 サーバーの各CPUモジュール(CMOD)には、8コアまたは6コアのIntel XeonモデルのCPUを2つ搭載できます。各CPUはパッシブヒートシンクとペアになっています。CPUとヒートシンク構成部品は、サーバー背面にあるサブアセンブリモジュール(SAM)内の4つのファンモジュール(FM)から供給される前面から背面への通気により冷却されます。



サポートされる Intel Xeon CPU

Intel Xeon X7560 (2.26 GHz、8 コア、130 W) プロセッサ

Intel Xeon X7550 (2.00 GHz、8 コア、130 W) プロセッサ

Intel Xeon E7540 (2.00 GHz、6 コア、105 W) プロセッサ

Intel Xeon X7542 (2.6 GHz、6 コア) プロセッサ

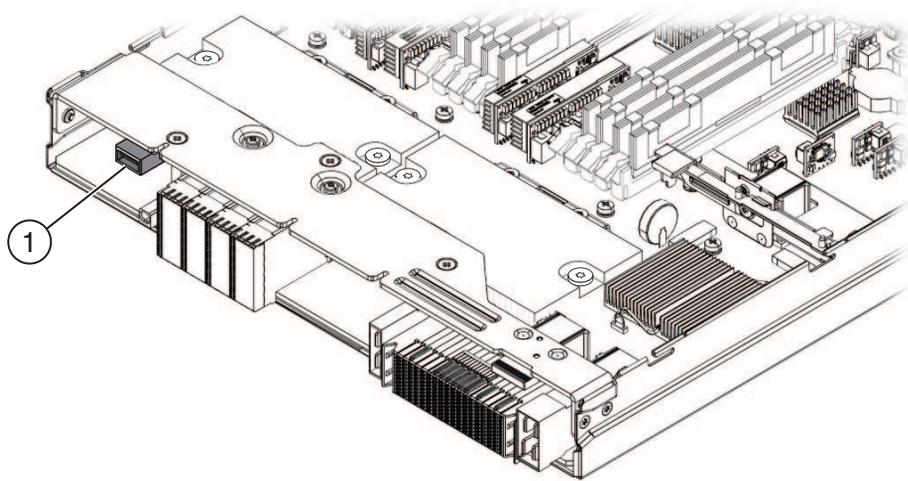
注 - CPU とヒートシンク構成部品は現場交換可能ユニット (FRU) に指定されています。

参照:

- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
- 107 ページの「CPU とヒートシンク構成部品 (FRU) の交換」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

内蔵 USB ポートの概要

Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュール (CMOD) には、内蔵 USB ポートが 1 つあります。これはサポートされるオペレーティングシステムを起動させるために使用できます (CMOD 0/BL0 でのみサポート)。



説明

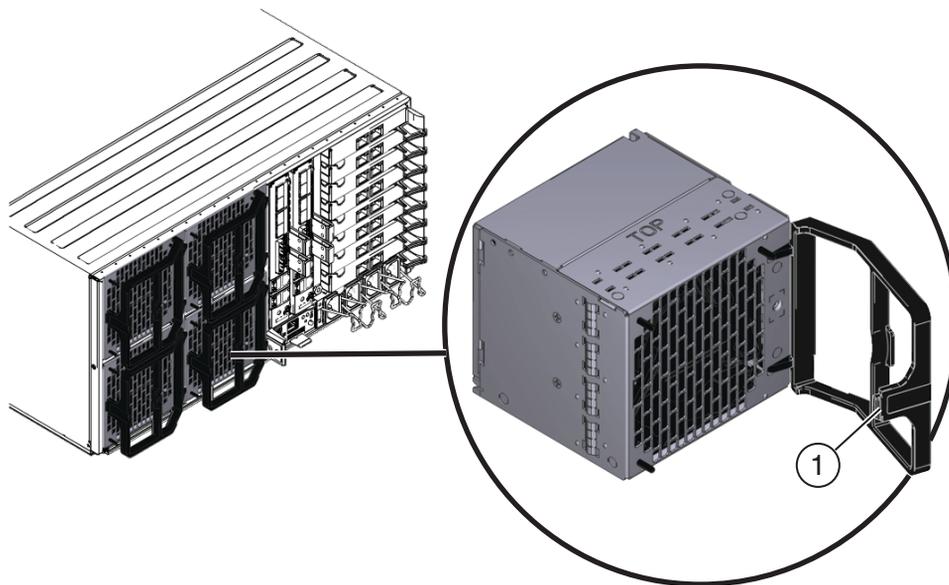
1 内蔵 USB ポート

関連項目: [14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」](#)

ファンモジュールの概要

4つのファンモジュール (FM) では、サーバーの外部からの吸気により CPU モジュール (CMOD) が冷却されます。FM ではホットスワップ対応、および N+1 冗長が提供されます。電源装置のファンによりさらにサーバーが冷却されます。

注 - FM は顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。



説明

- 1 ハンドルとロックラッチ
-

参照:

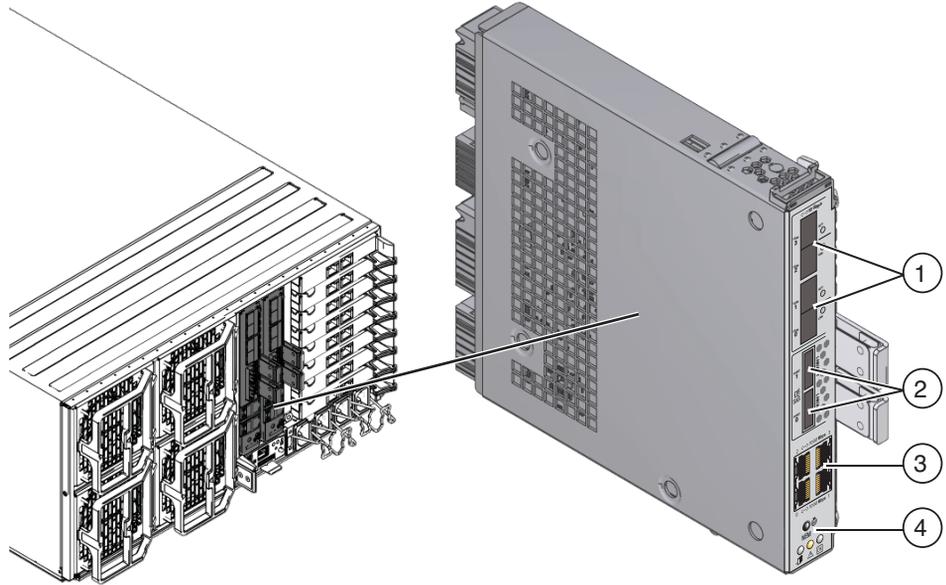
- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」
- 114 ページの「ファンモジュール (CRU) の取り外しと取り付け」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

Network Express Module の概要

注-当初サポートされていなかったコンポーネントまたは機能がある場合があります。サポートされるハードウェアに関する最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

Network Express Module (NEM) ではサーバーのネットワーク接続オプションが提供されます。NEM には、4つの 10 ギガビット Ethernet ポートと 4つの 10/100/1000Base-T ポートに加え、インジケータパネルがあります。

注 - Network Express Module は顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。



説明

- | | | | |
|---|------------------------------------|---|----------------------------|
| 1 | 10G ビットの Ethernet ポート (4) | 2 | Mini SAS-2 ポート (2) (非サポート) |
| 3 | 10/100/1000Base-T Ethernet ポート (4) | 4 | インジケータパネル |

参照:

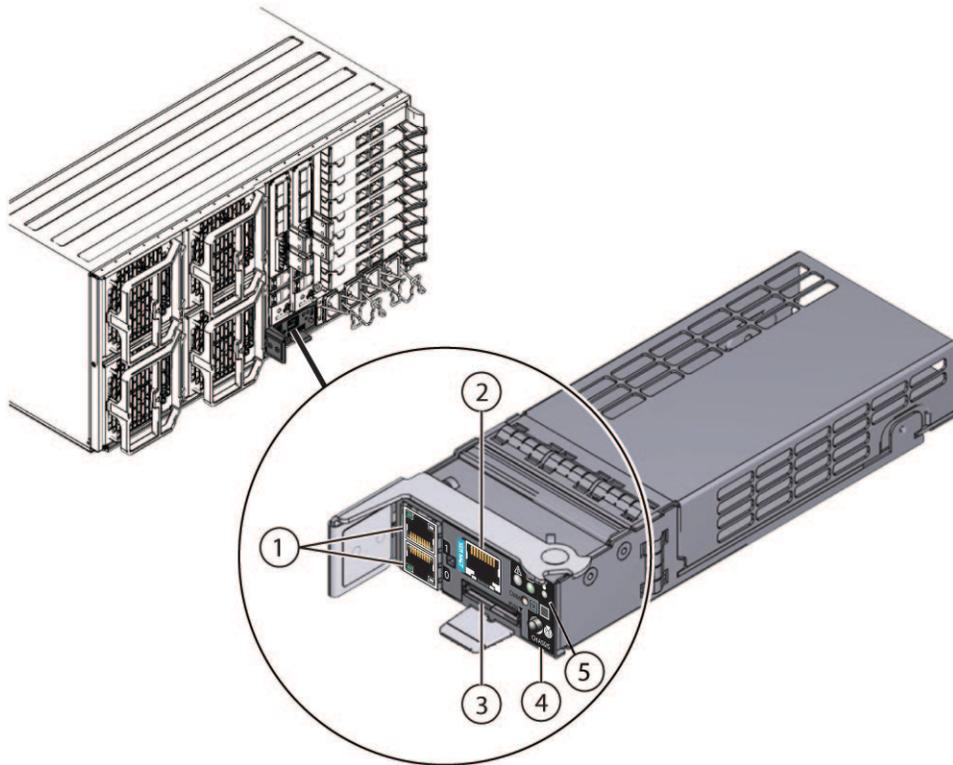
- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」
- 122 ページの「NEM または NEM フィラー (CRU) の取り外しと取り付け」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

サービスプロセッサ (SP) モジュールの概要

サービスプロセッサ (SP) モジュールでは、SP モジュールにある Oracle Integrated Lights Out Management (ILOM) を使用して、サーバーコンポーネントを監視するための集合ポイントを提供することで、サーバー全体の Lights-Out 管理が確実に行われま

す。SP モジュールでは、10/100/1000Base-T 管理 (NET MGT) ポート、RJ-45 シリアルポート、マルチポートケーブル用のユニバーサルコネクタポート (UCP) を含む単一の管理接続パネルを提供することで、ケーブル配線を減らします。SP モジュールには、シャーシの状態表示 LED と 1280 x 1024 のビデオ解像度 (最大) と 8M バイトのビデオメモリーも含まれます。

注 - SP モジュールは顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。



説明

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1 10/100/1000Base-T NET MGT
ポート (2) (NET MGT ポート 1
は使用しない) | 2 RJ-45 (シリアル) SER MGT コンソールポート |
| 3 ユニバーサルコネクタポート | 4 シャーシのインジケータパネル
(UCP) |

説明

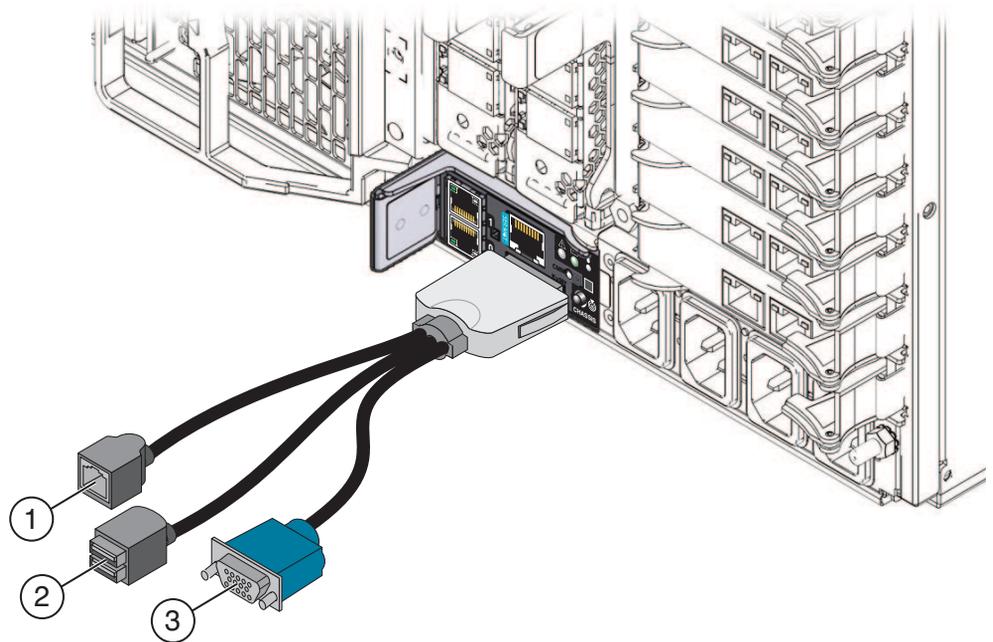
5 SP 状態インジケータパネル

参照:

- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のサブアセンブリモジュールの概要」
- 131 ページの「サービスプロセッサモジュール (CRU) の取り外しと取り付け」
- 39 ページの「SP モジュールマルチポートケーブルの概要」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

SP モジュールマルチポートケーブルの概要

マルチポートケーブルは、サーバー背面にある SP モジュールの UCP (ユニバーサルコネクタポート) に接続します。ケーブルを接続することで Oracle ILOM へのローカルアクセスが可能になります。



説明

- | | |
|---|---------------|
| 1 | RJ-45 シリアルポート |
| 2 | USB ポート (2) |

説明

3 ビデオポート

参照:

- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のサブアセンブリモジュールの概要」
- 37 ページの「サービスプロセッサ (SP) モジュールの概要」

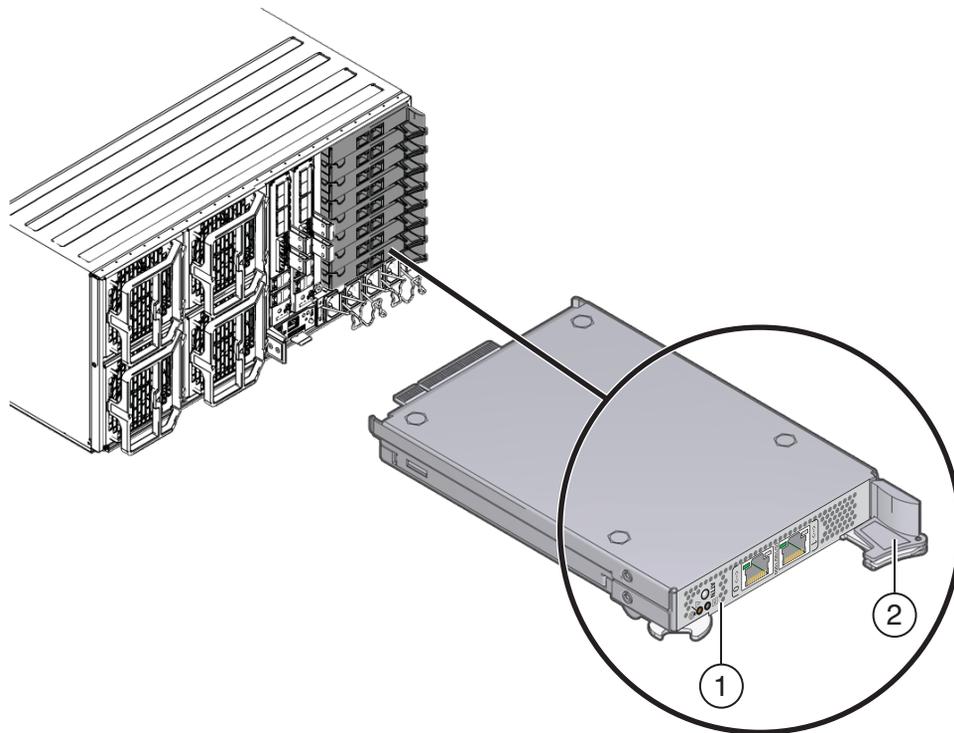
PCIe Express Module の概要

注 - 当初サポートされていなかったコンポーネントまたは機能がある場合があります。サポートされるハードウェアに関する最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

Sun Fire X4800 M2 サーバー には 8 つの PCIe EM スロットがあります。PCIe EM には、取り外しと取り付けに使用するレバー機構があります。レバーはリリースラッチで正しい位置に固定されています。

注 - PCIe Express Module は顧客交換可能ユニット (CRU) に指定されています。

注 - このトピックの PCIe EM の図は、サーバーで提供されているモデルによっては異なる場合があります。



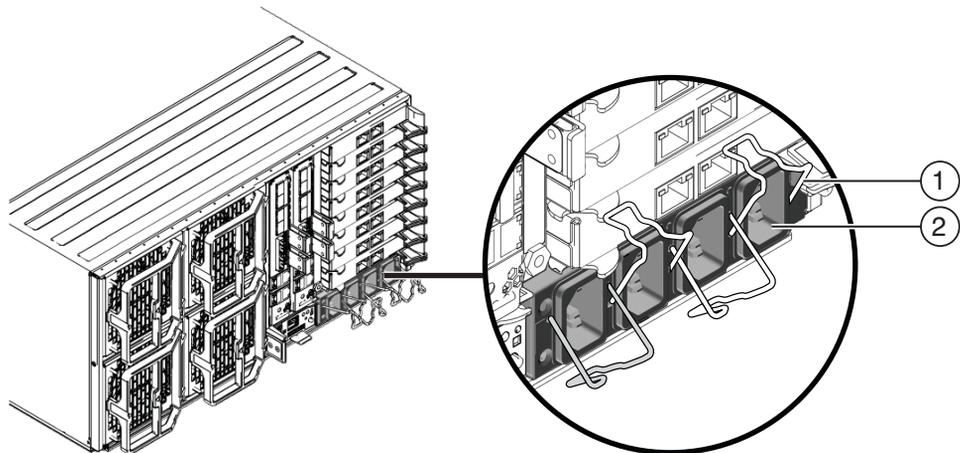
説明

- 1 インジケータパネル
- 2 ロックレバーとリリースラッチ

参照:

- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のサブアセンブリモジュールの概要」
- 127 ページの「PCIe EM (CRU) の取り外しと取り付け」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

AC電源ブロックの概要



説明

1 固定クリップ (4)

2 AC電源差し込み口 (4)

各 AC 入力コネクタでは、マシンの前面にある電源スロットの1つに電力が供給されます。入力コネクタは左から右に指定されています。左端のコネクタは0に指定されており、電源スロット0(サーバー前面の一番下のスロット)に電力が供給されます。右端のコネクタは3に指定されており、電源スロット3(サーバー前面の一番上のスロット)に電力を供給します。次の表に、電源スロットと AC 入力コネクタとの関係を示します。

電源スロット (下から上)	PS0	PS1	PS2	PS3
AC 入力コネクタ (左から右)	AC0	AC1	AC2	AC3

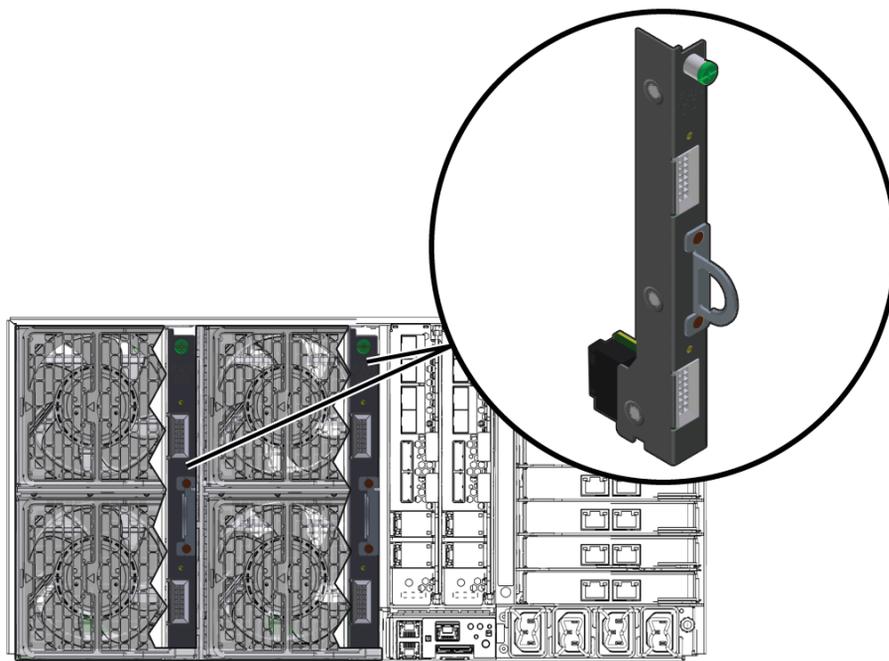
参照:

- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」
- 24 ページの「電源装置の概要」

ファンモジュールコントローラボード (FB) の概要

サーバーには2つのファンモジュールコントローラボードがあります。各FBは2つのファンモジュール (FM) を制御します。ファンモジュールコントローラボードは背面のサーバーコンポーネントであり、ファンモジュール背面のSAMに搭載されています。

注 - FB は現場交換可能ユニット (FRU) に指定されています。



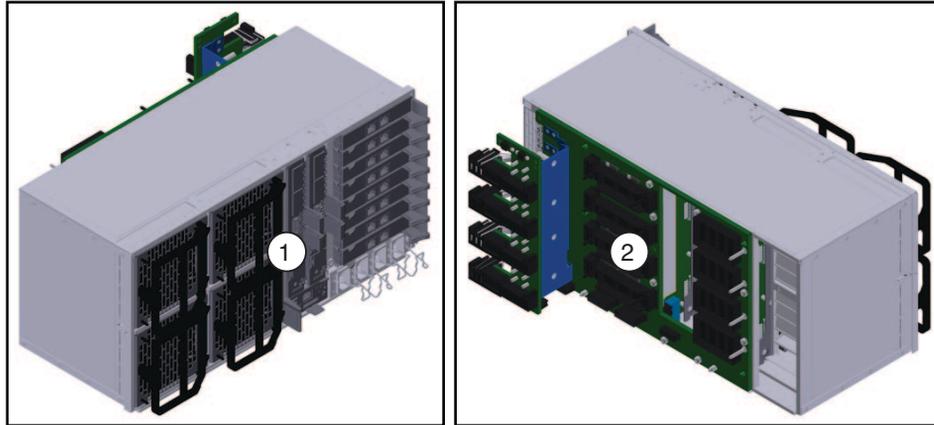
参照:

- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」
- 35 ページの「ファンモジュールの概要」
- 118 ページの「ファンモジュールコントローラボード (FRU) の交換」.
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

ミッドプレーンの概要

Sun Fire X4800 M2 サーバーのミッドプレーンは、サブアセンブリモジュール (SAM) の内側 (前面) にあり、SAM を取り外さないとアクセスできません。ミッドプレーンでは、電力、および背面のサーバーコンポーネントとフロントエンドのサーバーコンポーネント間の信号相互接続が提供されます。ミッドプレーンと SAM は単一のユニットとみなされています。そのため、ミッドプレーンを交換するには、SAM を交換する必要があります。

注 - SAM は現場交換可能ユニット (FRU) に指定されています。



説明

- 1 バックエンドのサーバーコンポーネントを示す SAM の背面 (外側)。
- 2 ミッドプレーンのインターコネクトボードを示す SAM の前面 (内側)。

参照:

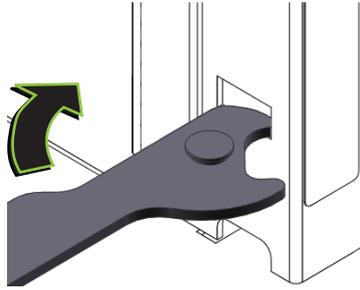
- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」

コンポーネントの取り外しおよび取り付けレバー

Sun Fire X4800 サーバーの多くのコンポーネントには、取り付けおよび取り外しレバーが使用されています。これらのレバーにより、コンポーネントを内部コネクタから取り外すための十分な力をかけることができます。また、手で簡単に取り外しができるように、コンポーネントとサーバー間のすき間を確保することができます。

さらに、コンポーネントのコネクタと内部コネクタを正しく接続できるように均等に分散された力をかけることにより、コンポーネントの取り付けに役立ちます。

レバーの先端にある爪を使用することによって力がかけられます。てこ作用点では、爪は側面のスロットにかける必要があります。次の図に、サーバーで使用される種類のレバーと爪の例を示します。



電源およびリセット

この節では、Sun Fire X4800 M2 サーバーの電源に関する次のトピックについて説明します。

- 47 ページの「電源モード」
- 48 ページの「電源ボタンおよび電源 OK LED」
- 48 ページの「サーバーに電源を投入する方法」
- 49 ページの「サーバーの電源を切断する方法」
- 50 ページの「サーバー電源の遠隔制御」

電源モード

Sun Fire X4800 M2 サーバーには、全電力モードとスタンバイ電源モードの2つの電源モードがあります。

全電力モードは、サーバーの通常の操作モードです。サーバーが全電力モードに入ると、電源はすべてのサーバーコンポーネントに供給され、サーバーが起動し、オペレーティングシステム (OS) が機能します。サーバーがスタンバイ電源モードの場合に、サーバー前面の電源ボタンを押すと、全電力モードを利用できます。サーバーが全電力モードで動作すると、電源 OK LED が点灯したままになります (点滅しません)。

スタンバイ電源は非動作モードです。非動作モードでは SP の実行に必要なコンポーネントに最小限の電力が供給されますが、OS はブートまたは起動されません。

スタンバイ電源モードに切り替えるには、AC 電源コードを使用してサーバーを AC 電源に接続しますが、前面の電源ボタンは押しません。電源切断方法のいずれかを使用して操作モードからサーバーの電源を切断することにより、スタンバイ電源モードに切り替えることもできます。

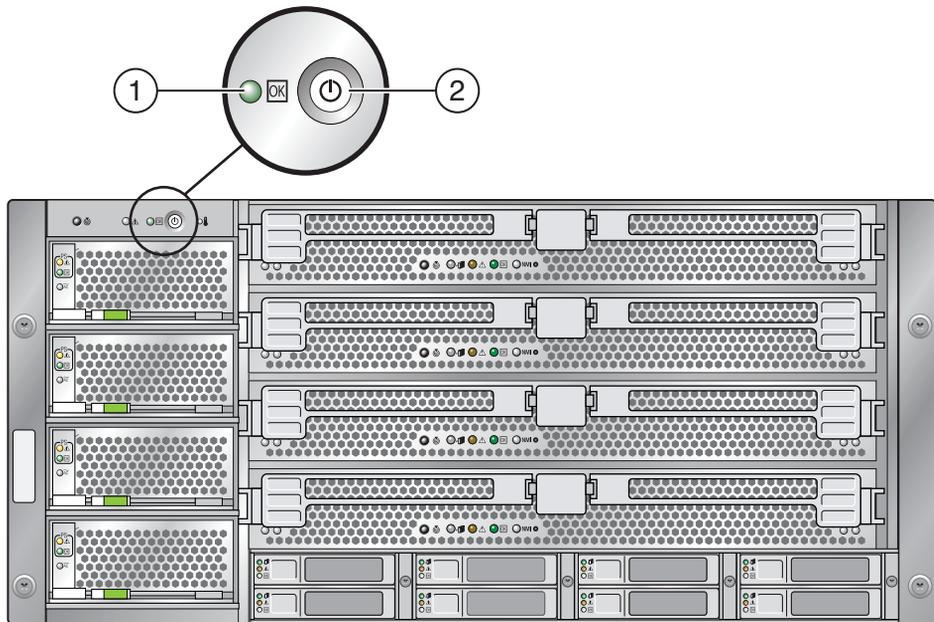
スタンバイ電源モードでは、SP の起動時に前面の電源 LED がすばやく点滅し、SP の起動が完了するとゆっくり点滅します。SP が CMOD を初期化中は、各 CPU モジュール (CMOD) の OK LED が点滅し、初期化が完了すると点灯します。

参照:

- 48 ページの「電源ボタンおよび電源 OK LED」

- 48 ページの「サーバーに電源を投入する方法」
- 49 ページの「サーバーの電源を切断する方法」
- 50 ページの「サーバー電源の遠隔制御」

電源ボタンおよび電源 OKLED



説明

- 1 電源 OK LED
- 2 電源ボタン

関連項目:

- 184 ページの「フロントパネル電源装置の LED」
- 48 ページの「サーバーに電源を投入する方法」
- 49 ページの「サーバーの電源を切断する方法」

▼ サーバーに電源を投入する方法

次の手順では、サーバーの電源を投入して、スタンバイ電源モードから全電力モードに移行する方法について説明します。

- 1 サーバーの電源装置が AC 電源に接続され、サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
サーバーがスタンバイ電源モードの場合は、フロントパネルの電源 OK LED が点滅します。
- 2 サーバーに電源を投入して全電力モードに移行するには、電源ボタンを押します。
これにより、全電力がサーバーに供給されます。オペレーティングシステムに対してサーバーが起動します。

- 参照
- 48 ページの「電源ボタンおよび電源 OK LED」
 - 47 ページの「電源モード」
 - 50 ページの「サーバー電源の遠隔制御」
 - 49 ページの「サーバーの電源を切断する方法」

▼ サーバーの電源を切断する方法

- 1 サーバーの電源を正常に切断して全電力モードからスタンバイ電源モードに移行するには、次のいずれかの方法を使用します。
 - 使用するサーバーで実行している OS のオペレーティングシステム固有のシャットダウン手順を使用します。ほとんどのオペレーティングシステムには、シャットダウン手順があります。このシャットダウン手順を使用すると OS を正常にシャットダウンできるので、サーバーの電源を切断するときはまず最初にこの方法を使用する必要があります。
 - Oracle ILOM Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使用します。50 ページの「サーバー電源の遠隔制御」を参照してください。
 - 電源ボタンを使用し、サーバーの電源を正常に切断して主電源モードからスタンバイ電源モードに移行するには、フロントパネルの電源ボタンをすばやく押して放します。



注意-データが失われる可能性があります。電源ボタンを押して離すと、Advanced Configuration and Power Interface (ACPI) が有効なオペレーティングシステムの場合は、オペレーティングシステムが正常にシャットダウンします。ACPI が有効なオペレーティングシステムを実行していないサーバーの場合は、スタンバイ電源モードに対して緊急停止を実行します。

主電源が切断され、サーバーがスタンバイ電源モードの場合、フロントパネルの電源 OK LED が点滅し、スタンバイ電源モードが使用可能であることを示します。

注-サーバーがスタンバイ電源モードの場合でも、一部のコンポーネントに電源が供給されます。サーバーの電源を完全に切断するには、サーバーの背面パネルから AC 電源コードを取り外します。

- 2 サーバー電源の緊急停止を実行するには、電源ボタンを数秒間押し続け、強制的に主電源を切断します。
サーバーがスタンバイ電源モードに入ります。



注意-データ損失が生じる可能性があります。電源ボタンを数秒間押し続けると、サーバーの即時停止が実行されます。システムからの確認のプロンプトは表示されません。また、開いているアプリケーションを保存して終了することもできません。

- 参照
- [47 ページの「電源モード」](#)
 - [50 ページの「サーバー電源の遠隔制御」](#)
 - [48 ページの「サーバーに電源を投入する方法」](#)
 - [57 ページの「サービスの準備を行う方法」](#)

サーバー電源の遠隔制御

- [50 ページの「Oracle ILOM コマンド行インタフェースを使用して電源を制御する方法」](#)
- [51 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースを使用して電源を制御する方法」](#)
- [52 ページの「IPMITool を使用して電源を制御する方法」](#)

▼ Oracle ILOM コマンド行インタフェースを使用して電源を制御する方法

コマンド行インタフェース (CLI) には、SSH を使用して遠隔からアクセスしたり、シリアルコンソールポートとマルチポートケーブルを使用してローカルでアクセスしたりできます。

- 始める前に
- この手順では、コマンド行インタフェース (CLI) を使用したサーバーへのアクセスを設定していることを想定しています。CLI の接続手順については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 補足マニュアル Sun Fire X4800 M2 サーバー』を参照してください。
 - コマンドと ILOM CLI に関する一般情報については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 日常的な管理 CLI 手順ガイド』を参照してください。このガイドは、Sun Fire X4800 M2 サーバーのドキュメントとともにオンラインで入手できます。

- 1 **Oracle ILOM SP CLI** にログインします。
CLI プロンプトが表示されます。
->
- 2 次のいずれかのコマンドを入力します。
-> **start /SYS** (電源を投入して全電力モードにする)
-> **stop /SYS** (電源を正常に切断してスタンバイ電源モードにする)
-> **stop -f /SYS** (電源を即時切断してスタンバイ電源モードにする)
-> **reset /SYS** (即時に再起動する)
- 3 **CLI** を終了するには、次のように入力します。
-> **exit**

- 参照
- 53 ページの「サービスおよび操作のための準備」
 - 51 ページの「Oracle ILOM Web インタフェースを使用して電源を制御する方法」
 - 47 ページの「電源モード」

▼ Oracle ILOM Web インタフェースを使用して電源を制御する方法

- 始める前に
- サーバーのサービスプロセッサの IP アドレスを知っておく必要があります。
 - Oracle ILOM Web インタフェースの詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 3.0 Daily Management—Web Interface Procedures Guide』を参照してください。
- 1 **Oracle ILOM Web** インタフェースにログインします。
Oracle ILOM のメイン画面が表示されます。
 - 2 「**Remote Control** (リモートコントロール)」 タブをクリックします。
「Remote Control (リモートコントロール)」 サブメニュータブが表示されます。
 - 3 「**Remote Power Control** (リモート電源制御)」 タブをクリックします。
「Remote Power Control」 画面が表示されます。
 - 4 ドロップダウンリストから電力状態を選択します。
選択肢には、「Immediate Power Off」、「Graceful Shutdown and Power Off」、「Power On」、「Power Cycle」、「Reset」があります。
 - 5 **Oracle ILOM Web** インタフェースを終了するには、画面上部のログアウトボタンをクリックします。

- 参照
- 53 ページの「サービスおよび操作のための準備」
 - 50 ページの「Oracle ILOM コマンド行インタフェースを使用して電源を制御する方法」
 - 47 ページの「電源モード」

▼ IPMITool を使用して電源を制御する方法

- SNMP および IPMI を使用したサーバー管理の詳細については、『**Oracle Integrated Lights Out manager (ILOM) 3.0 SNMP および IPMI 手順ガイド**』を参照してください。

- 参照
- 53 ページの「サービスおよび操作のための準備」
 - 47 ページの「電源モード」

コンポーネントの取り外しと取り付け

この節では、Sun Fire X4800 M2 サーバー 内のコンポーネントの安全で効率的な取り外しおよび取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

説明	タスク
サービスタスクの適用範囲の評価、安全性に関する情報の確認、サービスおよび操作のためのサーバーの準備などを含む、準備のタスクとトピック。	53 ページの「サービスおよび操作のための準備」
すべての顧客交換可能コンポーネント (CRU) および現場交換可能コンポーネント (FRU) に関する、交換および取り付けのタスクとトピック。	59 ページの「取り外しおよび取り付け手順」

サービスおよび操作のための準備

サービスおよび保守タスクの適用範囲を評価して、サービスおよび操作のためにサーバーを準備するには、この節を参照してください。

- 53 ページの「サービスタスク表」
- 54 ページの「CRU および FRU リスト」
- 55 ページの「ホットスワップコンポーネント」
- 55 ページの「サービスに必要な工具類」
- 56 ページの「安全性に関する重要な情報」
- 56 ページの「静電気防止の注意事項と手順」
- 57 ページの「サービスの準備を行う方法」
- 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

サービスタスク表

次のタスク表では、サービス手順の概要と関連するトピックおよびタスクへのリンクを示します。

手順	タスク	説明	トピックまたはタスク
1	タスクの適用範囲を評価する。	CRU および FRU リスト、ホットスワップコンポーネントのリスト、必要な工具類を確認して、タスクの適用範囲を把握します。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 54 ページの「CRU および FRU リスト」 ■ 55 ページの「ホットスワップコンポーネント」 ■ 55 ページの「サービスに必要な工具類」
2	安全性に関する重要な情報を確認する。	何らかの装置のサービスを行う前に、常に安全性および ESD の手順を確認してください。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 56 ページの「安全性に関する重要な情報」 ■ 56 ページの「静電気防止の注意事項と手順」
3	サービス実施のためにサーバーを準備する。	ルーチン手順に従って装置を準備し、サービスを行います。この手順は、すべてのタスクの開始時に参照されます。	57 ページの「サービスの準備を行う方法」
4	コンポーネントの交換または取り付け手続きに従う。	コンポーネントの交換および取り付け手順では、Sun Fire X4800 M2 サーバーの保守を安全で効率的に行うため、順を追って手順を説明します。	59 ページの「取り外しおよび取り付け手順」
5	操作のためにサーバーを準備する。	ルーチン手順に従って、装置の操作を準備します。この手順は、各タスクの終了時に参照されます。	58 ページの「操作のために準備を行う方法」

CRU および FRU リスト

Sun Fire X4800 M2 サーバーの交換可能なコンポーネントは、現場交換可能ユニット (FRU: field-replaceable units) または顧客交換可能ユニット (CRU: customer-replaceable units) のいずれかに指定されます。FRU に指定されている部品は、Sun 認定の保守技術者が交換する必要があります。CRU に指定されている部品は、Sun 認定の保守技術者以外の人でも交換できます。この表は、Sun Fire X4800 M2 サーバーの FRU コンポーネントと CRU コンポーネントの一覧です。

コンポーネント	指定
CPU モジュール (CMOD) (最大 4)	CRU
DIMM	CRU
RAID 拡張モジュール	CRU

コンポーネント	指定
ファブリック拡張モジュール	CRU
電源装置 (4)	CRU
ハードドライブ (最大 8)	CRU
PCIe Express Module Gen 2 (最大 8)	CRU
Network Express Module (最大 2)	CRU
ファンモジュール (4)	CRU
SP モジュール (SP)	CRU
ファンモジュールコントローラボード (2)	FRU
サブアセンブリモジュール (SAM) とミッドプレーン	FRU
CPU とヒートシンク構成部品	FRU

関連項目: [53 ページの「サービスタスク表」](#)

ホットスワップコンポーネント

次のリストは、Sun Fire X4800 M2 サーバーのホットスワップ対応コンポーネントの一覧です。

- 電源装置
- ハードドライブ
- ファンモジュール[ふあんもじゅーる]
- SP モジュール
- NEM[NEM]
- PCIe EM

次へ: [55 ページの「サービスに必要な工具類」](#)

参照先: [53 ページの「サービスタスク表」](#)

サービスに必要な工具類

次のリストは、必要な工具類の一覧です。

- ☆(Phillips の 1 番)
- ☆★プラスのねじ回し (Phillips の 2 番)
- ☆長い (10 インチ以上) プラスのねじ回し 2 本

関連項目: 53 ページの「サービスタスク表」

安全性に関する重要な情報

この節では、Sun Fire サーバーの部品の取り外しまたは取り付けを行う前に知っておく必要がある、安全性に関する重要な情報について説明します。



注意 - 高電圧です。カバーを取り外した状態で、決してサーバを実行しようとししないでください。この節に記載されているコンポーネントのサービスを行う前に、必ず電源を切断してください。



注意 - 装置が故障する可能性があります。適切な通気を得るためには、カバーが正しい位置に取り付けられている必要があります。

システムを設置する際は、次のことに注意してください。

- 装置上および『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』に記載されている Sun の注意、警告、および手順に従ってください。
- 装置上および『Sun Fire X4800 Server Safety and Compliance Guide』に記載されている注意、警告、および手順、操作方法に従ってください。
- 使用している電源の電圧や周波数が、装置の電気定格表示と一致していることを確認してください。
- 本書に記載されている静電放電に対する安全対策に従ってください。

関連項目: 56 ページの「静電気防止の注意事項と手順」

静電気防止の注意事項と手順



注意 - コンポーネントが損傷します。回路基板およびハードドライブには、静電気に非常に弱い電子部品が組み込まれています。衣服または作業環境で発生する通常量の静電気によって、これらのデバイス上にある部品が損傷を受ける場合があります。静電気予防が施されていない部品、特にコネクタ付近には触れないでください。

静電放電 (ESD) は、プロセッサ、ハードドライブ、拡張ボード、およびその他のコンポーネントを損傷する可能性があります。マザーボード、PCI カード、ハードドライブ、メモリーモジュールなどの ESD に非常に弱いデバイスでは、特別な取り扱いが必要です。システムコンポーネントを取り付ける前に、次の注意事項を必ず確認してください。

- 取り付けの準備ができるまで、コンポーネントを保護パッケージから取り出さないでください。
- コンポーネントを取り扱う前、またはワークステーションの内部コンポーネントに対して作業を行う前に、アース用ストラップを着用し、ストラップをシステムシャーシのアースまたはシステムの任意の金属部分に取り付けます。
- 静電気防止用マットを使用してください。57 ページの「静電気防止用マットを使用する方法」を参照してください。

ハードドライブ構成部品、回路基板、PCI カードなどのコンポーネントを取り扱う場合は、静電気防止用リストストラップを着用し、静電気防止用マットを使用してください。サーバーコンポーネントのサービスまたは取り外しを行う際には、静電気防止用リストストラップを手首に着用し、シャーシの金属部分に取り付けます。これによって、作業者とサーバーの間の電位が等しくなります。

▼ 静電気防止用マットを使用する方法

- 1 取り外し、取り付け、または交換作業中に部品を置いておくための、静電気防止面を準備します。

プリント回路基板、メモリーモジュール、CPU などの静電気に弱いコンポーネントは、静電気防止用マットの上に置いてください。次のものを静電気防止用マットとして使用できます。

- Sun の交換部品の梱包に使用されている静電気防止袋
- Oracle 静電気防止用マット、パーツ番号 250-1088
- 使い捨て静電気防止用マット (一部の交換部品またはオプションのシステムコンポーネントに同梱)

- 2 静電気防止用リストストラップを着用します。

サーバーコンポーネントのサービスまたは取り外しを行う際には、静電気防止用リストストラップを手首に着用し、シャーシの金属部分に取り付けます。

参照 53 ページの「サービスタスク表」

次の手順 57 ページの「サービスの準備を行う方法」

▼ サービスの準備を行う方法

- 1 サービスタスク表で、サービスの手順と安全性に関する重要な情報を確認します。53 ページの「サービスタスク表」を参照してください。
- 2 ハードウェア、ソフトウェア、およびファームウェアに関する問題の最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

- 3 必要に応じてOSを休止します。

注-一部のホットスワップコンポーネントを取り外すと、ネットワークまたはストレージへのアクセスに支障が起きる場合があります。ネットワーク通信やストレージへのアクセス障害に備えるため、OSを準備して必要な予防策を講じてください。

- 4 必要に応じて、サーバーをスタンバイ電源モードにするか、サーバーの電源を切ります。47ページの「電源モード」を参照してください。

注-サーバーの電源を切断してコンポーネントの取り外しまたは取り付けを行う前に、取り外しおよび取り付け手順を確認します。一部のコンポーネントはホットスワップ対応で、サーバーの電源を切断する必要はありません(55ページの「ホットスワップコンポーネント」を参照してください)。

次の手順 59ページの「取り外しおよび取り付け手順」

▼ 操作のために準備を行う方法

- 1 必要に応じて、サービスに関連するケーブルとデバイスを取り外します。
- 2 サーバー、シャーシ、ラックの内部および外部から工具類を取り外します。サーバーの保守に使用するすべての工具類の所在を把握します。
- 3 コンポーネントが適切に設置および配線され、すべてのケーブルが適切に配線されて固定されていることを確認します。
- 4 サーバーの前面および背面の通気口が、塞がっていたり詰まっていないことを確認します。

掃除機を使用してサーバーの通気口およびシャーシからほこりやちりを取り除きます。



注意-コンポーネントが損傷する可能性があります。サーバー、シャーシ、ラックの内部に液体またはスプレー式のクリーナーを使用すると、コンポーネントが損傷する可能性があります。サーバー内部のお手入れに、液体またはスプレー式のクリーナーを使用しないでください。

- 5 AC電源ケーブルをサーバーのAC電源ブロックに接続します。サーバーがスタンバイモードになります。

- 6 サーバーの電源を入れます。48 ページの「サーバーに電源を投入する方法」を参照してください。
- 7 すべてのコンポーネントの電源が正しく入っていることを確認します。
コンポーネントの LED を使用して、正しく動作していることを確認します。180 ページの「LED 部品の位置と機能」を参照してください。
- 8 操作のためにラックを準備します。
- 9 『Sun Fire X4800 M2 Server Diagnostics Guide』に記載されている工具と手順を使用して、新しいコンポーネントおよび交換したコンポーネントの操作とパフォーマンスの検証とテストを行います。

参照 57 ページの「サービスの準備を行う方法」

取り外しおよび取り付け手順

シャーシコンポーネント	関連するタスクとトピック
電源装置	61 ページの「電源装置 (CRU) の取り外しと取り付け」
電源装置の指定	61 ページの「電源装置の指定」
AC 電源ケーブル	65 ページの「AC 電源ケーブルの取り外しと取り付けを行う方法」
ハードドライブ	66 ページの「ハードドライブ (CRU) の取り外しと取り付け」
ハードドライブの指定	66 ページの「ハードドライブの指定」
ハードドライブフィルター	71 ページの「ハードドライブフィルターの取り外しと取り付け」
ハードドライブバックプレーン	74 ページの「ハードドライブバックプレーン (FRU) の交換」
ハードドライブバックプレーンのケーブルルーティング	74 ページの「ハードドライブバックプレーンのケーブルルーティングと指定」
<hr/>	
CPU モジュール (CMOD) および内蔵コンポーネント	関連するタスクとトピック
CMOD	79 ページの「CMOD (CRU) の追加、取り外し、取り付け」
CMOD 規則	87 ページの「CPU モジュール (CMOD) の指定と配置規則」

CPU モジュール (CMOD) および内蔵コンポーネント	関連するタスクとトピック
CMOD フィルター	90 ページの「CMOD フィルターの取り外しと取り付け」
CMOD バッテリ	93 ページの「CMOD バッテリ (CRU) を交換する方法」
DIMM	96 ページの「DIMM (CRU) の取り外しと取り付け」
DIMM 規則	100 ページの「DIMM 配置規則」
RAID 拡張モジュール (REM)	101 ページの「RAID 拡張モジュール (CRU) の取り外しと取り付け」
ファブリック拡張モジュール (FEM)	104 ページの「ファブリック拡張モジュール (CRU) の取り外しと取り付け」
CPU とヒートシンク構成部品	107 ページの「CPU とヒートシンク構成部品 (FRU) の交換」
サブアセンブリモジュールコンポーネント	関連するタスクとトピック
ファンモジュール (FM)	114 ページの「ファンモジュール (CRU) の取り外しと取り付け」
FM の指定	114 ページの「ファンモジュールの指定」
ファンモジュールコントローラボード (FB)	118 ページの「ファンモジュールコントローラボード (FRU) の交換」
FB の指定	119 ページの「ファンモジュールコントローラボード (FB) の指定」
Network Express Module (NEM)	122 ページの「NEM または NEM フィルター (CRU) の取り外しと取り付け」
NEM の指定と割り当て	122 ページの「Network Express module の指定と割り当て」
PCIe EM	127 ページの「PCIe EM (CRU) の取り外しと取り付け」
PCIe EM の指定と配置規則	127 ページの「PCIe EM の指定と配置規則」
サービスプロセッサ (SP) モジュール	131 ページの「サービスプロセッサモジュール (CRU) の取り外しと取り付け」
マルチポートケーブル	134 ページの「マルチポートケーブルの取り外しと取り付け」
サブアセンブリモジュール (SAM)	136 ページの「サブアセンブリモジュール (FRU) の取り外しと取り付け」

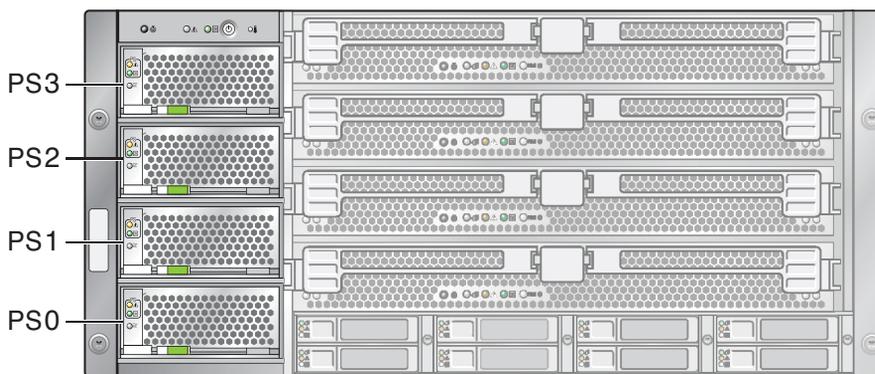
電源装置 (CRU) の取り外しと取り付け

この節では、電源装置の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 61 ページの「電源装置の指定」
- 61 ページの「電源装置を取り外す方法」
- 63 ページの「電源装置を取り付ける方法」
- 65 ページの「AC 電源ケーブルの取り外しと取り付けを行う方法」

電源装置の指定

サーバーには4台の電源装置 (PS0 - PS3) が搭載されています。電源装置は PS0 - PS3 に指定されており、一番下のスロットが PS0、一番上のスロットが PS3 になります。



関連項目:

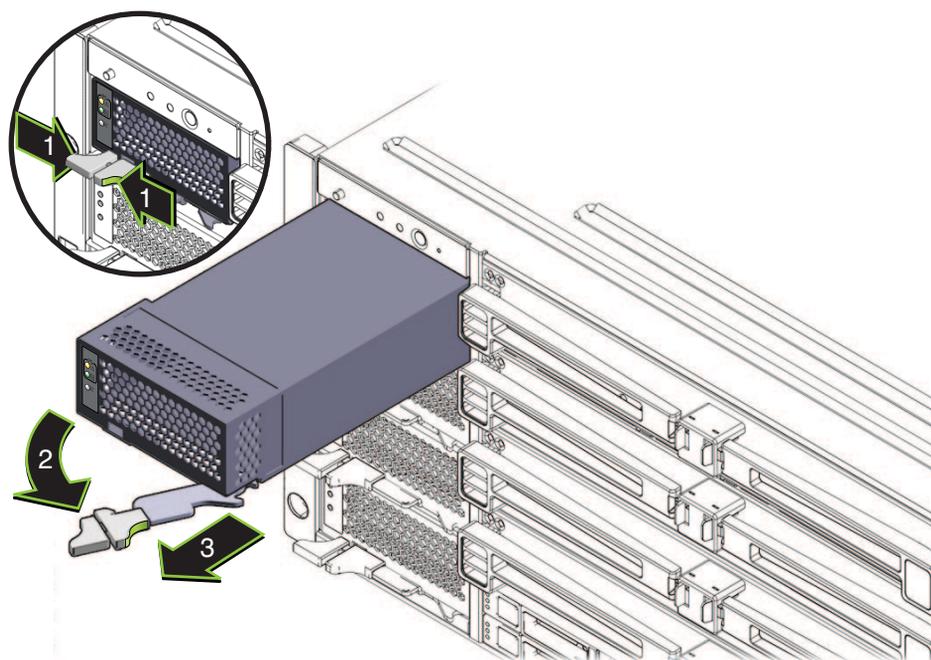
- 24 ページの「電源装置の概要」
- 41 ページの「AC 電源ブロックの概要」

▼ 電源装置を取り外す方法

電源装置はホットスワップ対応です。つまり、電源装置の取り外しまたは取り付けを行うためにサーバーの電源を切断する必要はありません。ただし、サーバーの最小構成は電源装置2台です (非推奨)。電源装置1台ではサーバーを動作させることはできません。

- 始める前に
- 12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のシャーシの概要」
 - 24 ページの「電源装置の概要」
 - 61 ページの「電源装置の指定」

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 取り外す必要のある電源装置を特定します。
電源装置が障害状態にある場合は、オレンジ色の保守要求 LED が点灯します。
- 3 電源装置のロックを解除するには、リリースハンドルの先端を強く押します。
電源装置のリリースハンドルは、電源装置の下にあります。ハンドルのロック機構が解除されると、音がします。



- 4 リリースハンドルを引き出し、ハンドルが完全に開くまで右へ引きます。
これによりスロットをロックしている歯止めが外れます。
- 5 ハンドルを使用してユニットをスロットから少し引き出します。
手でユニットを十分につかめる位置まで引き出します。
- 6 リリースハンドルをロックがかかるまで左に動かして閉じます。
- 7 電源装置を取り外すには、装置を片方の手で支えながら、もう一方の手でゆっくりとスロットから引き出します。



注意-通気と温度に関連する問題。電源装置のスロットには通気ベーンがあり、電源装置をスロットから取り外すと下がります。このデバイスにより、サーバー内の通気と冷却を適切な状態に維持します。

- 参照
- [63 ページの「電源装置を取り付ける方法」](#)
 - [184 ページの「フロントパネル電源装置の LED」](#)
 - [12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のシャーシの概要」](#)

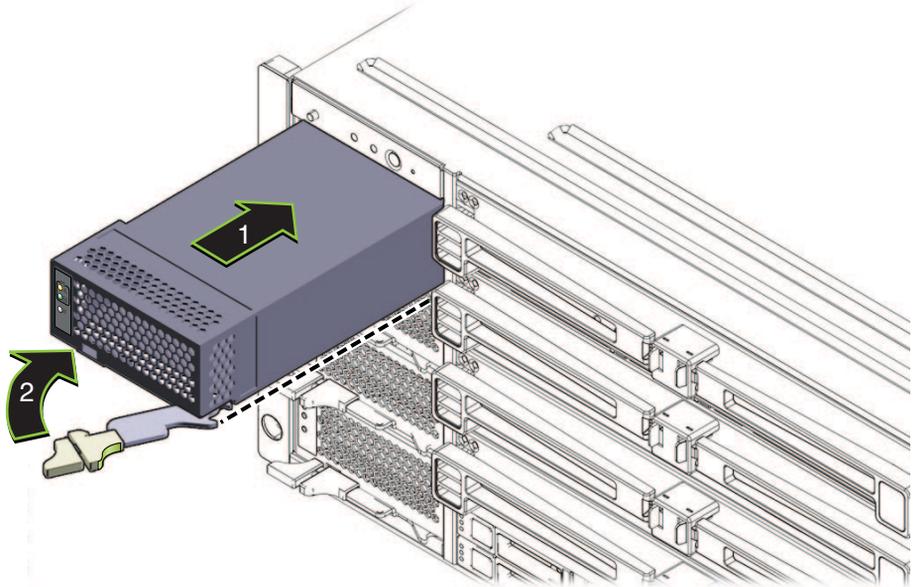
▼ 電源装置を取り付ける方法

- 始める前に
- [12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のシャーシの概要」](#)
 - [24 ページの「電源装置の概要」](#)
 - [61 ページの「電源装置の指定」](#)

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。[57 ページの「サービスの準備を行う方法」](#)を参照してください。
- 2 電源装置のリリースハンドルが完全に開いた位置にあることを確認します。
ハンドルが電源装置から離れている状態にします。

- 3 LEDを左側に、リリースハンドルを下にした状態で、電源装置を空いているスロットに配置します。

正しく配置すると、電源装置のコネクタと、サーバー内部のバックプレーン上のコネクタの位置を合わせることができます。



- 4 電源装置を空いているユニット内に挿し込み、止まるまでスライドさせます。

注-この位置では、電源装置はサーバーの前面と重なりません。また電源装置のコネクタは内部のミッドプレーン上のコネクタと接続されていません。電源装置を無理にサーバー内に押し込もうとしないでください。

- 5 ハンドルの端にある歯止めが電源装置スロットの横にある穴と揃っていることを確認します。
- 6 電源装置のコネクタを内部バックプレーンのコネクタと接続してセットするには、リリースハンドルの端を左に押しします。



注意-指を挟まないように注意してください。レバーを操作する際に、レバーの後ろやちょうつがいから指を話しておきます。

これにより電源装置がスロット内に引き込まれ、電源装置のコネクタが内部バックプレーンのコネクタと接続されます。

- 電源装置の底縁の下にロックされるまでリリースハンドルを押し続けます。
ロックが掛かると音がします。この位置では、リリースハンドルのロックを解除してハンドルを持ち上げない限り、電源装置をサーバーから引き出すことはできません。
- ACケーブルを適切な電源装置スロットに接続してロックします (65 ページの「AC 電源ケーブルの取り外しと取り付けを行う方法」を参照)。

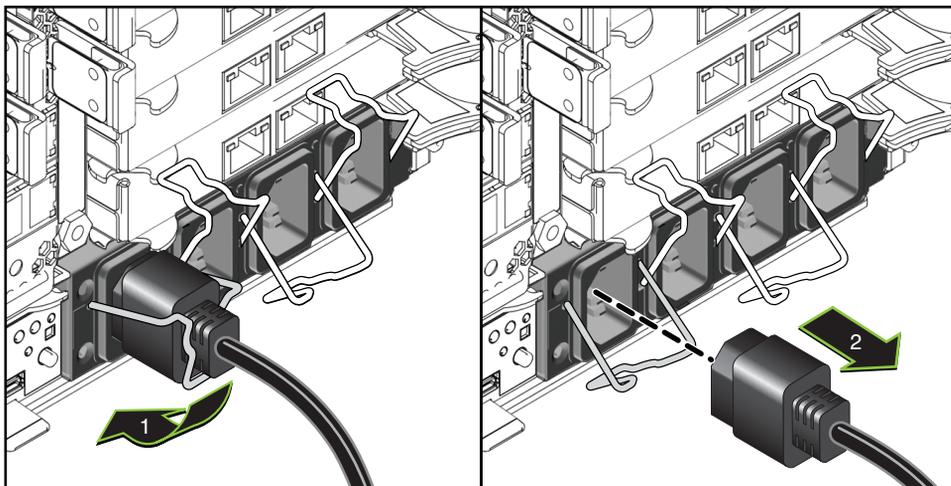
次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

- 参照
- 61 ページの「電源装置を取り外す方法」
 - 184 ページの「フロントパネル電源装置の LED」
 - 41 ページの「AC 電源ブロックの概要」

▼ AC 電源ケーブルの取り外しと取り付けを行う方法

Sun Fire X4800 M2 サーバーの AC 電源ブロックは、背面パネルにあります。ブロックには4つのコネクタがあります。各コネクタには、AC 接続が外れないように固定クリップが付いています。さらに、各電源ケーブルによって電源スロットに電力が供給されます。詳細は、41 ページの「AC 電源ブロックの概要」を参照してください。

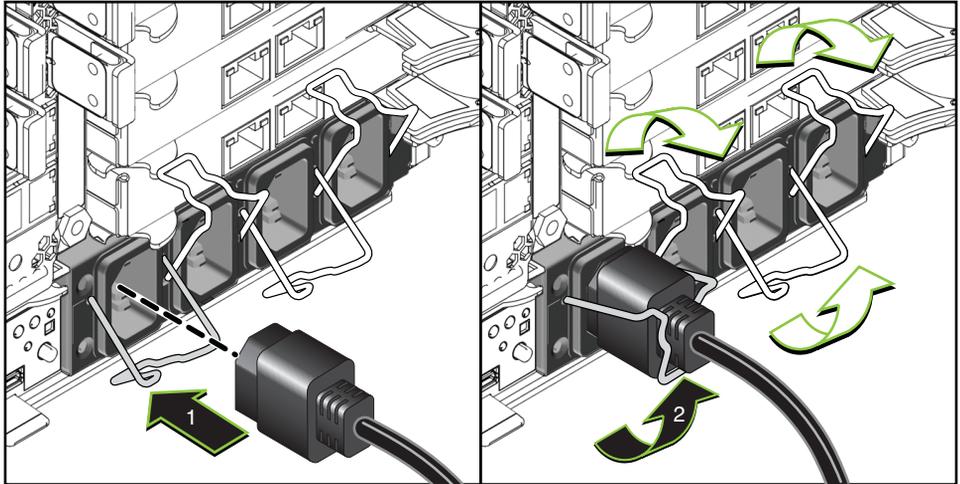
- AC 電源ケーブルのロックを解除するには、固定クリップを下または上に押します。
クリップの配置は互い違いになっています。左から数えて1番目と3番目のケーブルを取り外すには、クリップを押し下げます。2番目と4番目のケーブルを取り外すには、クリップを押し上げます。



- ケーブルを取り外すには、ソケットからケーブルを引き抜きます。

- 3 AC電源ケーブルを取り付けて固定するには、固定クリップが開いた位置にあることを確認し、ACコードをAC電源ブロックに接続し、クリップを固定します。

クリップの配置は互い違いになっています。左から数えて1番目と3番目のケーブルを固定するには、クリップをしっかりと押し上げます。2番目と4番目のケーブルを固定するには、クリップをしっかりと押し下げます。



- 参照
- 61 ページの「電源装置を取り外す方法」
 - 63 ページの「電源装置を取り付ける方法」

ハードドライブ (CRU) の取り外しと取り付け

注 - Sun Fire X4800 M2 サーバーのハードドライブは、ホットスワップコンポーネントです。

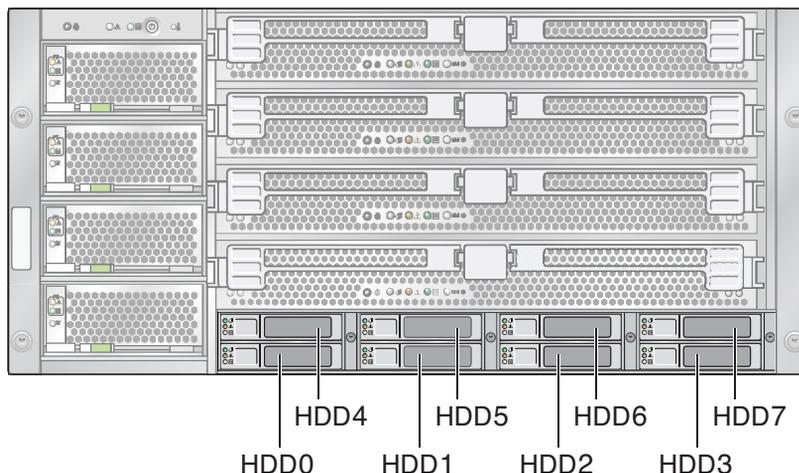
この節では、ハードドライブの取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 66 ページの「ハードドライブの指定」
- 67 ページの「ハードドライブを取り外す方法」
- 69 ページの「ハードドライブを取り付ける方法」

ハードドライブの指定

Sun Fire X4800 M2 サーバーでは最大 8 台のハードドライブをサポートできます。ハードドライブの slots はサーバー正面の下部にあり、4 つの slots が上下

2段に配置されています。スロットにはHDD0-HDD7のラベルが付けられています。下の段はスロットHDD0-HDD3で構成されています。上の段はスロットHDD4-HDD7で構成されています。



関連項目:

- 67 ページの「ハードドライブを取り外す方法」
- 69 ページの「ハードドライブを取り付ける方法」
- 27 ページの「ドライブバックプレーンの概要」

▼ ハードドライブを取り外す方法

ハードドライブ (HD) を取り外すには、次の手順を実行します。

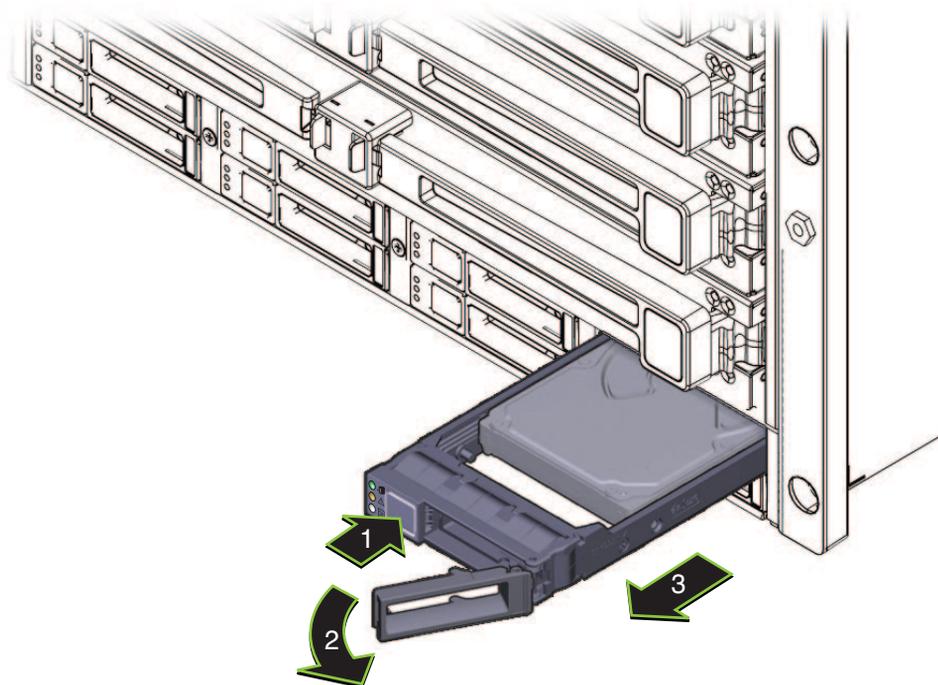
注 - Sun Fire X4800 M2 サーバーのハードドライブは、ホットスワップコンポーネントです。



注意 - 複数の HD を取り外し、ドライブを交換しない場合、各 HD にそのスロットを示すラベルを付けます (66 ページの「ハードドライブの指定」を参照)。ドライブは元のスロットに取り付ける必要があります。

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。

- ハードドライブ構成部品の前面にあるハンドルのロックを解除するには、ハンドルリリースボタンを押します。
これによりハンドルのロックが解除され、スプリングが開きます。



- ハードドライブを取り外すには、ハンドルを使用してドライブをサーバーから引き出します。

注-XLブラケット構成部品からハードドライブを取り外さないでください。



注意-通気と温度管理に関する問題。ハードドライブスロットを空のままにしないでください。ハードドライブスロットには、ドライブまたはHD フィラーのいずれかを取り付ける必要があります。

- 次の手順
- 69 ページの「ハードドライブを取り付ける方法」
 - または -
 - 72 ページの「ハードドライブフィラーを取り付ける方法」

- 参照
- 26 ページの「ハードドライブとXLブラケット構成部品の概要」
 - 66 ページの「ハードドライブの指定」
 - 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

▼ ハードドライブを取り付ける方法

ハードドライブ (HD) を取り付けるには、次の手順を実行します。

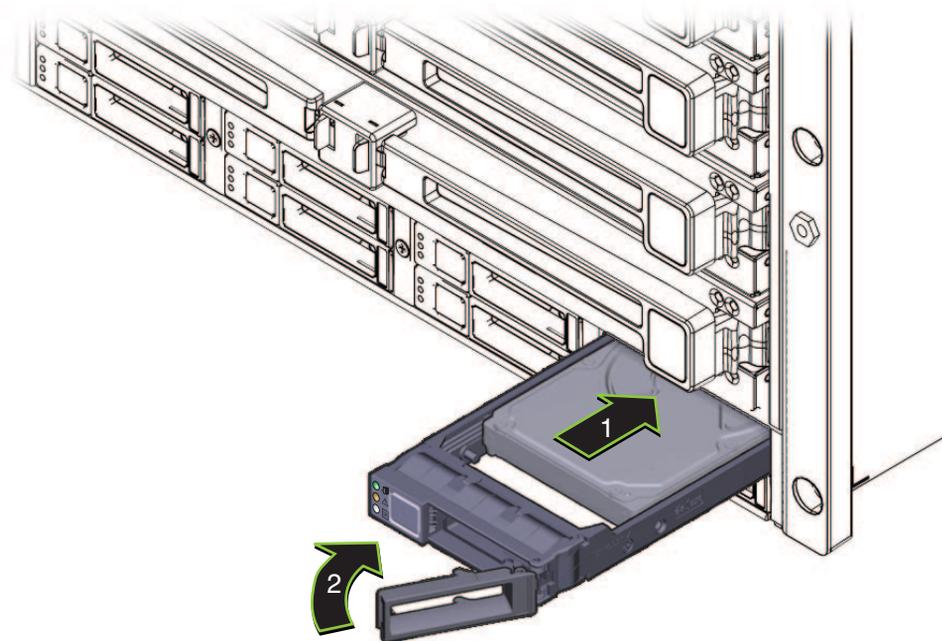
注 - Sun Fire X4800 M2 サーバー のハードドライブは、ホットスワップコンポーネントです。



注意 - 通気と温度管理に関する問題。複数の HD を取り外し、ドライブを交換しない場合、各 HD にそのスロットを示すラベルを付けます (66 ページの「ハードドライブの指定」を参照)。ドライブは元のスロットに取り付ける必要があります。

- 始める前に
- 66 ページの「ハードドライブの指定」。
 - 26 ページの「ハードドライブとXLブラケット構成部品の概要」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 ハードドライブまたは HD フィラーキャリアの取り外し方法については、67 ページの「ハードドライブを取り外す方法」または71 ページの「ハードドライブ フィラーを取り外す方法」を参照してください。

- 3 ハードドライブキャリアの前面にあるレバーのリリースボタンを押して、レバーを引き出して完全に開いた状態にします。



- 4 ハードドライブキャリアの構成部品をスロット内に挿し込み、止まるまでスライドさせます。止まった位置よりも奥にドライブを押し込まないでください。
- 5 レバーにある歯止めをスロットの側面にある穴に合わせます。
- 6 ハードドライブを取り付けるには、ロックが掛かってキャリアの前面と重なるまで、レバーを閉じます。
これによりハードドライブキャリアの構成部品がスロット内に押し込まれ、ハードドライブのコネクタがハードドライブバックプレーンのコネクタと接続されます。

次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

- 参照
- 26 ページの「ハードドライブと XL ブラケット 構成部品の概要」
 - 184 ページの「フロントパネル電源装置の LED」

ハードドライブフィルターの取り外しと取り付け

- [71 ページの「ハードドライブフィルターを取り外す方法」](#)
- [72 ページの「ハードドライブフィルターを取り付ける方法」](#)

▼ ハードドライブフィルターを取り外す方法

ハードドライブ (HD) フィルターを取り外すには、次の手順を実行します。

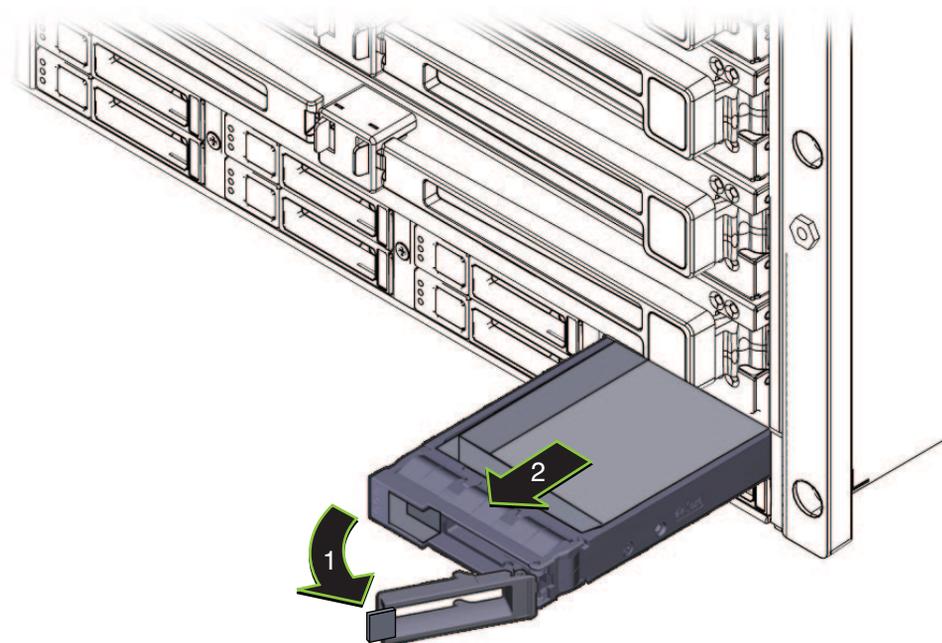


注意-通気と温度管理に関する問題。ハードドライブスロットを空のままにしないでください。ハードドライブスロットには、ドライブまたはHD フィルターのいずれかを取り付ける必要があります。

HD フィルターは、空のドライブスロットを塞いでサーバーの冷却を維持するために特別に設計されています。これには電子機器は搭載されていません。また、ハードドライブキャリアではありません。

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。[57 ページの「サービスの準備を行う方法」](#)を参照してください。

- ばね付きのハンドルのロックを解除するには、ロックラッチを上を持ち上げます。



- HD フィルターを取り外すには、ハンドルを引き出して開いた状態にし、フィルターをスロットから引き出します。



注意-コンポーネントが損傷する可能性があります。ハンドルは90度まで開きません。ハンドルを限度を超えるまで開かないでください。

ドライブスロットには、ハードドライブ (HD) またはHD フィルターのいずれかを取り付ける必要があります。

次の手順

- 69 ページの「ハードドライブを取り付ける方法」
- 72 ページの「ハードドライブフィルターを取り付ける方法」

▼ ハードドライブフィルターを取り付ける方法

ハードドライブ (HD) フィルターを取り付けるには、次の手順を実行します。



注意-通気と温度管理に関する問題。ハードドライブスロットを空のままにしないでください。ハードドライブスロットには、ドライブまたはHD フィルターのいずれかを取り付ける必要があります。

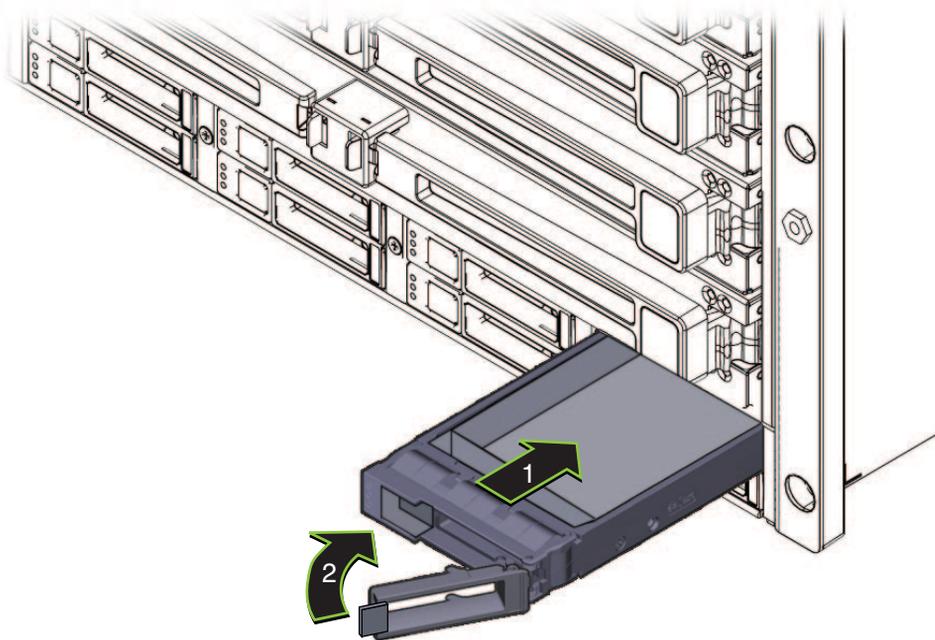
HD フィラーは、空のドライブスロットを塞いでサーバーの冷却を維持するために特別に設計されています。これには電子機器は搭載されていません。また、ハードドライブキャリアではありません。

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 必要に応じて、スロットに搭載されている HD を取り外します。
- 3 HD フィラーのばね付きのハンドルを引き出すには、ロックラッチを上を持ち上げます。



注意-コンポーネントが損傷する可能性があります。ハンドルは90度までしか開きません。ハンドルを限度を超えるまで開かないでください。

- 4 HD フィラーを取り付けるには、空きスロットにフィラーを挿し込み、サーバーの前面と重なるまでスライドさせます。



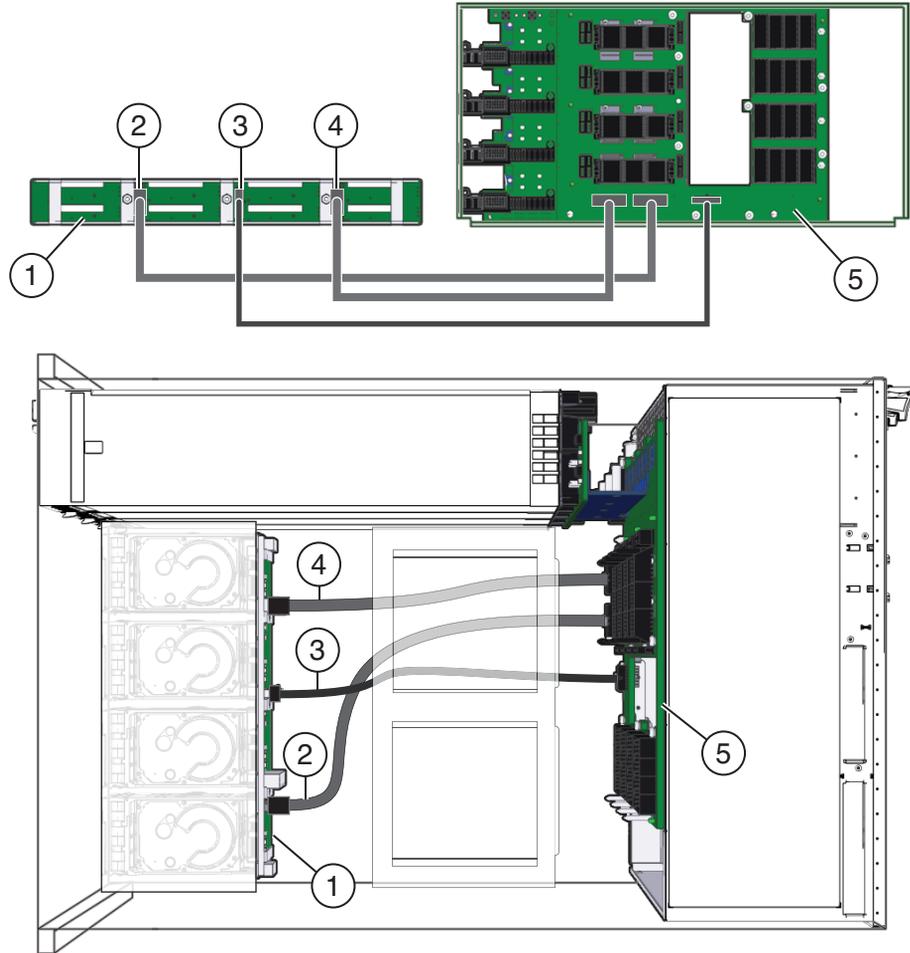
- 5 ばね付きのハンドルを閉じます。

ハードドライブバックプレーン (FRU) の交換

この節では、ハードドライブバックプレーンの取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 74 ページの「ハードドライブバックプレーンのケーブルルーティングと指定」
- 75 ページの「ハードドライブバックプレーンを取り外す方法」
- 77 ページの「ハードドライブバックプレーンを取り付ける方法」

ハードドライブバックプレーンのケーブルルーティングと指定



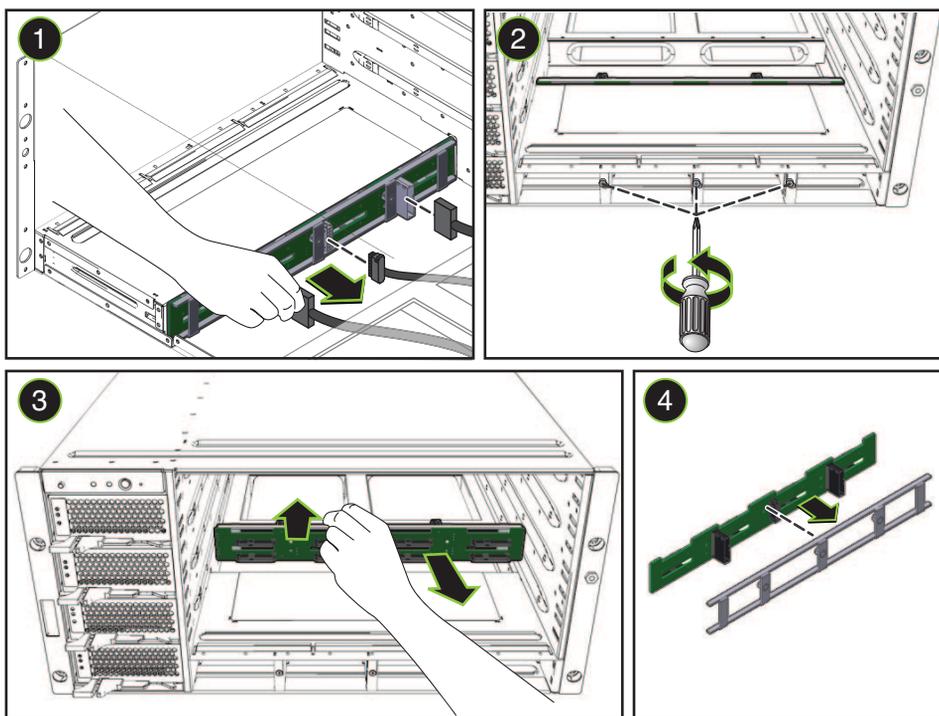
説明

1	ハードドライブバックプレーンとフレーム構成部品	2	SAS0
3	SAS 電源	4	SAS1
5	ミッドプレーン		

▼ ハードドライブバックプレーンを取り外す方法

- 始める前に
- 12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシの概要」
 - 27 ページの「ドライブバックプレーンの概要」

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 AC電源ブロックからAC電源ケーブルを外します。65 ページの「AC電源ケーブルの取り外しと取り付けを行う方法」を参照してください。
- 3 CMODとモジュールフィラーにそれぞれスロットの指定のラベルを付けて取り外します。80 ページの「CPUモジュール(CMOD)を取り外す方法」を参照してください。
- 4 ハードドライブと任意のHDフィラーにラベルを付けて取り外します。67 ページの「ハードドライブを取り外す方法」または71 ページの「ハードドライブフィラーを取り外す方法」を参照してください。
- 5 ハードドライブバックプレーンから3つのSASコネクタを取り外すには、コネクタのロッククリップを押して、コネクタをサーバーの後ろの方へ引きます(1)。サーバーの正面から見た場合、ロッククリップはコネクタの左側にあります。各ケーブルはそれぞれ、左から右に向かってSAS1、SAS Power、SAS0です。



- 6 マシンの正面から、プラスのねじ回し (Phillips の1番) を使用して、ハードドライブバックプレーンを固定している3つの脱落防止機構付きねじを緩めます(2)。

- 7 ハードドライブバックプレーンとフレーム構成部品をサーバーから取り外すには、サーバーの後方へスライドさせ、右側を上に向けて、右のエッジに沿って引き出します (3)。
- 8 ハードドライブバックプレーンをフレームから切り離します (4)。

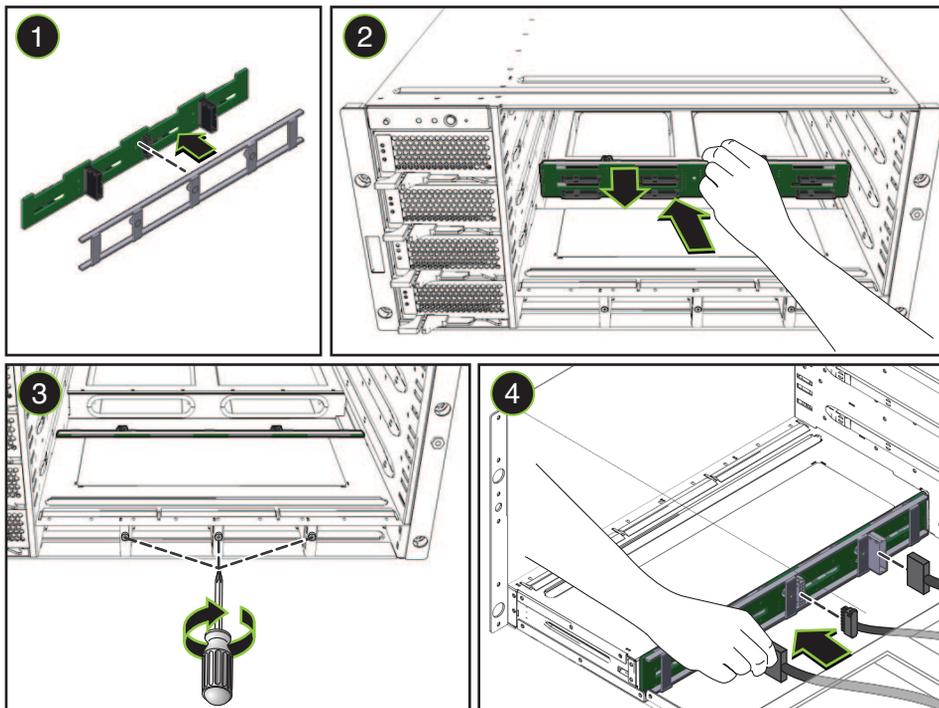
次の手順 [77 ページの「ハードドライブバックプレーンを取り付ける方法」](#)

参照 [74 ページの「ハードドライブバックプレーンのケーブルルーティングと指定」](#)

▼ ハードドライブバックプレーンを取り付ける方法

- 始める前に
- [12 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのシャーシの概要」](#)
 - [27 ページの「ドライブバックプレートの概要」](#)
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。[57 ページの「サービスの準備を行う方法」](#)を参照してください。
 - 2 ハードドライブバックプレーンを取り外します。[75 ページの「ハードドライブバックプレーンを取り外す方法」](#)を参照してください。

3 バックプレーンとフレームを連結します (1)。



- 4 ハードドライブバックプレーン上のコネクタの付いた構成部品をサーバーの背面に向けます。
- 5 ハードドライブバックプレーンをサーバーに挿し込み、ドライブベイの奥側の壁面を背にするように配置します (2)。
- 6 ハードドライブバックプレーン構成部品がドライブベイの奥側の壁面にぴったり接するようにし、構成部品のねじ穴と脱落防止機構付きねじを合わせます。
取り付けやすいように、中央のねじから合わせます。
- 7 サーバーの正面から、プラスのねじ回し (Phillips の 1 番) を使用して、3 つの脱落防止機構付きねじを締めて、ハードドライブバックプレーン構成部品を固定します (3)。

- 8 SASケーブルとSAS電源ケーブル1本をハードウェアドライブバックプレーンに接続します(4)。
ケーブルルーティングと指定については、74ページの「ハードドライブバックプレーンのケーブルルーティングと指定」を参照してください。
- 9 ハードドライブとHDフィルラーを元のスロットに取り付けます。69ページの「ハードドライブを取り付ける方法」を参照してください。
- 10 CMODとフィルラーモジュールを元のスロットに取り付けます。84ページの「CPUモジュール(CMOD)を取り付ける方法」を参照してください。
- 11 AC電源ケーブルを取り付けます。65ページの「AC電源ケーブルの取り外しと取り付けを行う方法」を参照してください。

次の手順 58ページの「操作のために準備を行う方法」

CMOD (CRU) の追加、取り外し、取り付け

この節では、CPUモジュール(CMOD)の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 79ページの「アップグレードキットを使用してサーバーにCPUモジュール(CMOD)を追加する方法」
- 80ページの「CPUモジュール(CMOD)を取り外す方法」
- 82ページの「CPUモジュール(CMOD)カバーを取り外す方法」
- 83ページの「CPUモジュール(CMOD)カバーを取り付ける方法」
- 84ページの「CPUモジュール(CMOD)を取り付ける方法」
- 87ページの「CPLDのバージョンを確認する方法」

▼ アップグレードキットを使用してサーバーにCPUモジュール(CMOD)を追加する方法

CPUモジュールのアップグレードキットを使用してサーバーの構成を変更するには、次の手順を実行します。

- 始める前に
- 14ページの「Sun Fire X4800サーバーバージョン間のCMODの非互換性」を参照してください。
 - ファームウェアの互換性に関する問題については、148ページの「SPモジュールおよびCMODファームウェアの互換性に関する考慮事項」を参照してください。
 - CMODの指定と配置規則については、87ページの「CPUモジュール(CMOD)の指定と配置規則」を参照してください。
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。

- 2 サーバーをスタンバイ電源モードに設定します。47 ページの「電源モード」を参照してください。
- 3 スロットからフィルターモジュールを取り外します。90 ページの「CMOD フィラーを取り外す方法」を参照してください。
- 4 CMOD をスロットに取り付けます。84 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り付ける方法」を参照してください。
- 5 操作のためにサーバーを準備する。58 ページの「操作のために準備を行う方法」を参照してください。
- 6 BIOS 設定ユーティリティーに対して起動し、新しい CMOD 用にサーバーを構成します。

参照 80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」

▼ CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法



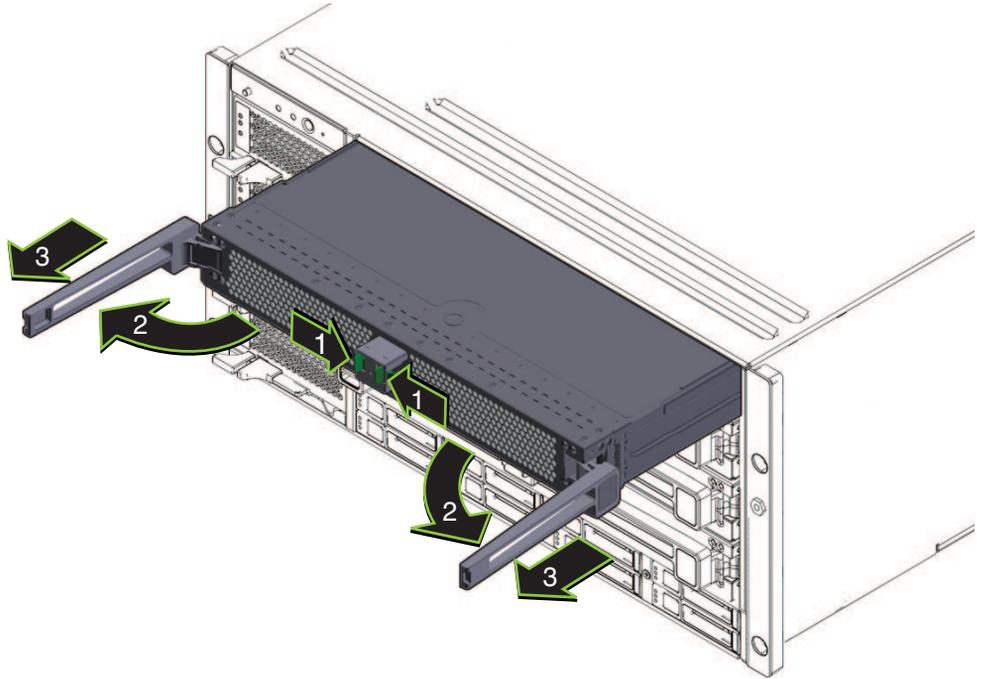
注意-通気と温度に関連する問題。適切な通気と冷却を確保するため、すべての CMOD スロットに、CMOD またはフィルターモジュールのいずれかを含める必要があります。空いている CMOD スロットがある場合は、サーバーを動作させないでください。



注意-CMOD はホットスワップコンポーネントではありません。

- 始める前に
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」を参照してください。
 - 14 ページの「Sun Fire X4800 サーバーバージョン間の CMOD の非互換性」を参照してください。
 - CMOD を交換または取り外す場合は、交換モジュールまたはフィルターモジュールが必要となります。
- 1 サービス実施のための準備をします。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。

- 2 **CMOD** のロックを解除するには、レバーハンドルの間にある緑色の爪を両側から押します。
音がしてハンドルのロックが解除されます。



- 3 **CMOD** を取り出すには、両方のレバーをモジュールの中央から外側に向かって同時に回します。この時点では **CMOD** を取り外そうとしないでください。
レバーを外側へ回すと、レバーの端にある歯止めがシャーシの側面に固定され、**CMOD** が内部のコネクタから引き抜けるようになります。
- 4 ハンドルを使用して **CMOD** をスロットから少し引き出します。
シャーシの前面から 6 インチ ほど **CMOD** を引き出します。
- 5 レバーを内側へ回して閉じ、ロックします。



注意-けがをしたり、部品が損傷したりする可能性があります。**CMOD** の長さや重量のため、この時点で、1人以上の人が **CMOD** の取り外しを補助する必要があります。

- 6 **CMOD** を取り出すには、別の人に **CMOD** を支えてもらいながら、ゆっくりとスロットから引き出します。



注意-加熱状態になる可能性があります。モジュールスロットが空いていると、サーバー内の通気と温度管理が妨げられます。モジュールをフィルターモジュールや別の CMOD と交換してください。

次の手順 ■ 91 ページの「CMOD フィラーを取り付ける方法」

-または-

■ 84 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り付ける方法」。

- 参照
- 87 ページの「CPLD のバージョンを確認する方法」
 - 87 ページの「CPU モジュール (CMOD) の指定と配置規則」
 - 82 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法」
 - 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

▼ CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法

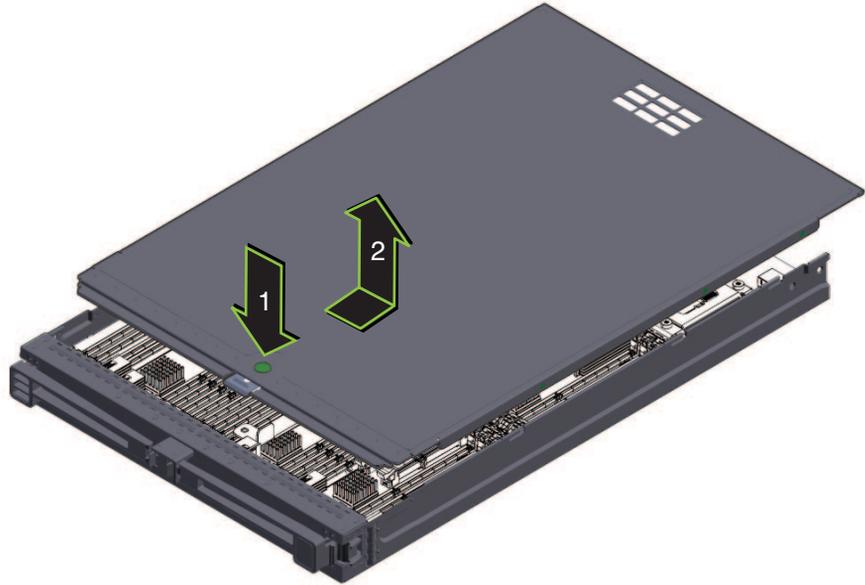


注意-静電気により部品が損傷する可能性があります。電子部品は静電気に非常に敏感です。衣服または作業環境で発生する通常量の静電気によって、部品が損傷を受ける場合があります。静電気予防が施されていない部品、特にコネクタ付近には触れないでください。56 ページの「静電気防止の注意事項と手順」を参照してください。

始める前に 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」

- 1 **CMOD** を取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。

- 2 カバーの上部にあるカバーリリースボタンを押します。



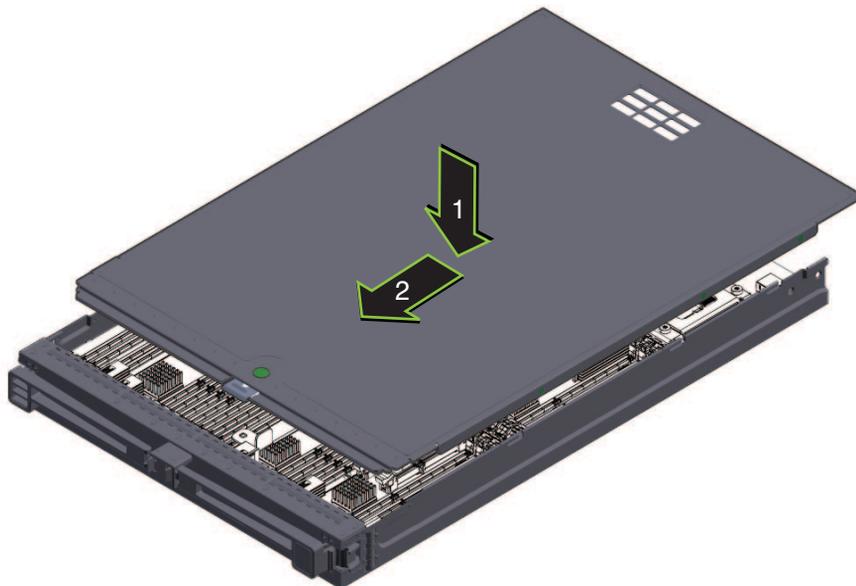
- 3 カバーを CMOD の後方に向かって止まるまでスライドさせます (約 0.5 インチ)。
- 4 カバーを上へ持ち上げて取り外します。

- 参照
- 17 ページの「CMOD 内部コンポーネント」
 - 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
 - 83 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り付ける方法」

▼ CPU モジュール (CMOD) カバーを取り付ける方法

- 始める前に 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」

- 1 カバーリリースボタンがモジュールの正面に向くようにカバーを **CMOD** の上にセットします。カバーがモジュールの後ろから約 **0.5** インチはみ出るようにします。これによりカバー先端と **CMOD** シャーシの前面上端の間に、約 **0.5** インチの隙間ができます。カバーはモジュールの上に平らに載せるようにしてください。



- 2 カバーの先端が **CMOD** の前面上端の下にスライドするように注意しながら、カバーをモジュールの前面に向かって止まるまでスライドさせます。カバーが正しく取り付けられると音がして、カバーのラッチが固定されてカバーがロックされます。
- 3 カバーが正しい位置に固定されたことを確認します。必ずリリースボタンを押してからカバーを取り外してください。

次の手順 [84 ページの「CPU モジュール \(CMOD\) を取り付ける方法」](#)

参照 [82 ページの「CPU モジュール \(CMOD\) カバーを取り外す方法」](#)

▼ CPU モジュール (CMOD) を取り付ける方法

- 始める前に
- [14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」](#) を参照してください。
 - [14 ページの「Sun Fire X4800 サーバーバージョン間の CMOD の非互換性」](#) を参照してください。

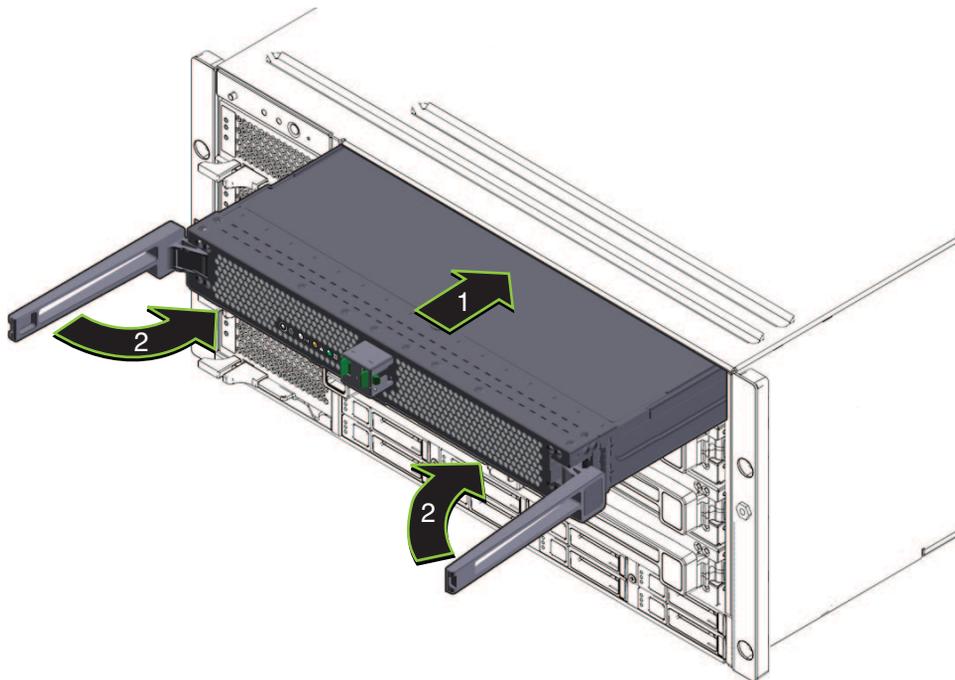
- 1 取り付ける必要のあるモジュールスロットを指定します。
スロットの指定と配置規則については、87 ページの「CPU モジュール (CMOD) の指定と配置規則」を参照してください。
- 2 必要に応じて、スロットに搭載されているフィラーまたは **CMOD** を取り外します。90 ページの「**CMOD** フィラーを取り外す方法」または80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
- 3 カバーが上になるように **CMOD** の向きを合わせます。
- 4 モジュールをシャーシ内に挿し込み、止まるまで注意深くスライドさせます。
シャーシミッドプレーン上のコネクタと接続しようとして、モジュールをシャーシ内に無理に押し込まないでください。
- 5 レバーハンドルを固定している緑色の爪を両側から押し、両方のハンドルをモジュールの中央から外側に向かって回して、**CMOD** レバーを完全に開いた状態にします。
レバーは90度より大きく開きません。
- 6 各レバーの先端にある歯止めが、シャーシの側面にある長方形のスロットと合っていることを確認します。



注意-指を挟まないように注意してください。レバーの後ろやちょうつがい、モジュールの両端に指を挟まないように注意してください。

- 7 **CMOD**を取り付けるには、レバーが正しい位置にロックされるまで、両方のレバーをモジュールの中央に向かって同時に回します。

これによりモジュールがシャーシ内に押し込まれ、モジュールの背面にあるコネクタが内部ミッドプレーン上のコネクタに接続されます。レバーがロックされると、外側へ回すことはできなくなります。



- 8 レバーがロック位置になったら、レバーの先端を内側に押し込み、レバーの先端が**CMOD**の前面に触れたら離して、内部コネクタが完全に固定されたことを確認します。

注-この操作を行うために、レバーをロック解除しないでください。

- 9 フィラーモジュールをラッチでロックするには、ハンドルの後ろに指を挟まないように注意しながら、レバーを内側へ押し、音がしてロックされるまで左に押しします。



注意-指を挟まないように注意してください。レバーを操作する際に、レバーの後ろやちょうつがい、モジュールの両端に指を挟まないように注意してください。

これによりフィラーモジュールがシャーシ内に押し込まれます。ハンドルがロックされた場合は、最初にハンドルのロックを解除しないとレバーを持ち上げることはできません。

- 参照
- 87 ページの「CPLD のバージョンを確認する方法」
 - 80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」
 - 79 ページの「アップグレードキットを使用してサーバーに CPU モジュール (CMOD) を追加する方法」

▼ CPLD のバージョンを確認する方法

すべての CMOD には、同じ CPLD レベルが必要です。CMOD の取り付け後、シャーシのすべての CMOD の CPLD レベルを確認する必要があります。

始める前に シャーシのすべての CMOD が取り付けられ、シャーシはスタンバイ電力モードになっている必要があります。すべての CMOD の緑の LED は常時点灯している必要があります。

スタンバイ電源の詳細については、47 ページの「電源モード」を参照してください。

- 1 Oracle ILOM にログインします。
- 2 シャーシの各モードに対して次のコマンドを入力します。
`show /SYS/BLn/CPLD`
ここで、*n* はノード番号です。
- 3 すべてのノードが同じ値を返すことを確認します。
すべてのノードが同じ値を返さない場合は、Oracle サービスに問い合わせてください。

- 参照
- 47 ページの「電源モード」
 - 182 ページの「CPU モジュール (CMOD) の LED」

CPU モジュール (CMOD) の指定と配置規則

- 88 ページの「CPU モジュール (CMOD) の指定」
- 89 ページの「CPU モジュール (CMOD) の配置規則」

CPU モジュール (CMOD) の指定

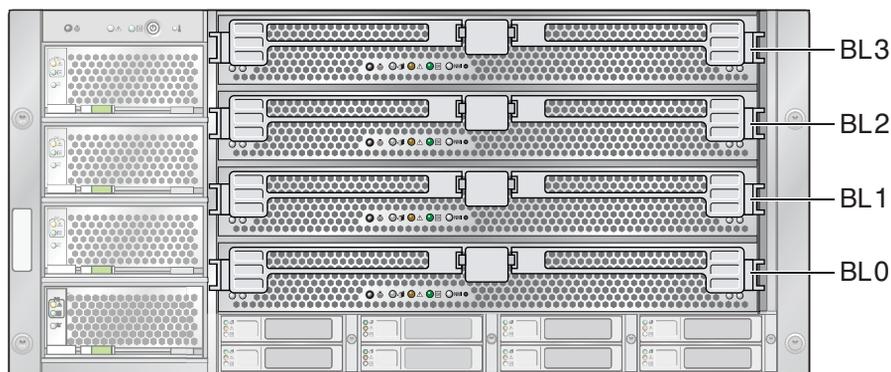
注 - Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールはサーバーファミリの M2 モデルに固有であり、Sun Fire X4800 サーバーで使用される CPU モジュールと互換性はありません。詳細は、14 ページの「Sun Fire X4800 サーバーバージョン間の CMOD の非互換性」を参照してください。

サーバーシャーシの前面と Oracle ILOM の Web インタフェースまたはコマンド行インタフェースでは、CMOD は BL0 - BL3 として指定されています。

シャーシと Oracle ILOM の指定

CMOD 3	BL 3
CMOD 2	BL 2
CMOD 1	BL 1
CMOD 0	BL 0

サーバーシャーシの前面では、一番下のスロットが CMOD 0 で、BL 0 として指定されています。



参照:

- 14 ページの「Sun Fire X4800 サーバーバージョン間の CMOD の非互換性」
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」。
- 79 ページの「CMOD (CRU) の追加、取り外し、取り付け」

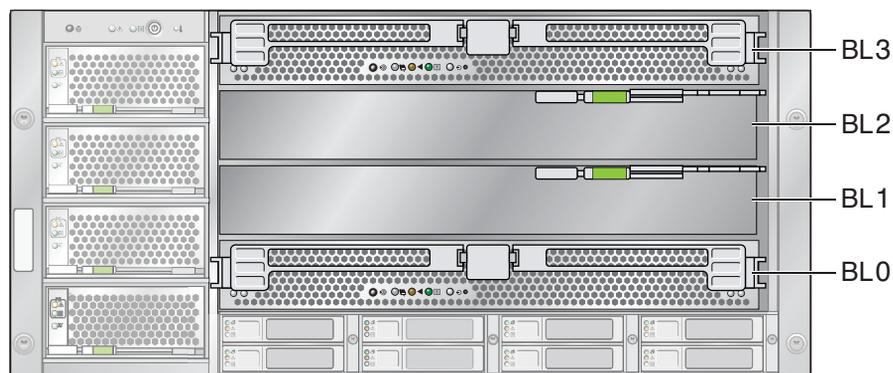
CPU モジュール (CMOD) の配置規則

注 - Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールはサーバーファミリの M2 モデルに固有であり、Sun Fire X4800 サーバーで使用される CPU モジュールと互換性はありません。詳細は、14 ページの「Sun Fire X4800 サーバーバージョン間の CMOD の非互換性」を参照してください。

- Sun Fire X4800 M2 サーバーでは、最小構成と全割り当てされた構成の2つの構成がサポートされます。
- すべての構成で、スロット 0 に CMOD を取り付ける必要があります。
- スロットには、CMOD またはフィルターモジュールのいずれかを含める必要があります。

構成	コンポーネントの配置
最少	<ul style="list-style-type: none"> ■ CMOD を BL 0 と BL 3 に配置 ■ フィラーモジュールを BL 1 と BL 2 に配置
全割り当て	すべてのスロットに CMOD を配置

次の図に、最小構成のサーバーを示します。スロット BL 1 および BL 2 に CMOD フィラーが取り付けられています。



参照:

- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」。
- 79 ページの「CMOD (CRU) の追加、取り外し、取り付け」

CMOD フィラーの取り外しと取り付け

この節では、CMOD フィラーの取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

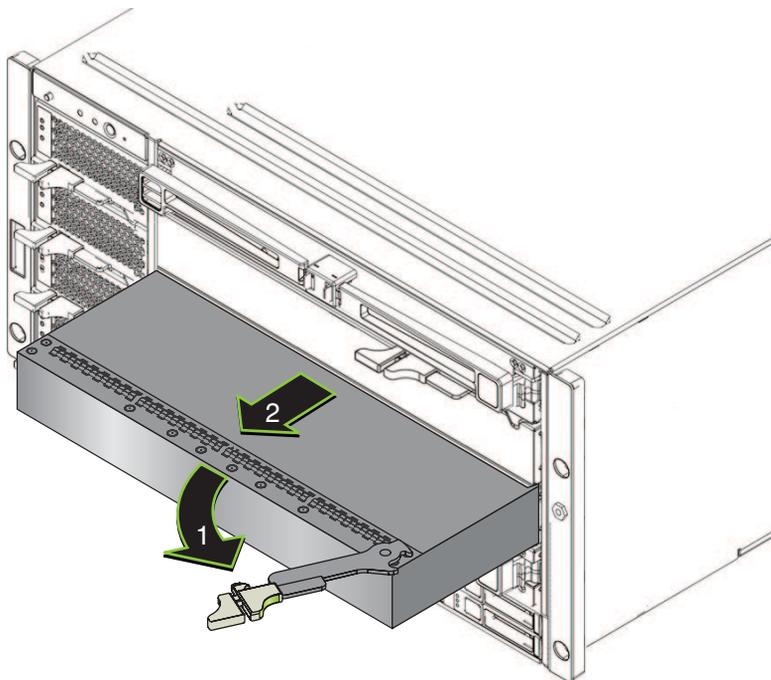
- 90 ページの「CMOD フィラーを取り外す方法」
- 91 ページの「CMOD フィラーを取り付ける方法」

▼ CMOD フィラーを取り外す方法



注意-通気と温度に関連する問題。適切な通気と冷却を確保するため、すべての CMOD スロットに、CMOD または フィラーモジュールのいずれかを含める必要があります。空いている CMOD スロットがある場合は、サーバーを動作させないでください。

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 CMOD フィラーレバーのロックを解除するには、レバーの先端にある緑色の爪を両側から押します。



- 3 レバーを右に回して完全に開いた状態にします。
レバーは90度より大きく開きません。レバーを右に回すと、レバーにある歯止めが側面に固定され、フィラーが外れます。
- 4 取り外すには、ハンドルを使用してフィラーをスロットからスライドさせます。

次の手順 ■ 84 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り付ける方法」

-または-

- 91 ページの「CMOD フィラーを取り付ける方法」

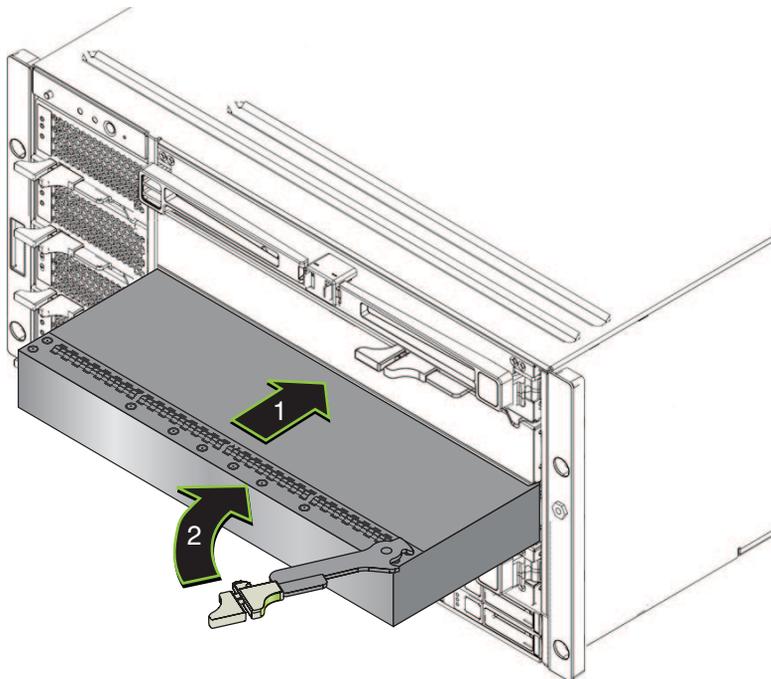
▼ CMOD フィラーを取り付ける方法



注意-通気と温度に関連する問題。適切な通気と冷却を確保するため、すべての CMOD スロットに、CMOD またはフィラーモジュールのいずれかを含める必要があります。空いている CMOD スロットがある場合は、サーバーを動作させないでください。

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 必要に応じて CMOD を取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
- 3 CMOD フィラーレバーのロックを解除するには、レバーの先端にある緑色の爪を両側から押します。
- 4 レバーを右に回して完全に開いた状態にします。
レバーは90度より大きく開きません。
- 5 レバーが右にある状態で、フィラーをスロットに配置します。

- 6 フィラーをスロット内に挿し込み、止まるまでスライドさせます。
止まった位置より奥にフィラーを押し込まないでください。



- 7 レバーにある歯止めが、**CMOD**の側面にあるスロットと合っていることを確認します。
- 8 フィラーを取り付けるには、レバーを左に回し、フィラーの前面と重なる位置までしっかりと押し込みます。



注意-指を挟まないように注意してください。レバーの後ろに指を挟まないように注意してください。

レバーを左に回して、歯止めを側面に固定します。固定されるまでフィラーをスロット内に押し込みます。

- 9 レバーをロックするには、ラッチがロックされた音がするまでレバーを押します。

次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」。

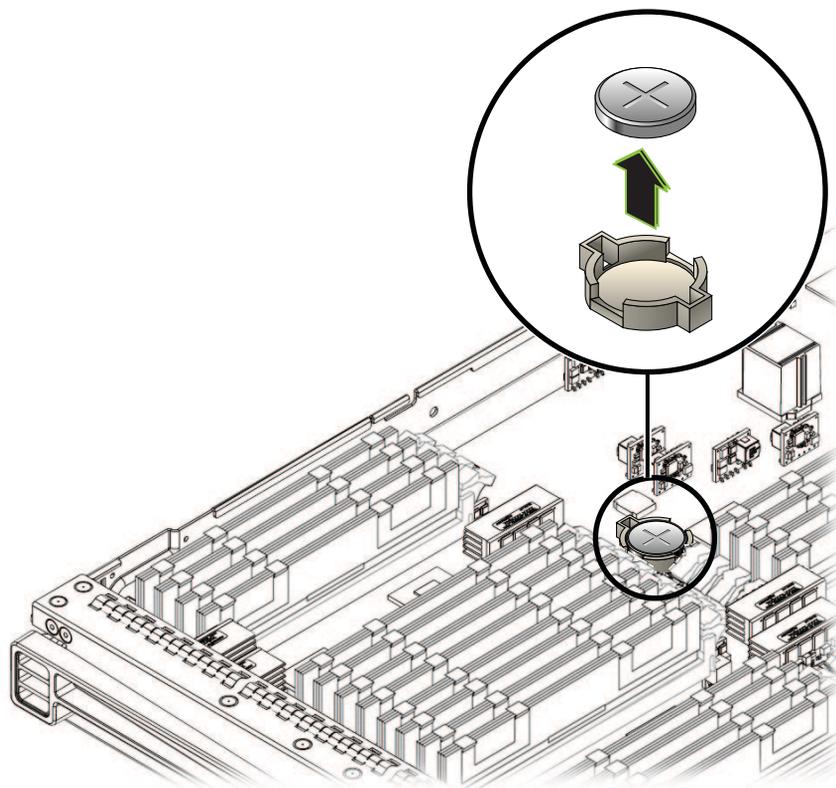
▼ CMOD バッテリー (CRU) を交換する方法

バッテリー (タイプ CR2032) は、マザーボード上にあります。RAID 拡張モジュール (REM) がサーバーに取り付けられている場合は、まず、これを取り外してからバッテリーにアクセスする必要があります。

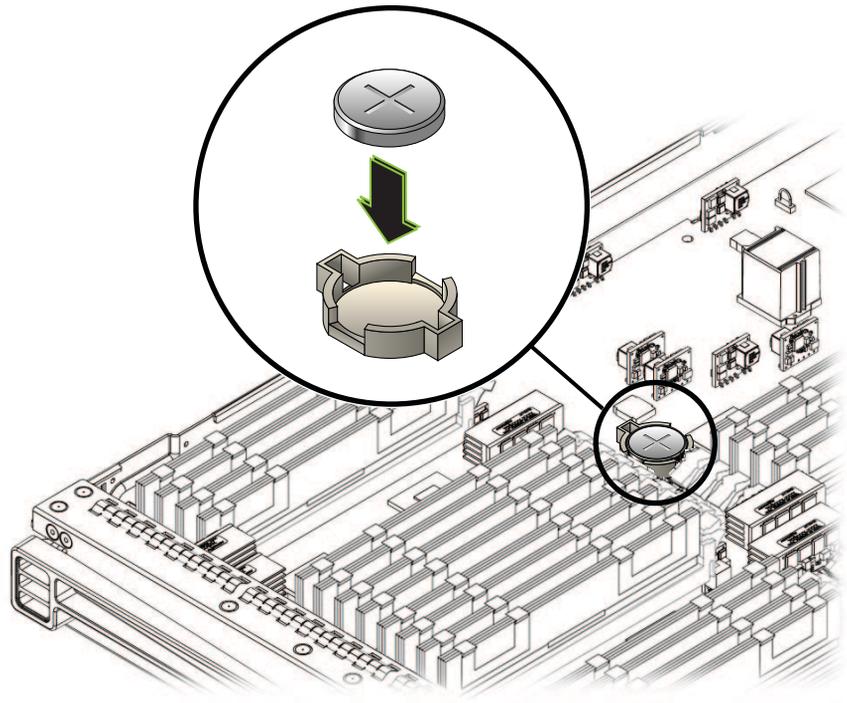
始める前に 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 CMOD をサーバーから取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
- 3 CMOD を平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。
- 4 CMOD カバーを取り外します。82 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法」を参照してください。
- 5 CMOD に REM カードが取り付けられている場合は、バッテリーにアクセスするために REM カードを取り外す必要があります。102 ページの「RAID 拡張モジュールを取り外す方法」を参照してください。
REM カードは CMOD 0 (BL 0) でのみサポートされます。
- 6 バッテリーをバッテリーソケットから取り外し、サーバーから取り外します。

注 - 取り外したバッテリーは、地域の規則および施設の手順に従って、廃棄またはリサイクルしてください。



- 新しいバッテリーを取り付けるには、プラス端子 (+) 側を上にしてバッテリーをバッテリーソケットの上に置き、ソケットに正しくはまるまでバッテリーを注意深く押し込みます。



- 必要に応じて、REM カードを取り付けます。103 ページの「RAID 拡張モジュールを取り付ける方法」を参照してください。
- カバーを取り付けます。83 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り付ける方法」を参照してください。
- CMOD をサーバーに取り付けます。84 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り付ける方法」を参照してください。
- サーバーをスタンバイ電源モードに設定します。47 ページの「電源モード」を参照してください。
- システムクロックを設定し、その他の BIOS 設定を行います。148 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする方法」を参照してください。

次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

DIMM (CRU) の取り外しと取り付け

オンボードの障害 LED を使用して DIMM のトラブルシューティングを行う方法については、『Sun Fire X4800 M2 Server Diagnostics Guide』を参照してください。

この節では、DIMM の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

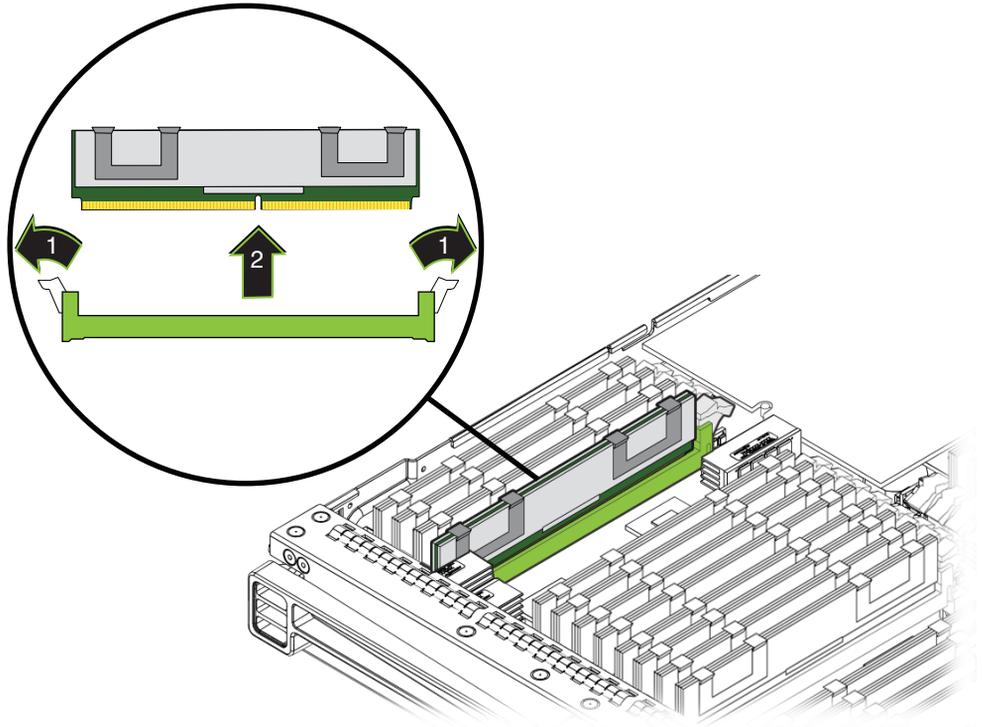
- 96 ページの「DIMM を取り外す方法」
- 98 ページの「DIMM を取り付ける方法」

▼ DIMM を取り外す方法

- 始める前に
- DIMM のトラブルシューティング情報については、『Sun Fire X4800 M2 Server Diagnostics Guide』を参照してください。
 - 29 ページの「DIMM の概要」
 - 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 CMOD をサーバーから取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
 - 3 モジュールを平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。
 - 4 CMOD カバーを取り外します。82 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法」を参照してください。
 - 5 DIMM の障害を確認するには、CMOD マザーボード上の障害検知ボタンを押します。障害検知ボタンにより、障害の発生した DIMM を含む DIMM ペアの LED が作動します。

注 - DIMM のトラブルシューティング情報の詳細については、『Sun Fire X4800 M2 Server Diagnostics Guide』を参照してください。

- DIMM のロックを解除するには、同時に2つの取り外しレバーを DIMM の外側へいっぱいに戻します。
これにより、ロックが解除され、DIMM スロットから DIMM を取り出すことができます。



- サーバーから DIMM を取り外します。
- DIMM を交換する場合は、98 ページの「DIMM を取り付ける方法」を参照してください。
- CMOD の上部カバーを取り付けます。83 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り付ける方法」を参照してください。
- CMOD をサーバーに挿し込みます。84 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り付ける方法」を参照してください。

次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

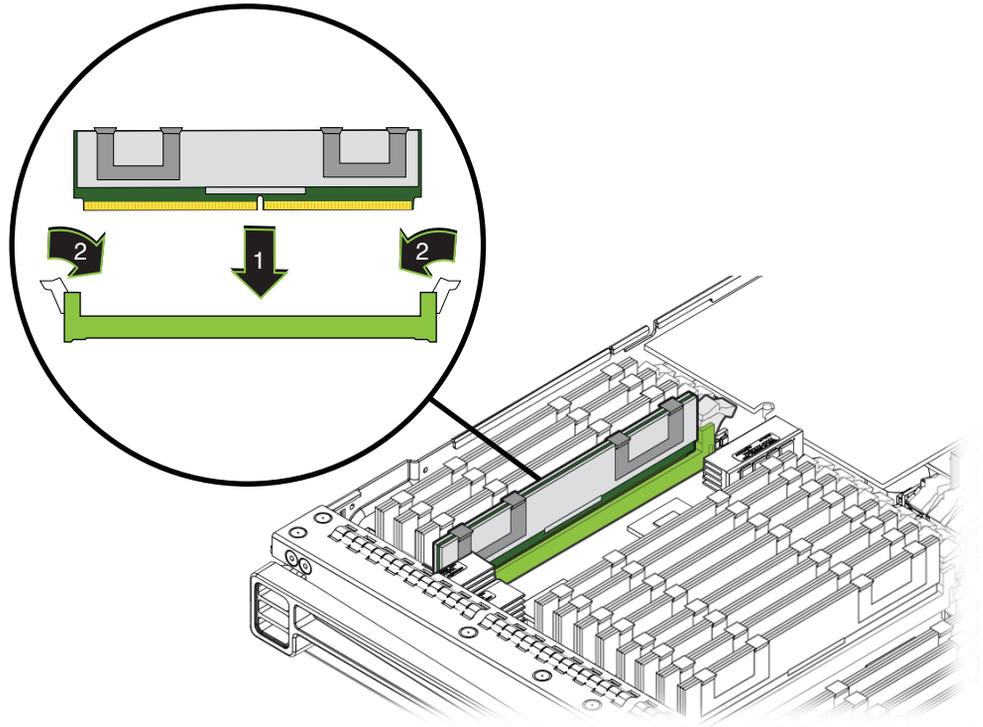
参照 101 ページの「最大構成のメモリー」

▼ DIMM を取り付ける方法

- 始める前に
- 87 ページの「CPU モジュール (CMOD) の指定と配置規則」.
 - 29 ページの「DIMM の概要」
 - 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー の CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 CMOD をサーバーから取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
 - 3 CMOD を平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。
 - 4 CMOD カバーを取り外します。82 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法」を参照してください。
 - 5 DIMM スロットのロックレバーが完全に開いた状態になっていることを確認します。

6 DIMM をスロット内に配置します。

DIMM には、スロット内のキー (突起部) と適応するように刻み目があります。キーにより DIMM を正しく取り付けることができます。DIMM は一方向にのみ正しく取り付けができます。



- 7 DIMM を取り付けるには、DIMM の両端を同時に押し下げてスロットに押し込みます。**
これにより DIMM のロックレバーが持ち上がり、DIMM が正しい位置にロックされます。
- 8 DIMM が正しく取り付けられロックされていることを確認します。**
正しい位置にロックされると、DIMM は取り外すことができません。
- 9 CMOD カバーを取り付けます。** [83 ページの「CPU モジュール \(CMOD\) カバーを取り付ける方法」](#) を参照してください。
- 10 CMOD をサーバーに取り付けます。** [84 ページの「CPU モジュール \(CMOD\) を取り付ける方法」](#) を参照してください。

次の手順 [58 ページの「操作のために準備を行う方法」](#)。

参照 96 ページの「DIMM を取り外す方法」

DIMM 配置規則

この節では、Sun Fire X4800 M2 サーバーへの DIMM の追加に関する情報について説明します。

- 100 ページの「配置規則」
- 101 ページの「最大構成のメモリー」
- 101 ページの「サポートされない DIMM」

配置規則

- メモリーの動作速度は最大 1066 MHz です。
- サポートされる DIMM には、シングルランクまたはデュアルランクの 2G ビット、4G ビット、8G ビットの 1066 MHz JEDEC 標準の DDR3 ECC RDIMM が含まれます。
- CMOD 上の DIMM はすべて同じ密度と編成である必要があります。
- 各 CMOD では最大 32 の DIMM がサポートされます。合計 16 または 32 の DIMM の構成が可能です。
 - 8 ソケットの Sun Fire X4800 M2 サーバーでは、最大 128 の DIMM がサポートされます。
 - 4 ソケットの Sun Fire X4800 M2 サーバーでは、最大 64 の RDIMM がサポートされます。
- DIMM スロットは、次の配置順で色分けされています。
 1. 青色
 2. 白色
 3. 黒色
 4. 緑色
- DIMM スロットは同じメモリーキットから同一の DIMM とペアにして、プロセッサ内に配置する必要があります。
 1. D0/D4
 2. D1/D5
 3. D2/D6
 4. D3/D7
 5. D8/D12
 6. D9/D13
 7. D10/D14
 8. D11/D15

最大構成のメモリー

次のリストは、サポートされるメモリー構成の一覧です。

- 全割り当てされた構成:
 - 全割り当てされた 8 ソケット構成:
 - シングルランク DIMM: 512G バイト (128 x 4G バイト DIMM)
 - デュアルランク DIMM: 1024G バイト (128 x 8G バイト DIMM)
 - 全割り当てされた 4 ソケット構成:
 - シングルランク DIMM: 256G バイト (64 x 4G バイト DIMM)
 - デュアルランク DIMM: 512G バイト (64 x 8G バイト DIMM)

関連項目:

- [29 ページの「DIMM の概要」](#) .
- [96 ページの「DIMM \(CRU\) の取り外しと取り付け」](#)

サポートされない DIMM

Sun Fire X4800 M2 サーバー では、次の DIMM はサポートしていません。

- サポートされないメモリー構成には、MetaRAM、LR-DIMM または UDIMMs、1066 MHz を上回る速度の DDR3、256M バイト / 512M バイト / 4G バイト DRAM テクノロジを使用している DIMM、x16 DRAM デバイスを使用している DIMM、DDR3-800 MHz RDIMM、DDR3-978 MHz RDIMM が含まれます。

関連項目:

- [29 ページの「DIMM の概要」](#) .
- [96 ページの「DIMM \(CRU\) の取り外しと取り付け」](#)

RAID 拡張モジュール (CRU) の取り外しと取り付け

注 - RAID 拡張モジュール (REM) は CMOD0 (BL0) でのみサポートされます。

この節では、RAID 拡張モジュール (REM) の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

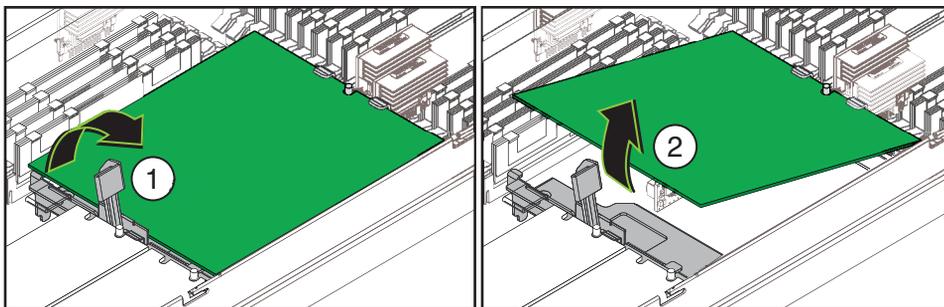
- [102 ページの「RAID 拡張モジュールを取り外す方法」](#)
- [103 ページの「RAID 拡張モジュールを取り付ける方法」](#)

▼ RAID 拡張モジュールを取り外す方法

注 - RAID 拡張モジュール (REM) は CMOD 0 (BL 0) でのみサポートされます。

始める前に 30 ページの「RAID 拡張モジュールの概要」

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 CMOD をサーバーから取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
- 3 CMOD を平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。
- 4 CMOD カバーを取り外します。82 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法」を参照してください。
- 5 REM 取り外しハンドルを持ち上げて回し、完全に開いた状態にします。
これにより REM をマザーボードのコネクタから取り出すことができます。



- 6 REM のコネクタの端を持ち上げて、前面のサポートブラケットの固定クリップから REM を取り外します。

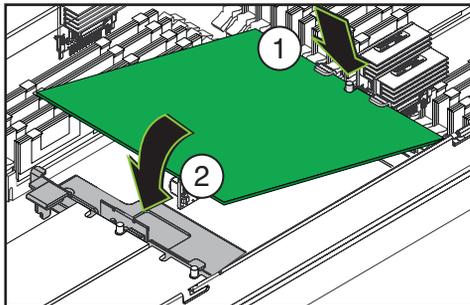
次の手順 103 ページの「RAID 拡張モジュールを取り付ける方法」

- 参照
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
 - 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

▼ RAID 拡張モジュールを取り付ける方法

注 - RAID 拡張モジュール (REM) は CMOD 0 (BL 0) でのみサポートされます。

- 始める前に
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
 - 30 ページの「RAID 拡張モジュールの概要」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 CMOD をサーバーから取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
 - 3 CMOD を平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。
 - 4 CMOD カバーを取り外します。82 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法」を参照してください。
 - 5 マザーボード上の REM コネクタから保護キャップを取り外します。
 - 6 RAID 拡張モジュール (REM) をパッケージから取り出します。
 - 7 REM 取り外しレバーが閉じていることを確認します。
レバーが REM サポートブラケットと平坦になるようにしてください。
 - 8 バッテリーを下に向けて REM を配置し、コネクタをマザーボード上のコネクタと合わせます。



- 9 REM の反対側の端を前面のサポートブラケットの固定クリップの下に滑り込ませ、REM のエッジにある刻み目がブラケットの位置合わせポストの周囲に来るようにします。

- 10 REM のコネクタの先端が REM がマザーボード上のコネクタに接触するまで注意深く下げて配置します。
- 11 コネクタが合っていることを確認します。
- 12 コネクタを固定するには、REM をレベル位置まで注意深く押し下げます。
- 13 CMOD カバーを取り付けます。83 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り付ける方法」を参照してください。

次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

ファブリック拡張モジュール (CRU) の取り外しと取り付け

注 - ファブリック拡張モジュール (FEM) は CMOD 0 (BL 0) でのみサポートされます。

この節では、ファブリック拡張モジュール (FEM) の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

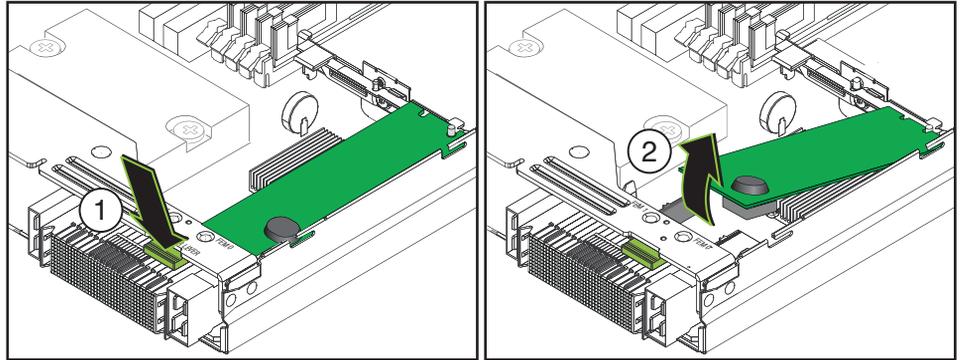
- 104 ページの「ファブリック拡張モジュールを取り外す方法」
- 105 ページの「ファブリック拡張モジュールを取り付ける方法」

▼ ファブリック拡張モジュールを取り外す方法

注 - ファブリック拡張モジュール (FEM) は CMOD 0 (BL 0) でのみサポートされます。CMOD には FEM スロットが 2 つあります。FEM はスロット 0 (FEM 0) でのみ利用できます。スロット 0 は CMOD のエッジに最も近いスロットです。

- 始める前に
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
 - 32 ページの「ファブリック拡張モジュールの概要」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 CMOD をサーバーから取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
 - 3 CMOD を平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。

- 4 **CMOD カバー**を取り外します。82 ページの「**CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法**」を参照してください。
- 5 **FEM** をマザーボードのコネクタから取り外すには、サーバー背面にある **FEM** のリリースボタンを押し下げます。
これにより **FEM** をコネクタから取り出すことができます。



- 6 コネクタの先端で **FEM** を注意深く持ち上げます。
FEM は前面のサポートブラケットにある固定クリップによって反対側の端に固定されています。
- 7 **FEM** を取り外すには、固定クリップからスライドさせてサーバーから引き出します。

次の手順 105 ページの「**ファブリック拡張モジュールを取り付ける方法**」。

- 参照
- 83 ページの「**CPU モジュール (CMOD) カバーを取り付ける方法**」
 - 58 ページの「**操作のために準備を行う方法**」。

▼ ファブリック拡張モジュールを取り付ける方法

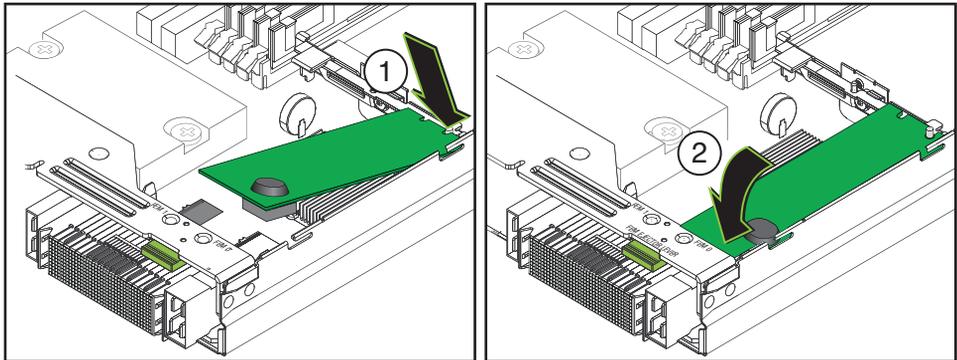
注 - ファブリック拡張モジュール (FEM) は CMOD 0 (BL0) でのみサポートされます。CMOD には FEM スロットが 2 つあります。FEM はスロット 0 (FEM0) でのみ利用できます。スロット 0 は CMOD のエッジに最も近いスロットです。

- 始める前に
- 14 ページの「**Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて**」
 - 32 ページの「**ファブリック拡張モジュールの概要**」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「**サービスの準備を行う方法**」を参照してください。

- 2 **CMOD** をサーバーから取り外します。80 ページの「**CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法**」を参照してください。
- 3 **CMOD** を平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。
- 4 **CMOD** カバーを取り外します。82 ページの「**CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法**」を参照してください。
- 5 **FEM** コネクタから保護カバーを取り外します。

注-サーバーのコネクタには、保護キャップが付いていない場合があります。

- 6 パッケージから **FEM** を取り出します。
- 7 サーバー内の **FEM** を、**FEM** のコネクタがマザーボードのコネクタの上の位置になるよう配置します。
- 8 反対側の端を前面のサポートブラケットの固定クリップに滑り込ませ、**FEM** のエッジにある刻み目がブラケットの位置合わせポストの周囲に来るようにします。



- 9 **FEM** を取り付けるには、**FEM** のコネクタをマザーボードのコネクタの上に注意深く押し込みます。
完全に固定されると、**FEM** がレベル位置になります。
- 10 **CMOD** カバーを取り付けます。83 ページの「**CPU モジュール (CMOD) カバーを取り付ける方法**」を参照してください。

次の手順 58 ページの「**操作のために準備を行う方法**」。

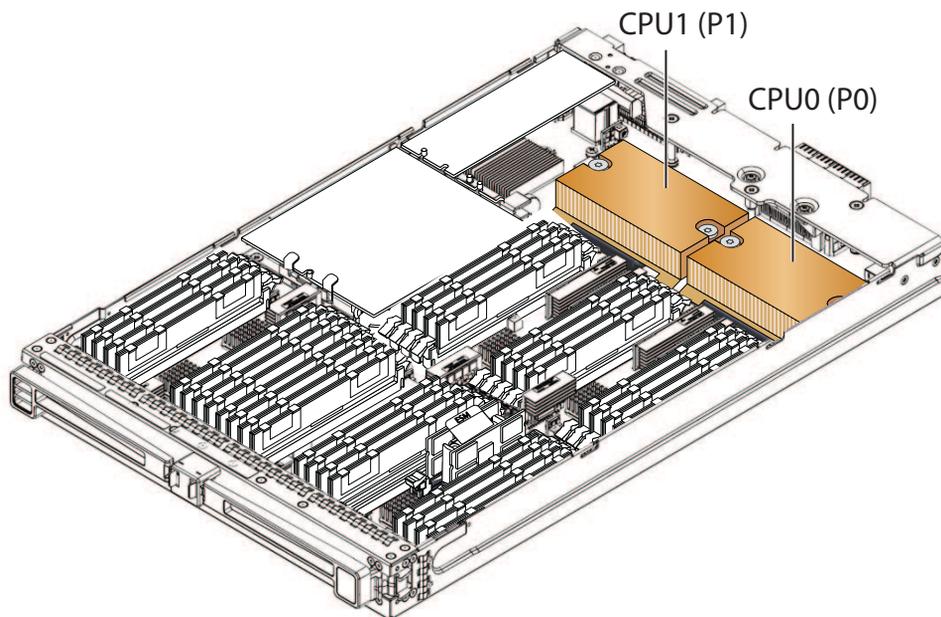
CPU とヒートシンク構成部品 (FRU) の交換

この節では、CPU とヒートシンク構成部品の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 107 ページの「CPU の指定」
- 107 ページの「CPU とヒートシンク構成部品 (FRU) を取り外す方法」
- 110 ページの「CPU とヒートシンクアセンブリ (FRU) を取り付ける方法」

CPU の指定

CPU は CPU 0 と CPU 1 に指定されています。CMOD の正面から見て左が CPU 0、右が CPU 1 です。



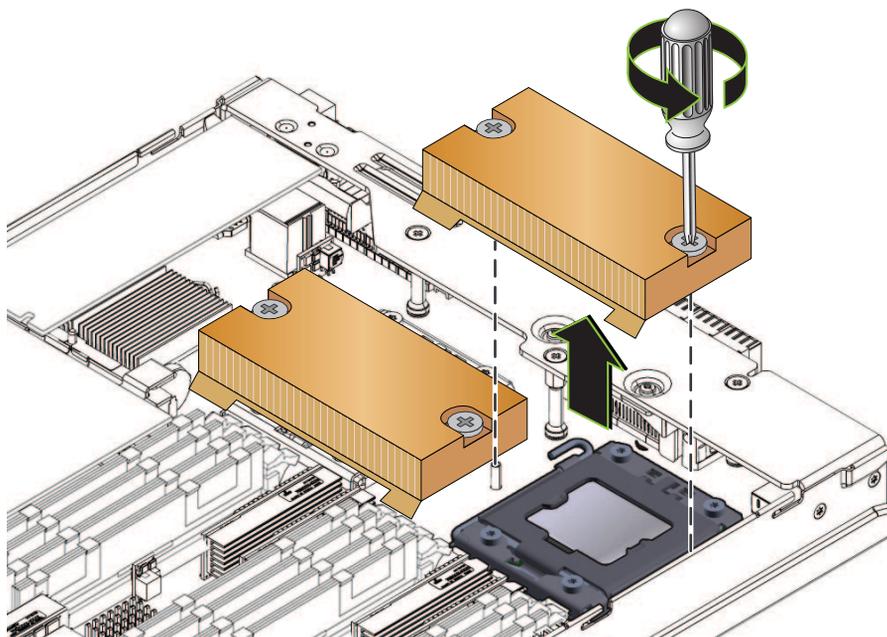
▼ CPU とヒートシンク構成部品 (FRU) を取り外す方法

CPU 障害を診断するために障害検知ボタンを使用する手順は、『[Sun Fire X4800 M2 Server Diagnostics Guide](#)』に記載されています。CPU を交換するには、次の手順を実行します。CPU 交換キットには、CPU、アルコールワイプ、サーマルコンパウンドのシリンジが含まれます。CPU を交換する際、ヒートシンクを再利用します。ヒートシンクは破棄しないでください。

- 始める前に
- 14 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーの CPU モジュールおよび CMOD フィラーモジュールについて」
 - 33 ページの「CPU とヒートシンク 構成部品の概要」
 - 107 ページの「CPU の指定」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 CMOD をサーバーから取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
 - 3 CMOD を平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。
 - 4 CMOD カバーを取り外します。82 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法」を参照してください。
 - 5 マザーボードにマウントされている青い障害検知ボタンを使用して、取り外す必要のある CPU とヒートシンク構成部品を特定します。

- 6 ヒートシンクの中央を押し下げ、プラスのねじ回し (Phillipsの2番) を使用して、ヒートシンクを固定している2つのばね付きの脱落防止機構付きねじを完全に緩めます。

ヒートシンクを押し下げると、ばね付きねじによる生成圧力が解放されます。

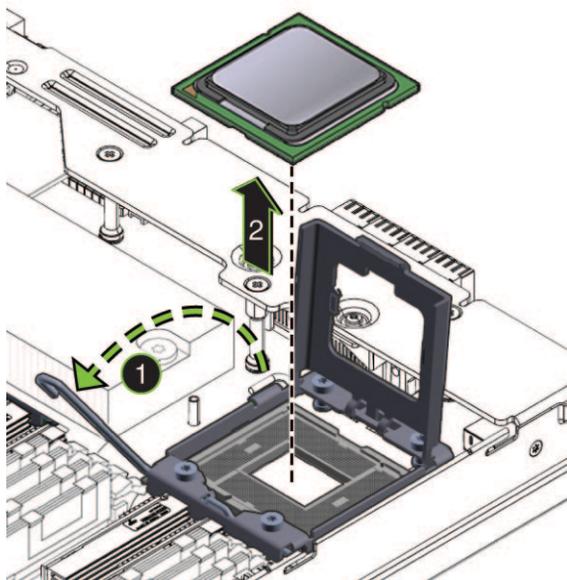


- 7 ヒートシンクを取り外すには、左右へ少しねじってサーマルコンパウンドによって生成された接着シールを破ります。

CPUの上部とヒートシンクの下部の間にあるサーマルコンパウンドは、軽度の接着剤として機能します。

- 8 取り外したヒートシンクは取っておきますが、ヒートシンクの下部に残ったサーマルコンパウンドによって、ほかの部品や作業スペースが汚れないように注意します。

- 9 CPUの固定カバーのロックを解除するには、ばね付きの取り外しレバーを押し下げ、CPUと取り外しレバーの固定クリップから少し離れた場所に動かします。



- 10 取り外しレバーを完全に直立した位置に持ち上げます。
- 11 CPUの固定カバーを完全に直立した位置に持ち上げます。
- 12 CPUをソケットから持ち上げます。
- 13 取り外したCPUは取っておきますが、CPUの上部に残ったサーマルコンパウンドによって、ほかの部品や作業スペースが汚れないように注意します。

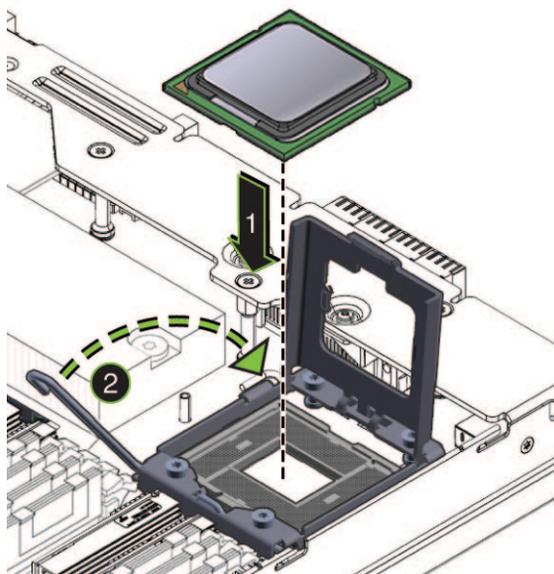
参照 [110ページの「CPUとヒートシンクアセンブリ \(FRU\) を取り付ける方法」](#)

▼ CPUとヒートシンクアセンブリ (FRU) を取り付ける方法

CPUを取り付けるには、次の手順を実行します。CPU交換キットには、CPU、アルコーンワイプ、サーマルコンパウンドのシリンジが含まれます。CPUを交換する際、ヒートシンクを再利用します。ヒートシンクは破棄しないでください。

- 始める前に
- [14ページの「Sun Fire X4800 M2サーバーのCPUモジュールおよびCMODフィルターモジュールについて」](#)
 - [33ページの「CPUとヒートシンク構成部品の概要」](#)
 - [107ページの「CPUの指定」](#)

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 CMOD をサーバーから取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
- 3 CMOD を平らな静電気防止面にセットし、十分なスペースと照明を確保します。
- 4 CMOD カバーを取り外します。82 ページの「CPU モジュール (CMOD) カバーを取り外す方法」を参照してください。
- 5 CPU とヒートシンク構成部品を取り外します。107 ページの「CPU とヒートシンク構成部品 (FRU) を取り外す方法」を参照してください。
- 6 CPU 交換キットに含まれているアルコールワイプを使用して、ヒートシンクの底面に残ったサーマルコンパウンドを拭き取ります。
ヒートシンクの底面は、CPU の上部と接触しています。
- 7 CPU の固定カバーと取り外しレバーが完全に直立した位置にあることを確認します。



- 8 正しく取り付けるには、**CPU**上のキーイングとソケットのキーイングを合わせます。

CPUの角の1つに三角の印があり、CPUソケットの角の1つにも三角の印があります。これらの2つの角の位置が合っている必要があります。この位置が合っていると、CPUのキーイングノッチとソケットの爪の位置も合います。

- 9 **CPU**をソケットに注意深くセットし、ソケットと**CPU**のノッチとインデントをそろえ、**CPU**がソケット内で水平になるようにします。

正しく取り付けると、CPUはソケット内にぴったりと収まります。



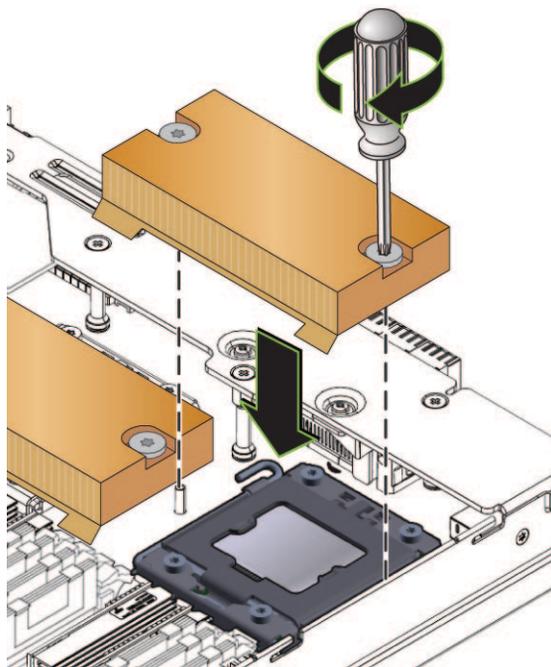
注意-コンポーネントが損傷する可能性があります。CPUソケットのピンは損傷を受けやすいため、触れたりCPUに誤って取り付けると破損する可能性があります。CPUをソケットの上に落下させないでください。CPUはソケットの上に載せません。挿し込む必要はありません。CPUを下に押し込まないでください。

- 10 **CPU**の固定カバーを閉じます。
- 11 取り外しレバーを下ろし、固定クリップの下に固定します。
- 12 **CPU**交換キットに含まれているサーマルコンパウンドのシリンジの中身をすべて、**CPU**の上部に均一に塗ります。
アスタリスクの形に塗ると、サーマルコンパウンドを均一に塗ることができます。



注意-熱によりコンポーネントが損傷する可能性があります。CPU表面からの熱移動を適切に行うために、シリンジの中身をすべて塗布してください。

- 13 ヒートシンクの底面をCPUの上に配置し、ヒートシンク内の脱落防止機構付きねじとマザーボード上のスタンドオフ型のねじ穴を合わせます。



- 14 CPUの上にヒートシンクを下ろします。



注意-システムの熱による障害が生じたり、部品が損傷したりする可能性があります。ヒートシンクの底面がCPUの上部と接触したら、それ以上ヒートシンクを動かさないでください。ヒートシンクを過度に動かすと、サーマルコンパウンドがこすれて均一でなくなる可能性があります。この場合、サーマルコンパウンドに隙間ができて、CPUからの熱伝導に悪影響を及ぼす可能性があります。

- 15 ヒートシンクの中央を押し下げて、脱落防止機構付きねじとマザーボードのスタンドオフ型のねじ穴を合わせます。
- 16 ヒートシンクを固定するには、両方のねじが完全に締まるまで、脱落防止機構付きねじを交互に締めます。
各ねじを一度に半分ずつ回します。
- 17 **CMOD** カバーを取り付けます。83 ページの「**CPU** モジュール (**CMOD**) カバーを取り付ける方法」を参照してください。

次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

ファンモジュール (CRU) の取り外しと取り付け

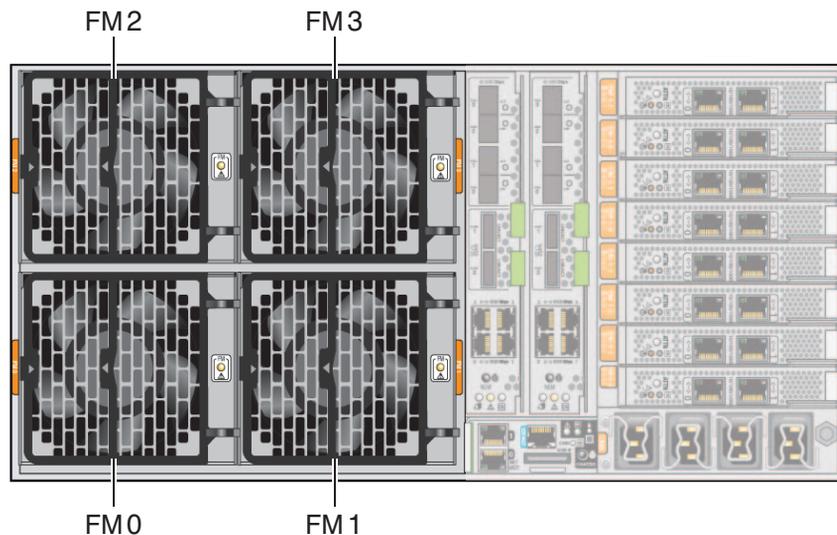
注 - ファンモジュールは顧客交換可能ユニット (CRU) です。

この節では、ファンモジュール (FM) の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 114 ページの「ファンモジュールの指定」
- 115 ページの「ファンモジュールを取り外す方法」
- 117 ページの「ファンモジュールを取り付ける方法」

ファンモジュールの指定

4つのファンモジュール (FM) は、FM0 - FM3 に指定されています。下が FM0 と FM1 で、上が FM2 と FM3 です。



▼ ファンモジュールを取り外す方法

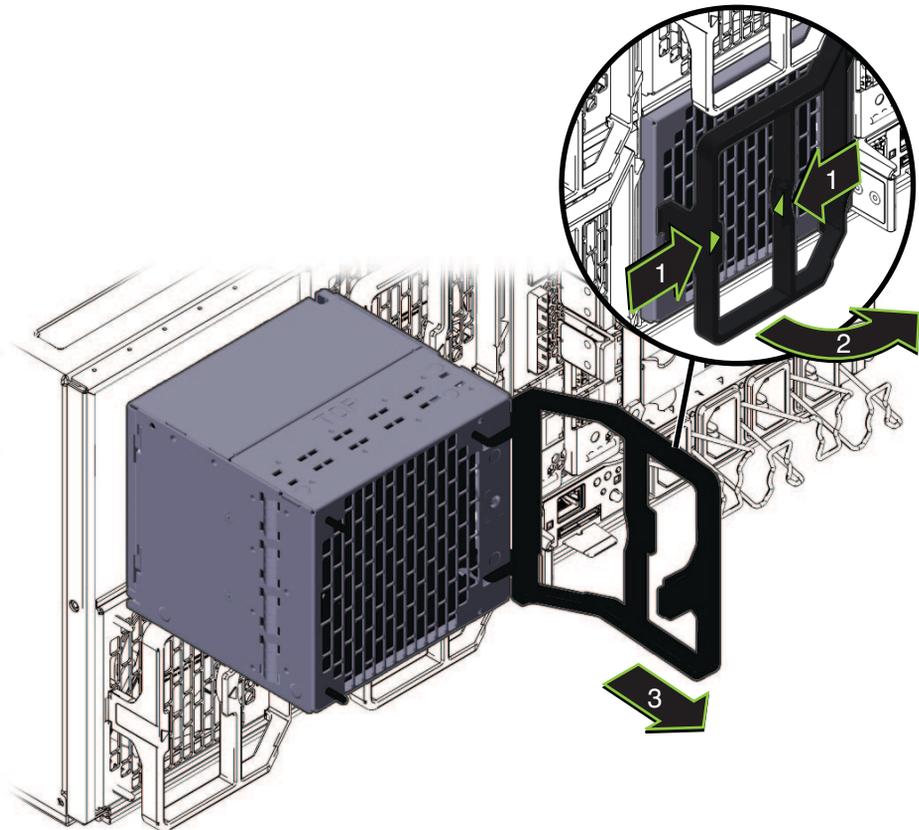


注意-異常な温度上昇によりシステムや部品が損傷する可能性があります。冷却が不十分な状態でシステムを動作させないでください。機能していない部品を即時に交換し、適切な通気を確保して、正常に機能する冷却システムの完全性を維持してください。

注-ファンモジュールはホットスワップコンポーネントです。

- 始める前に
- 35 ページの「ファンモジュールの概要」
 - 114 ページの「ファンモジュールの指定」
- 1 必要に応じて、サーバーで保守のための準備を行ないます。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 サーバーの背面にアクセスし、交換する必要があるファンモジュール(FM)を特定します。

- 3 FMハンドルを取り外すには、2つの緑色のリリースポイントを両側からゆっくりと押し、ハンドルを外側に引き出して完全に開いた状態にします。



- 4 取り外すには、サーバーから FM を引き出します。



注意-サーバーが異常な温度上昇の状態になる可能性があります。ファンモジュールを取り外すと、サブアセンブリモジュール内の通気ペーンが自動的に閉じ、サーバーの冷却システムを完全な状態に維持します。通気ペーンの目的を無駄にしないでください。

- 5 ファンモジュールを交換する場合は、117ページの「ファンモジュールを取り付ける方法」を参照してください。

- 参照
- 58ページの「操作のために準備を行う方法」
 - 18ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」

▼ ファンモジュールを取り付ける方法

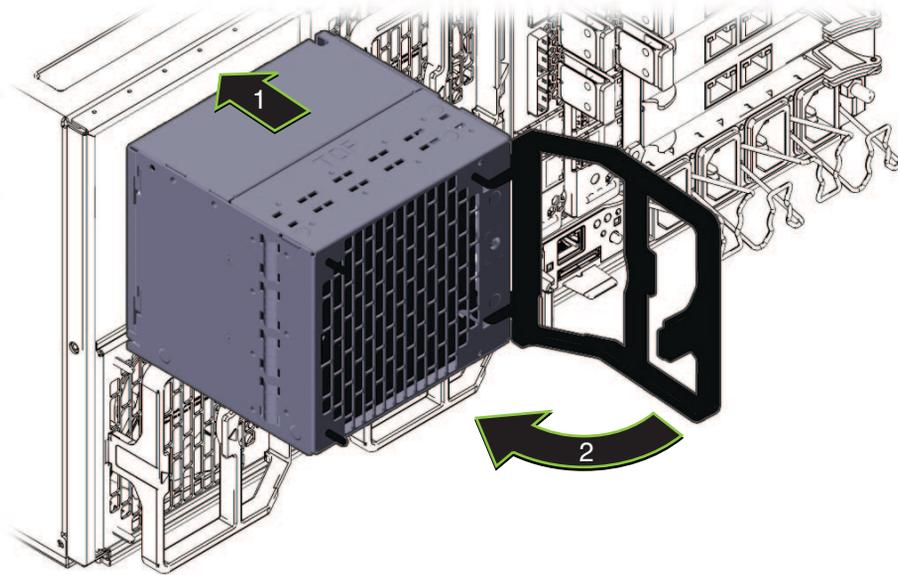


注意-異常な温度上昇によりシステムや部品が損傷する可能性があります。冷却が不十分な状態でシステムを動作させないでください。機能していない部品を即時に交換し、適切な通気を確保して、正常に機能する冷却システムの完全性を維持してください。

注-ファンモジュールはホットスワップコンポーネントです。

- 始める前に
- 18 ページの「[Sun Fire X4800 M2 サーバー のサブアセンブリモジュールの概要](#)」。
 - 35 ページの「[ファンモジュールの概要](#)」
 - 115 ページの「[ファンモジュールを取り外す方法](#)」
- 1 必要に応じて、サーバーで保守のための準備を行ないます。57 ページの「[サービスの準備を行う方法](#)」を参照してください。
 - 2 サーバーの背面にアクセスします。
 - 3 ファンモジュールのハンドルが完全に開いた位置にあることを確認します。
ファンモジュールのハンドルを取り外すには、2つの緑色のリリースポイントを両側からゆっくと押し、ハンドルを外側に引き出して完全に開きます。

- 4 ファンモジュールを取り付けるには、モジュールを手で持ち、空いているモジュールベイに挿し込みます (1)。



- 5 モジュールを **FB** の内部コネクタと接続するには、モジュールが止まるまで内側にしっかり押し込みます。
- 6 ハンドルを動かして完全に閉じた状態にします (2)。
ハンドルのロックが掛かると音がします。
- 7 必要に応じて、サーバーで操作のための準備を行ないます。58 ページの「操作のために準備を行う方法」を参照してください。

参照 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」

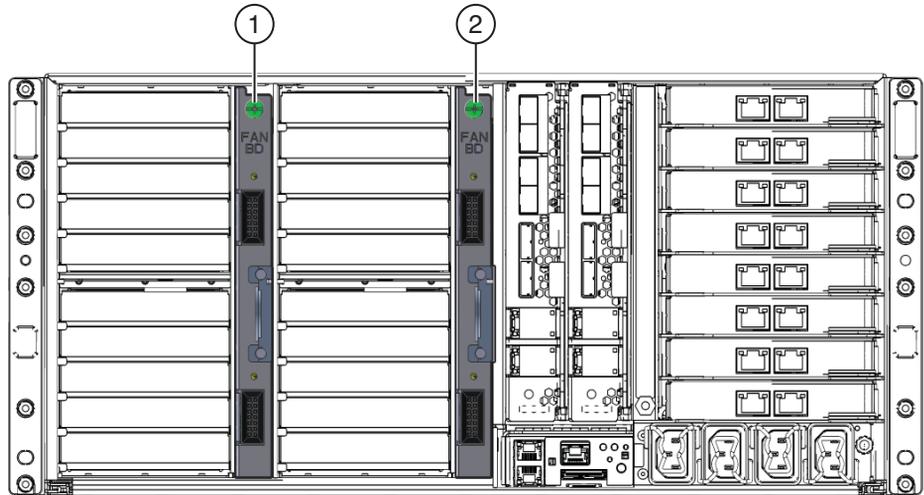
ファンモジュールコントローラボード (FRU) の交換

この節では、ファンモジュールコントローラボード (FB) の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 119 ページの「ファンモジュールコントローラボード (FB) の指定」
- 119 ページの「ファンモジュールコントローラボードを取り外す方法」
- 120 ページの「ファンモジュールコントローラボードを取り付ける方法」

ファンモジュールコントローラボード (FB) の指定

これらは2つのファンモジュールコントローラボード FB0 および FB1 です。ファンモジュールコントローラボード (FB) は、それぞれ2つのファンモジュールを制御します。FB はサーバー背面の SAM 内のファンモジュールの背後にあります。



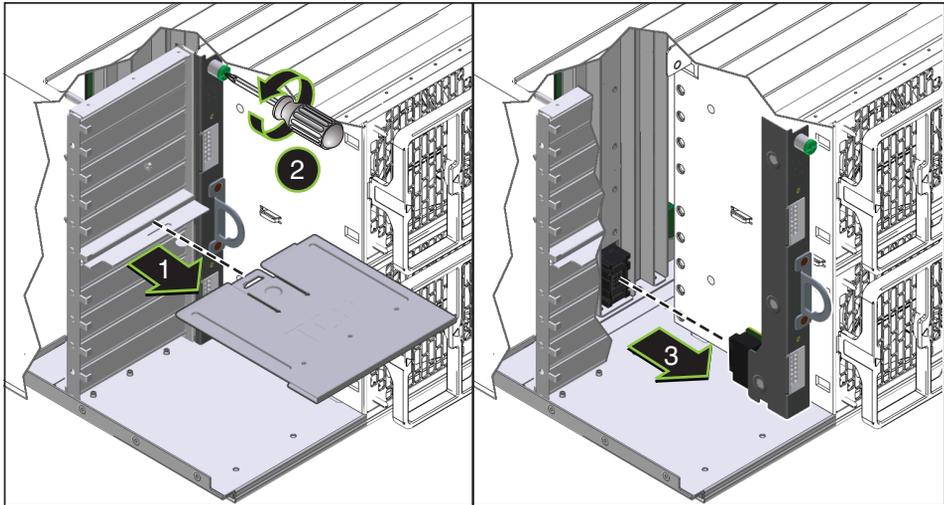
ファンコントローラボード

- | | |
|---|---------------------|
| 1 | FB0 (FM0 と FM2 を制御) |
| 2 | FB1 (FM1 と FM3 を制御) |

▼ ファンモジュールコントローラボードを取り外す方法

- 始める前に
- 42 ページの「ファンモジュールコントローラボード (FB) の概要」
 - 114 ページの「ファンモジュールの指定」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 サーバーの背面にアクセスします。
 - 3 交換する必要がある **FB** によって制御されている **FM** を取り外します。119 ページの「ファンモジュールコントローラボード (FB) の指定」を参照してください。

- 4 ファンシェルフを取り外すには、緑色のリリース爪を押し下げ、シェルフをファンベイから引き出します (1)。



- 5 FBを固定している緑色の脱落防止機構付きねじを完全に緩めます (2)。
- 6 FBを取り外すには、コントローラボード構成部品のハンドルを引きます (3)。

次の手順 [120 ページの「ファンモジュールコントローラボードを取り付ける方法」](#)

参照 [18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」](#)

▼ ファンモジュールコントローラボードを取り付ける方法



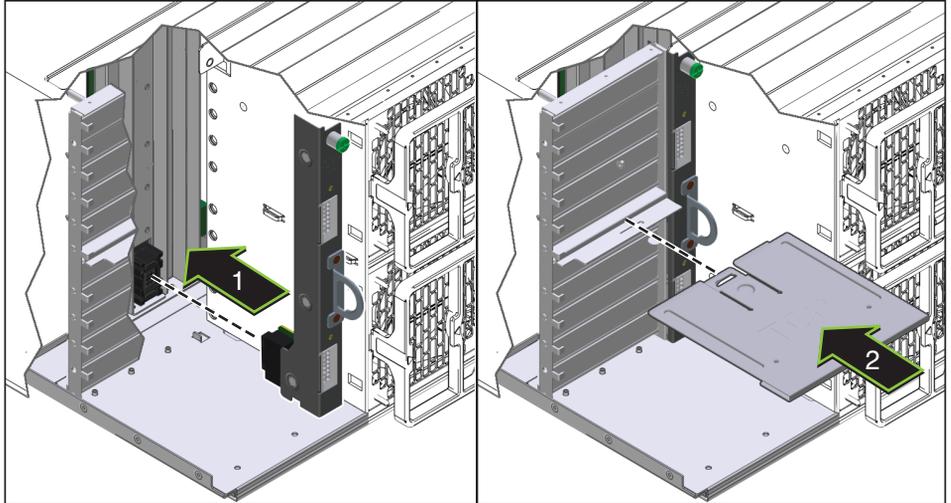
注意 - 異常な温度上昇によりシステムや部品が損傷する可能性があります。冷却が不十分な状態でシステムを動作させないでください。機能していない部品を即時に交換し、適切な通気を確保して、正常に機能する冷却システムの完全性を維持してください。

始める前に

- [42 ページの「ファンモジュールコントローラボード \(FB\) の概要」](#)
- [119 ページの「ファンモジュールコントローラボードを取り外す方法」](#)

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。[57 ページの「サービスの準備を行う方法」](#)を参照してください。
- 2 サーバーの背面にアクセスします。

- 3 **FB** を交換する場合は、[119 ページ](#)の「ファンモジュールコントローラボードを取り外す方法」を参照してください。
- 4 ハンドルを使用して、**FB** をサーバーに挿し込みます (1)。
FB のコネクタが SAM のコネクタに固定されたことを確認します。



- 5 **FB** 構成部品を固定するには、緑色の脱落防止機構付きねじを完全に締めます。
- 6 緑色のリリース爪の付いた部分を上向きにしてファンシェルフの向きを合わせます。
- 7 ファンシェルフを取り付けるには、ファンベイのガイドに合わせて、正しい位置にロックされるまでスライドさせます (2)。
これによりシェルフのロックが掛かると、音がします。
- 8 **FM** を取り付けます。[117 ページ](#)の「ファンモジュールを取り付ける方法」を参照してください。

次の手順 [58 ページ](#)の「操作のために準備を行う方法」

参照 [18 ページ](#)の「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」

NEM または NEM フィラー (CRU) の取り外しと取り付け

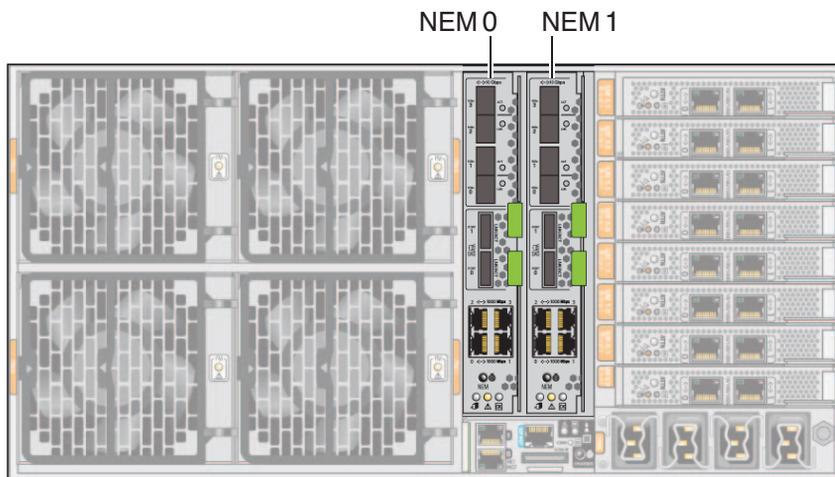
注 - NEM はホットスワップ可能なコンポーネントです。

この節では、Network Express Module (NEM) の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

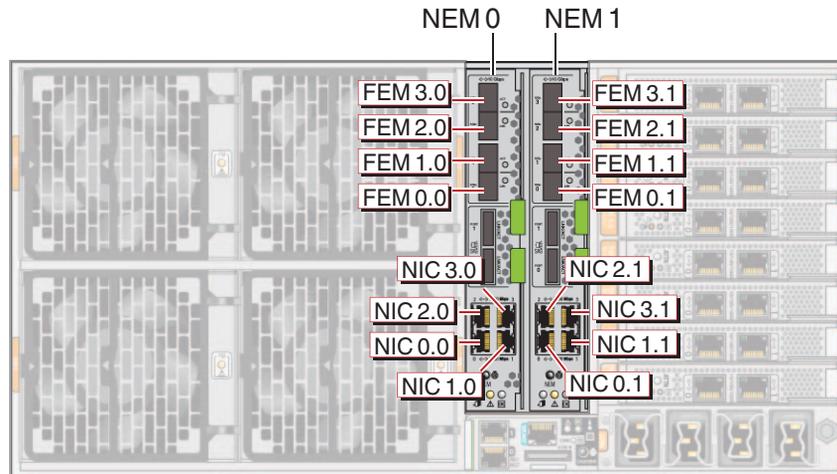
- 122 ページの「Network Express module の指定と割り当て」
- 123 ページの「NEM または NEM フィラーを取り外す方法」
- 125 ページの「NEM または NEM フィラーを取り付ける方法」

Network Express module の指定と割り当て

Network Express Module (NEM) は NEM 0 と NEM 1 に指定されています。左が NEM 0 で、右が NEM 1 です。



各 NEM のポートは、特定の CMOD 上のポートに割り当てられています。



数字はシャーシ内の CPU モジュール (CMOD) の位置に対応しています。

注 - 数字の最初の桁は CMOD を指しています。2 番目の桁はポートを指しています。

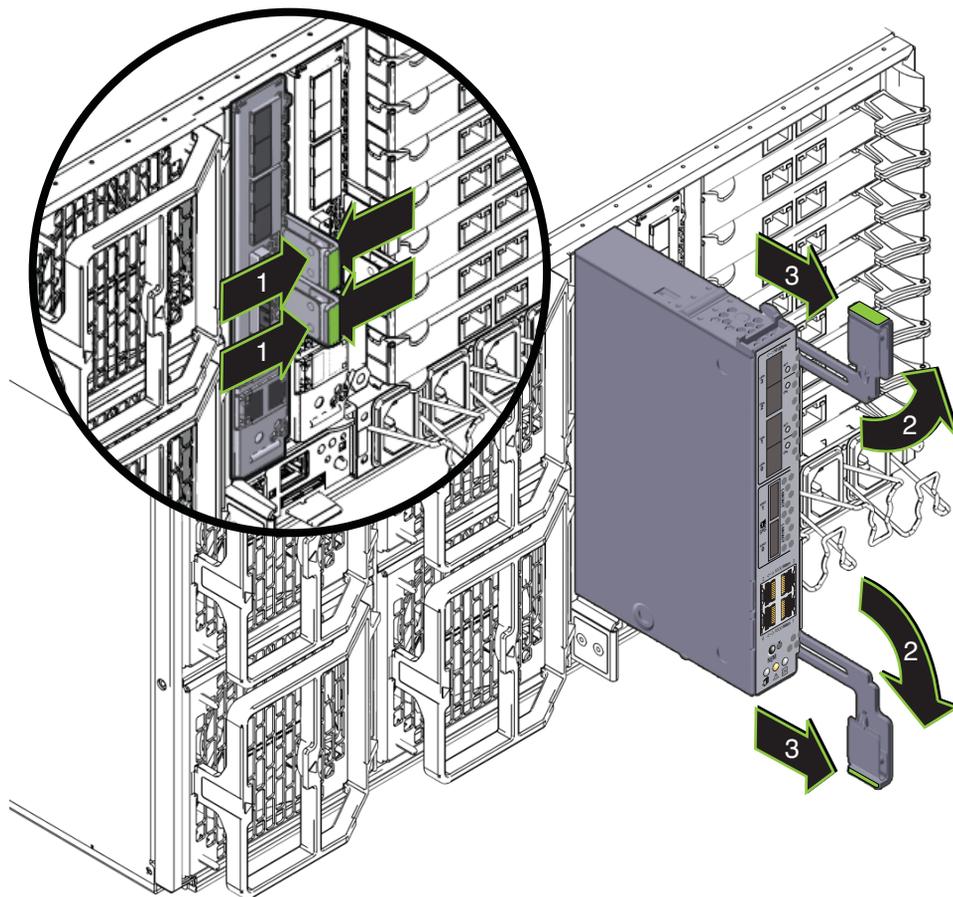
指定	CPU モジュール
3.0 および 3.1	CMOD 3 (BL 3)
2.0 および 2.1	CMOD 2 (BL 2)
1.0 および 1.1	CMOD 1 (BL 1)
0.0 および 0.1	CMOD 0 (BL 0)

▼ NEM または NEM フィラータを取り外す方法

注 - NEM はホットスワップ可能なコンポーネントです。

- 始める前に
- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」
 - 36 ページの「Network Express Module の概要」
- 1 必要に応じて、サーバーで保守のための準備を行ないます。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 サーバーの背面にアクセスします。
 - 3 **Network Express Module (NEM)** に接続されているケーブルにラベルを付けて、ケーブルを取り外します。

- 4 **NEM** を取り外すには、リリースハンドルをつかんで反対方向の外側へ開きます。両方のハンドルが完全に開いた状態になるまで、下のハンドルを下へ引き、上のハンドルを持ち上げます。



- 5 **NEM** を取り外すには、ハンドルを使用してスロットから **NEM** を引き出します。

次の手順 [125 ページの「NEM または NEM フィラーを取り付ける方法」](#)

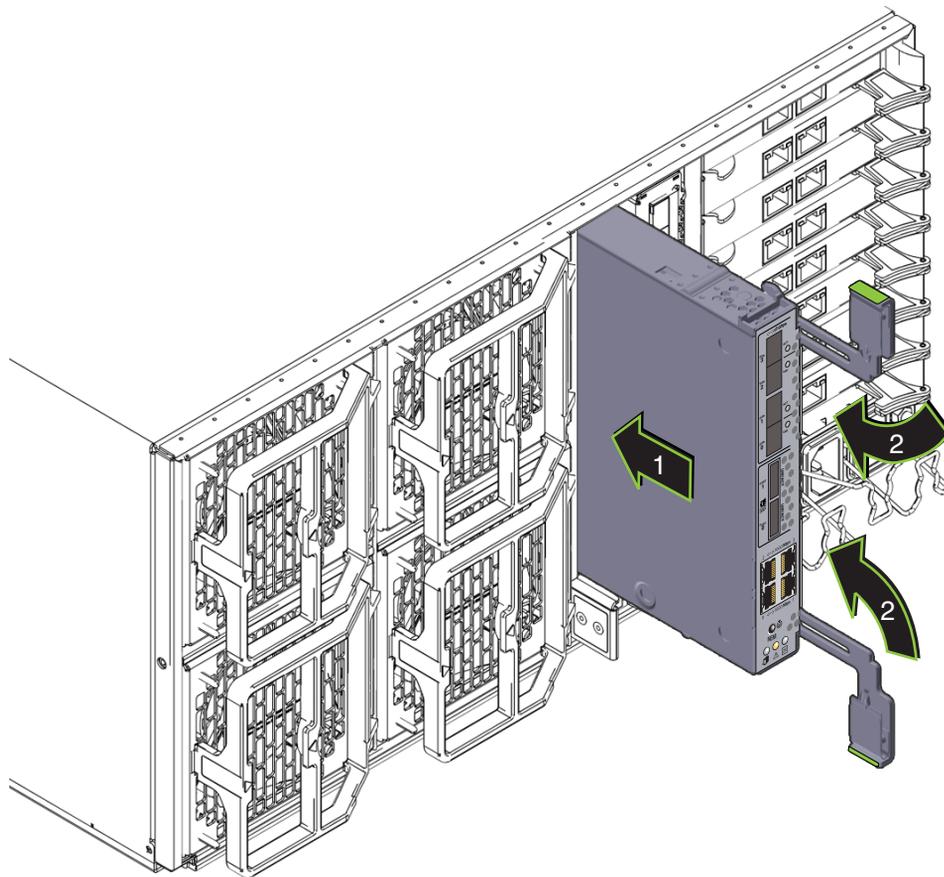
参照 [58 ページの「操作のために準備を行う方法」](#)

▼ NEM または NEM フィラーを取り付ける方法

注 - NEM は参照コンポーネントです。

- 始める前に
- 18 ページの「[Sun Fire X4800 M2 サーバー のサブアセンブリモジュールの概要](#)」
 - 36 ページの「[Network Express Module の概要](#)」
- 1 必要に応じて、サーバーで保守のための準備を行いません。57 ページの「[サービスの準備を行う方法](#)」を参照してください。
 - 2 サーバーの背面にアクセスします。
 - 3 必要に応じて、**Network Express Module (NEM)** または **NEM フィラー** を取り外します。[123 ページの「NEM または NEM フィラーを取り外す方法」](#) を参照してください。
 - 4 **NEM** のリリースハンドルが完全に開いた位置にあることを確認します。
リリースハンドルを反対方向の外側へ開き、完全に開いた状態にします。下のハンドルを下に引き、上のハンドルを持ち上げます。

- 5 NEM を取り付けるには、ハンドルを使用して、止まるまで NEM をスロット内にスライドさせます (1)。



- 6 レバーの爪と側面のスロットの位置が合っていることを確認します。
- 7 両方のハンドルを NEM に向かって内側に回します (2)。



注意-指を挟まないように注意してください。レバーの後ろやちょうつがい、モジュールの両端に指を挟まないように注意してください。

これにより NEM がスロット内に引き込まれ、NEM と内部コネクタが接続されます。

- 8 必要に応じて、10 GE トランシーバを取り付けます。

9 NEM に必要なケーブルを接続します。

次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」。

PCIe EM (CRU) の取り外しと取り付け

注 - PCIe EM はホットスワップ対応コンポーネントです。

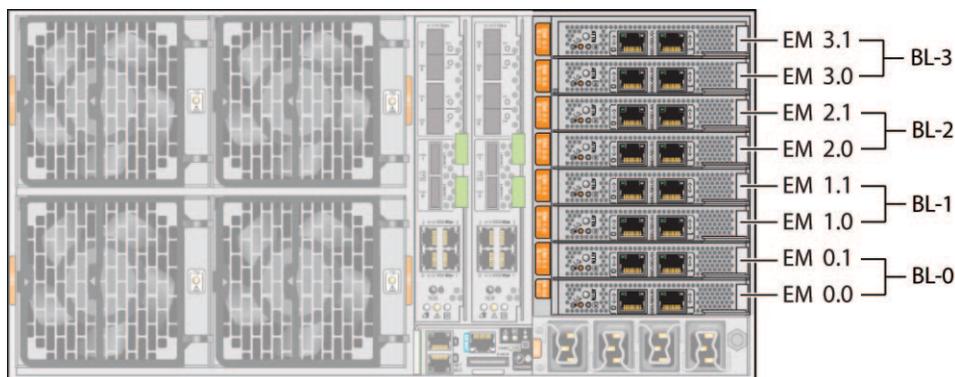
この節では、PCIe EM の取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 127 ページの「PCIe EM の指定と配置規則」
- 128 ページの「PCIe EM の取り外す方法」
- 129 ページの「PCIe EM または PCIe EM フィラーを取り付ける方法」

PCIe EM の指定と配置規則

注 - このトピックの PCIe EM の図は、サーバーで提供されているモデルによっては異なる場合があります。

PCIe EM スロットは、下から順に EM 0.0 - EM 3.1 に指定されています。



PCIe EM スロットはペアで1つのCMODに割り当てられています。スロットとCMODのペアリングは次のとおりです。

- スロット EM 0.0 および 0.1 と CMOD 0 (BL 0)。
- スロット EM 1.0 および 1.1 と CMOD 1 (BL 1)。
- スロット EM 2.0 および 2.1 と CMOD 2 (BL 2)。
- スロット EM 3.0 および 3.1 と CMOD 3 (BL 3)。

最小構成の4ソケットサーバーおよび最大構成の8ソケットサーバーのPCIe EMの配置順は次の通りです。

- 4ソケットサーバー:
 - スロット 3.0 (CMOD 3/BL 3 の IOH 0)
 - スロット 0.0 (CMOD 0/BL 0 の IOH 0)—REM (x4) がある場合は共有
 - スロット 3.1 (CMOD 3/BL 3 の IOH 1)
 - スロット 0.1 (CMOD 0/BL 0 の IOH 0)
- 8ソケットサーバー:
 - スロット 3.0 (CMOD 3/BL 3 の IOH 1)
 - スロット 1.0 (CMOD 1/BL 1 の IOH 2)
 - スロット 0.0 (CMOD 0/BL 0 の IOH 0)—REM (x4) がある場合は共有
 - スロット 2.0 (CMOD 3/BL 2 の IOH 3)
 - スロット 3.1 (CMOD 3/BL 3 の IOH 1)
 - スロット 1.1 (CMOD 1/BL 1 の IOH 2)
 - スロット 0.1 (CMOD 0/BL 0 の IOH 0)
 - スロット 2.1 (CMOD 3/BL 2 の IOH 3)

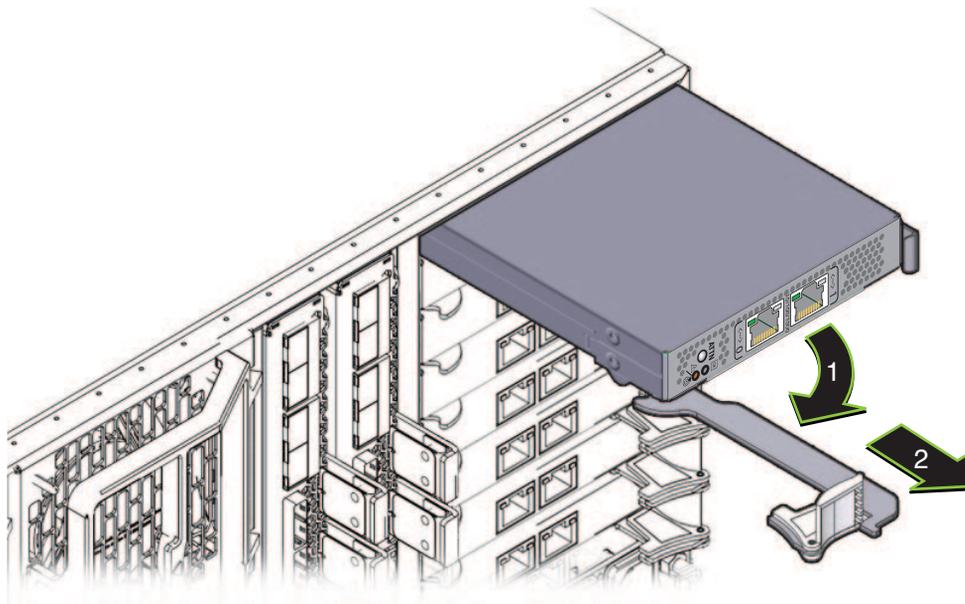
注- 適切な通気と冷却を確保するため、PCIe EM を搭載していないスロットには、フィルターパネルを設置する必要があります。

▼ PCIe EMの取り外す方法

注- このトピックのPCIe EMの図は、サーバーで提供されているモデルによっては異なる場合があります。

- 始める前に
- [40 ページの「PCIe Express Module の概要」](#)
 - [127 ページの「PCIe EM の指定と配置規則」](#)
- 1 必要に応じて、サーバーで保守のための準備を行ないます。[57 ページの「サービスの準備を行う方法」](#)を参照してください。
 - 2 サーバーの背面にアクセスします。
 - 3 **PCIe EM** からケーブルを取り外します。

- 4 PCIe EM のロックを解除するには、リリースハンドルの下側を引き出し、ハンドルを左に回して完全に開いた状態にします (1)。



- 5 PCIe EM を取り外すには、ハンドルを使用して PCIe EM をスロットから引き出します (2)。
- 6 PCIe EM を交換する場合は、129 ページの「PCIe EM または PCIe EM フィラーを取り付ける方法」を参照してください。

次の手順 129 ページの「PCIe EM または PCIe EM フィラーを取り付ける方法」

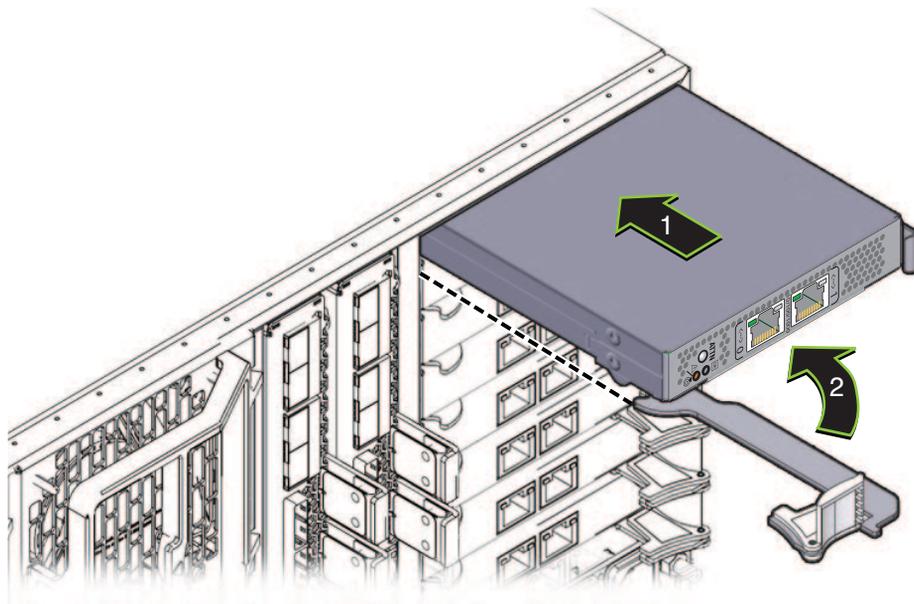
参照 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」

▼ PCIe EM または PCIe EM フィラーを取り付ける方法

注 - このトピックの PCIe EM の図は、サーバーで提供されているモデルによっては異なる場合があります。

- 始める前に
- 40 ページの「PCIe Express Module の概要」
 - 127 ページの「PCIe EM の指定と配置規則」
- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。

- 必要に応じて、PCIe EM または PCIe EM フィラーを取り外します。128 ページの「PCIe EM の取り外す方法」を参照してください。
- PCIe EM ハンドルが完全に開いた位置にあることを確認します。
ハンドルのロックを解除して引き出すには、リリースハンドルの下側を上へ引き上げ、ハンドルを持ち上げて完全に開いた状態にします。
- ハンドルが下にある状態で、PCIe EM をスロットに配置します。
- PCIe EM をスロット内に挿し込み、止まるまでスライドさせます。



- ハンドルの先端にある歯止めが、スロットの側面と合っていることを確認します。
- PCIe EM と重なるまでハンドルを下に回します。



注意-指を挟まないように注意してください。レバーの後ろやちょうつがい、モジュールの両端に指を挟まないように注意してください。

これにより PCIe EM がスロット内に引き込まれ、PCIe EM と内部コネクタが接続されます。

- 必要なケーブルを接続します。

次の手順 58 ページの「操作のために準備を行う方法」

参照 128 ページの「PCIe EM の取り外す方法」

サービスプロセッサモジュール (CRU) の取り外しと取り付け

注-SPモジュールはホットスワップ対応コンポーネントです。

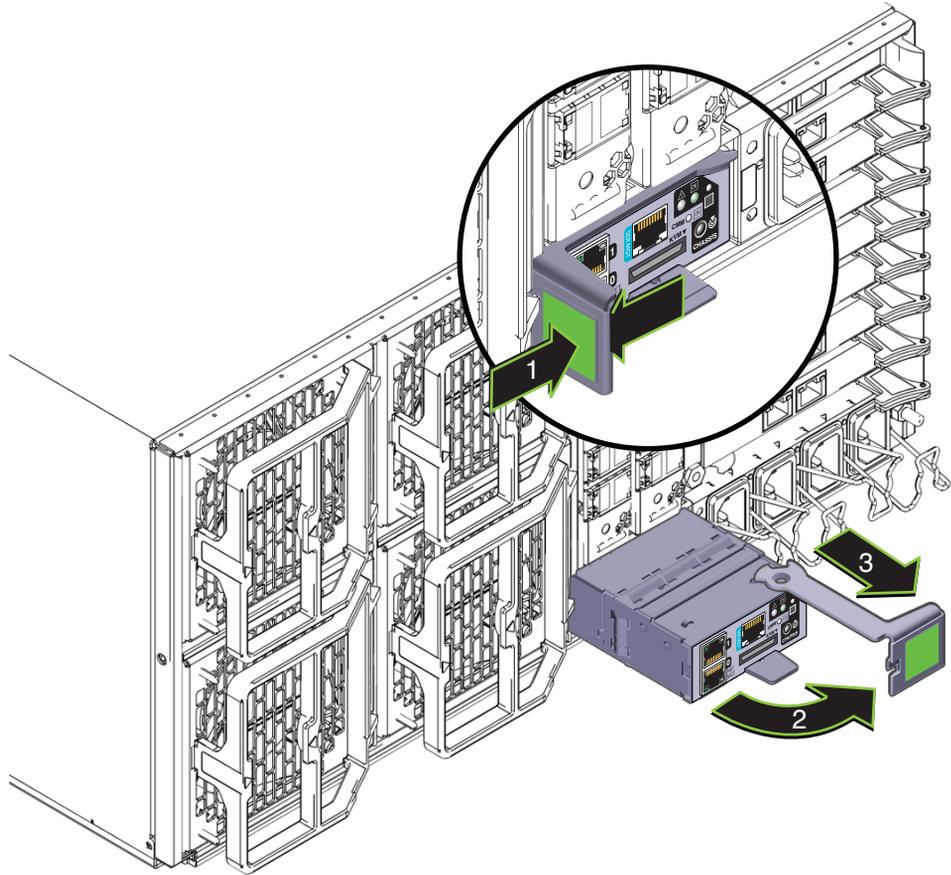
この節では、サービスプロセッサ (SP) モジュールの取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 131 ページの「SPモジュールを取り外す方法」
- 132 ページの「SPモジュールを取り付ける方法」

▼ SPモジュールを取り外す方法

- 始める前に
- 18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバー のサブアセンブリモジュールの概要」
 - 37 ページの「サービスプロセッサ (SP) モジュールの概要」
- 1 必要に応じて、サーバーで保守のための準備を行ないます。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
 - 2 サーバーの背面にアクセスします。
 - 3 必要に応じて、マルチポートケーブルと SPモジュールに接続されているその他のケーブルを取り外します。134 ページの「マルチポートケーブルの取り外し方法」を参照してください。

- 4 SPモジュールをロック解除するには、緑のタブ(1)を押し、ハンドルを右に回します(2)。



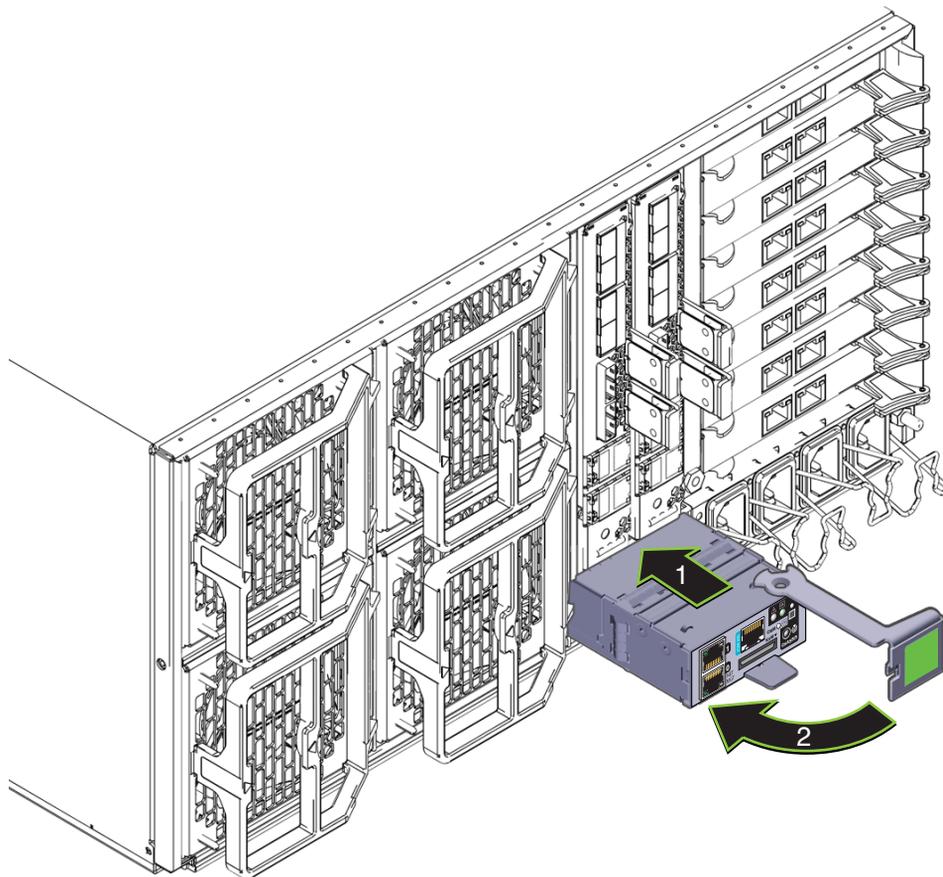
- 5 SPモジュールを取り外すには、ハンドルを使用してSPモジュールをスロットから引き出します(3)。

次の手順 [132 ページの「SPモジュールを取り付ける方法」](#)

▼ SPモジュールを取り付ける方法

- 始める前に
- [148 ページの「SPモジュールおよびCMODファームウェアの互換性に関する考慮事項」](#)
 - [18 ページの「Sun Fire X4800 M2サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」](#)
 - [37 ページの「サービスプロセッサ \(SP\) モジュールの概要」](#)

- 1 必要に応じて、サーバーで保守のための準備を行いません。[57 ページの「サービスの準備を行う方法」](#)を参照してください。
- 2 SPモジュールを取り外すには、[131 ページの「SPモジュールを取り外す方法」](#)を参照してください。
- 3 SPモジュールのハンドルが完全に開いた位置にあることを確認します。
- 4 SPモジュールをスロット内に挿し込み、止まるまでスライドさせます (1)。止まった位置よりも奥に SP モジュールをスロットに押し込まないでください。



- 5 ハンドルにある歯止めが壁面のスロットと合っていて固定されることを確認します。
- 6 SPモジュールと重なるまでハンドルを左に回します (2)。



注意-指を挟まないように注意してください。レバーの後ろやちょうつがい、モジュールの両端に指を挟まないように注意してください。

これにより SP モジュールがサーバー内に押し込まれ、SP モジュールの背面にあるコネクタが SAM の内部コネクタに接続されます。

- 7 必要に応じて、マルチポートケーブル(135 ページの「マルチポートケーブルを取り付ける方法」を参照)およびその他のケーブルを接続します。

参照 131 ページの「SP モジュールを取り外す方法」

マルチポートケーブルの取り外しと取り付け

この節では、マルチポートケーブルの取り外しと取り付けに関するタスクについて説明します。

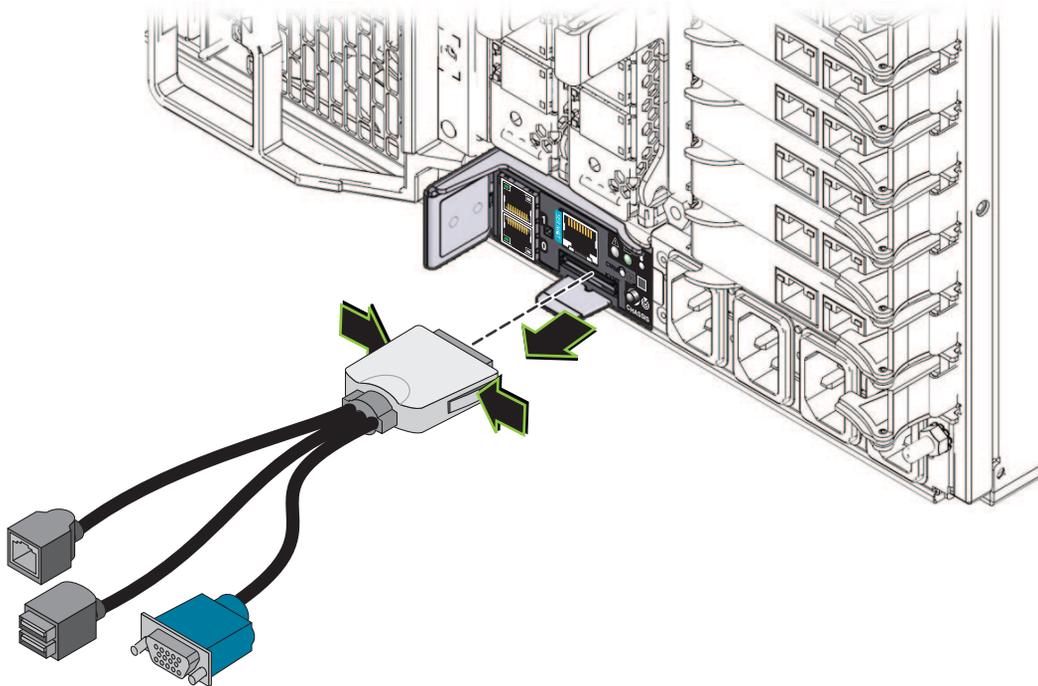
- 134 ページの「マルチポートケーブルの取り外し方法」
- 135 ページの「マルチポートケーブルを取り付ける方法」

▼ マルチポートケーブルの取り外し方法

マルチポートケーブルは、SP モジュールのユニバーサルコネクタポート (UCP) に接続します。

- 1 サーバーの背面にアクセスします。
- 2 必要に応じて、マルチポートケーブルに接続されているケーブルにラベルを付けて取り外します。

- 3 ケーブルを外すには、マルチポートケーブルコネクタの両端を押して、SPモジュールのUCPから引き抜きます。

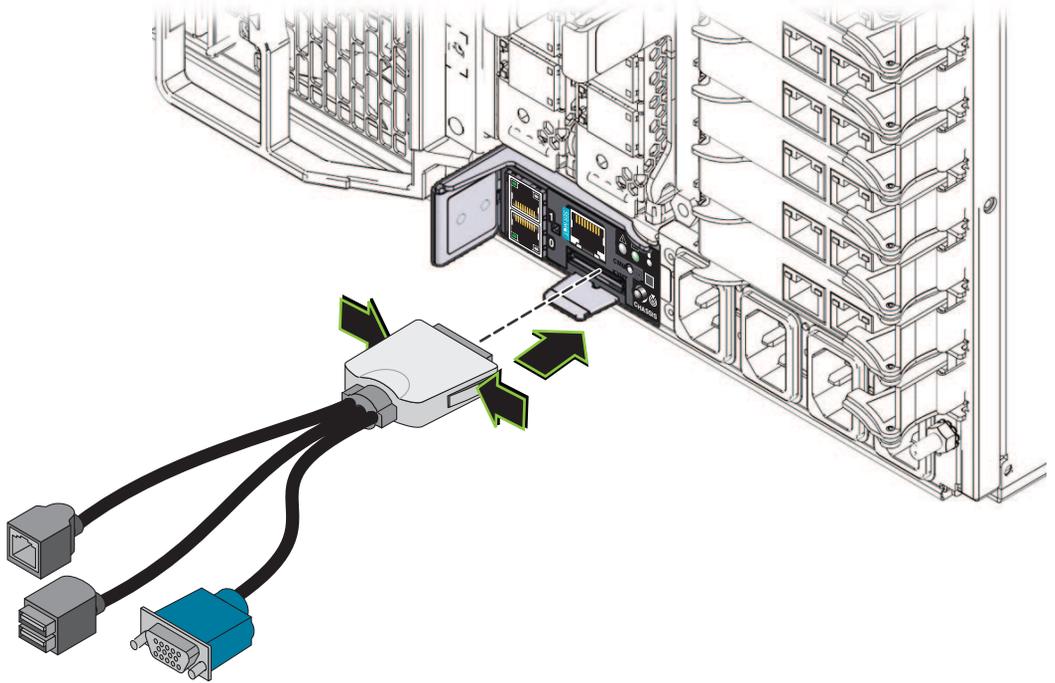


▼ マルチポートケーブルを取り付ける方法

マルチポートケーブルは、SPモジュールのユニバーサルコネクタポート (UCP) に接続します。

- 1 サーバーの背面にアクセスします。

- 2 マルチポートケーブルを取り付けるには、ケーブルを正しい向きにして、コネクタの両端を押しながら **SP** モジュールの **UCP** コネクタに挿し込みます。



サブアセンブリモジュール (FRU) の取り外しと取り付け

この節では、サブアセンブリモジュールの取り外しと取り付けに関するトピックとタスクについて説明します。

- 136 ページの「サブアセンブリモジュールを取り外す方法」
- 140 ページの「サブアセンブリモジュールを取り付ける方法」

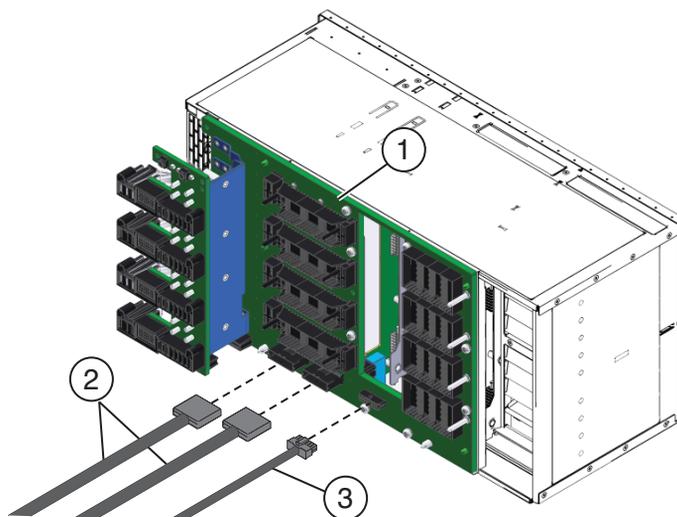
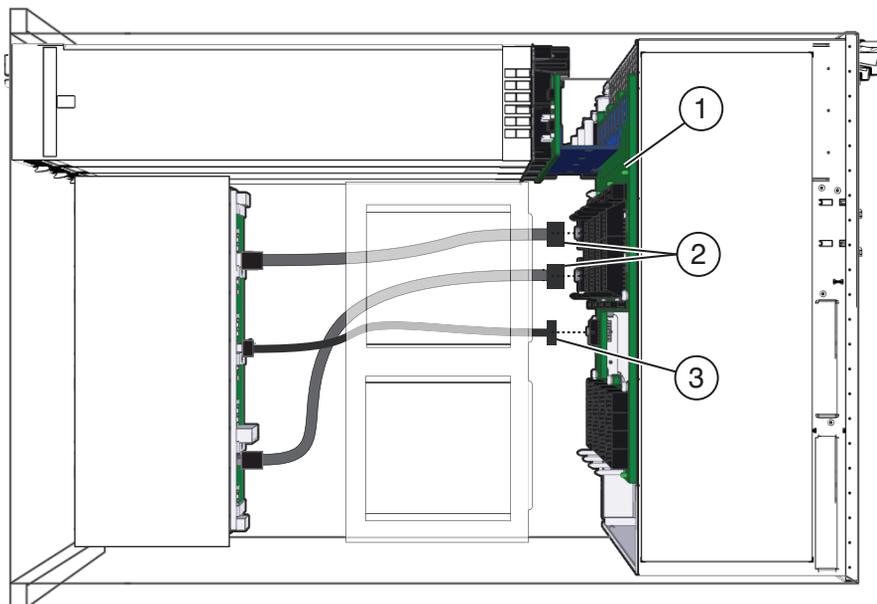
▼ サブアセンブリモジュールを取り外す方法

始める前に [18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」](#)

- 1 このコンポーネントを交換する前に、マザーボードの **FRUID** 情報をバックアップします。 [145 ページの「FRUID 情報の管理」](#) を参照してください。
- 2 サービス実施のためにサーバーを準備する。 [57 ページの「サービスの準備を行う方法」](#) を参照してください。

- 3 サーバーの背面から AC 電源ケーブルを取り外します。
AC 電源コネクタは、ワイヤーラッチで固定されています。固定ラッチを持ち上げ、コネクタをソケットから引き抜きます (41 ページの「AC 電源ブロックの概要」を参照)。
- 4 電源装置を取り出します。61 ページの「電源装置を取り外す方法」を参照してください。
電源装置を部分的に取り外します。これによりミッドプレーンコネクタから電源装置の接続が解除されます。
- 5 CMOD と CPU フィラーモジュールにラベルを付けて取り外します。80 ページの「CPU モジュール (CMOD) を取り外す方法」を参照してください。
CMOD と CPU フィラーモジュールは、元のスロットに戻す必要があります。CMOD スロットの指定については、88 ページの「CPU モジュール (CMOD) の指定」を参照してください。
- 6 3本のハードドライブバックプレーンケーブルをサーバーミッドプレーンから取り外します。

注-ハードドライブバックプレーンからケーブルを取り外さないでください。



- 7 サーバーの背面に接続されているケーブルにラベルを付けて取り外します。

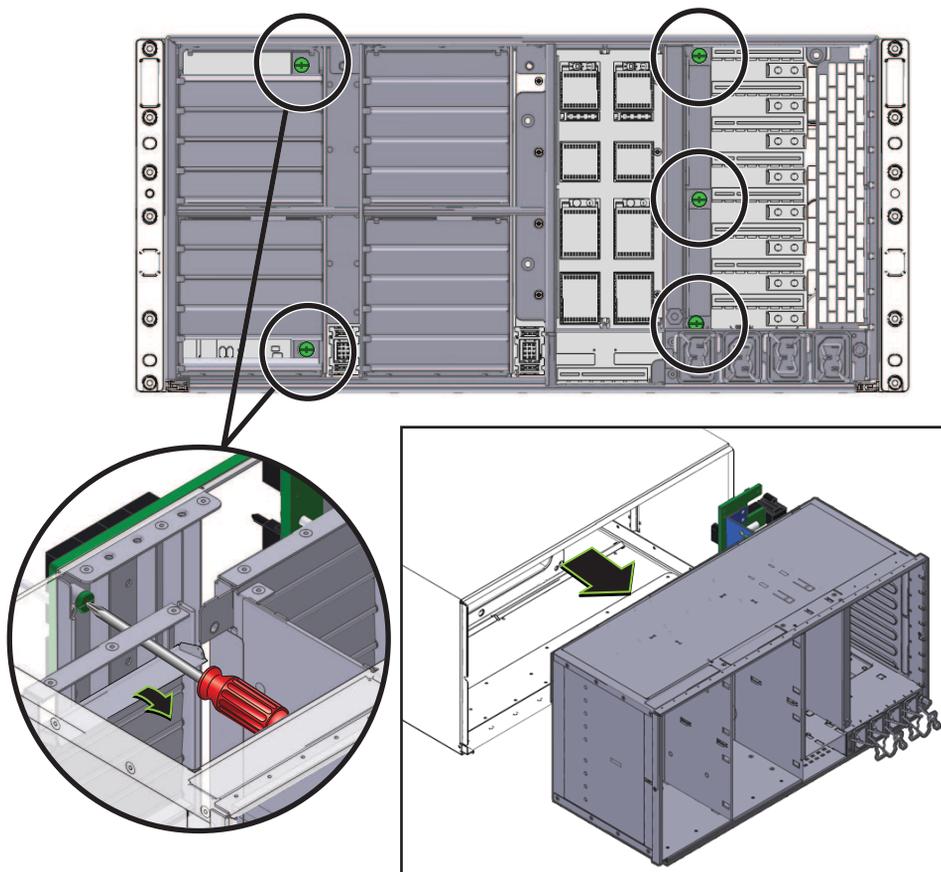
注-ハードドライブバックプレーンのケーブルは取り外さないでください。

- 8 4つのファンモジュールを取り外します。115 ページの「ファンモジュールを取り外す方法」を参照してください。

- 9 ファンコントローラボードを取り外します。119 ページの「ファンモジュールコントローラボードを取り外す方法」を参照してください。
- 10 **Network Express Module** または **Network Express Module** フィラーを取り外します。123 ページの「**NEM** または **NEM** フィラーを取り外す方法」を参照してください。
SAM を交換しない場合、このコンポーネントの取り外しは任意ですが、取り外すことをお勧めします。
- 11 **PCIe Express Module** または **PCIe Express Module** フィラーを取り外します。128 ページの「**PCIe EM** の取り外す方法」を参照してください。
SAM を交換しない場合、このコンポーネントの取り外しは任意ですが、取り外すことをお勧めします。
- 12 **SP** モジュールを取り外します。131 ページの「**SP** モジュールを取り外す方法」を参照してください。
SAM を交換しない場合、このコンポーネントの取り外しは任意ですが、取り外すことをお勧めします。

- 13 長いプラスのねじ回し (2 番) を使用して、SAM をサーバーシャーシに固定している 5 つの緑色の脱落防止機構付きねじを緩めます。

脱落防止機構付きねじのうち 2 つは、ファンモジュールベイ FM0 と FM2 の通気ペーンを通じてアクセスできます。ねじにアクセスするには、通気ペーンの上部和下部を持ち上げて開きます。



- 14 SAM を取り外すには、シャーシから注意深く引き出します。

注-SAM のおおよその重量は 16 ポンドです。

次の手順 [140 ページの「サブアセンブリモジュールを取り付ける方法」](#)

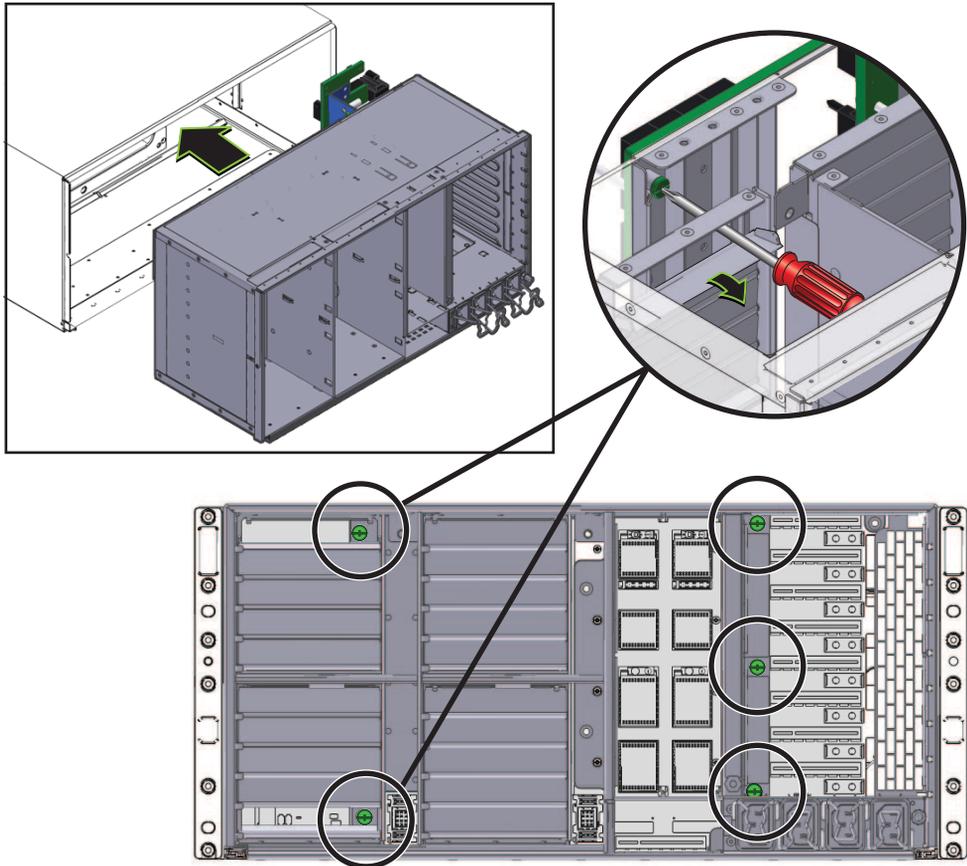
▼ サブアセンブリモジュールを取り付ける方法

始める前に [18 ページの「Sun Fire X4800 M2 サーバーのサブアセンブリモジュールの概要」](#)

- 1 サービス実施のためにサーバーを準備する。57 ページの「サービスの準備を行う方法」を参照してください。
- 2 SAM を取り外します。136 ページの「サブアセンブリモジュールを取り外す方法」を参照してください。
- 3 サーバーの背面から、ハードドライブバックプレーンケーブルが正しく配線されていることを確認します。74 ページの「ハードドライブバックプレーンのケーブルルーティングと指定」を参照してください。
- 4 ファンモジュールドライブベイが左側にある状態で、SAM を配置します。
- 5 SAM をサーバーシャーシの背面に押し込みます。
- 6 SAM が止まるまで注意深くシャーシ内にスライドさせます。
この位置では SAM をシャーシの内部に固定するねじが、対応するネジ穴と接触していない場合があります。
- 7 SAM の取り付けねじをシャーシのねじ穴と確実に合わせるには、ねじを固定できる位置まで SAM を内側にしっかり押し込みます。

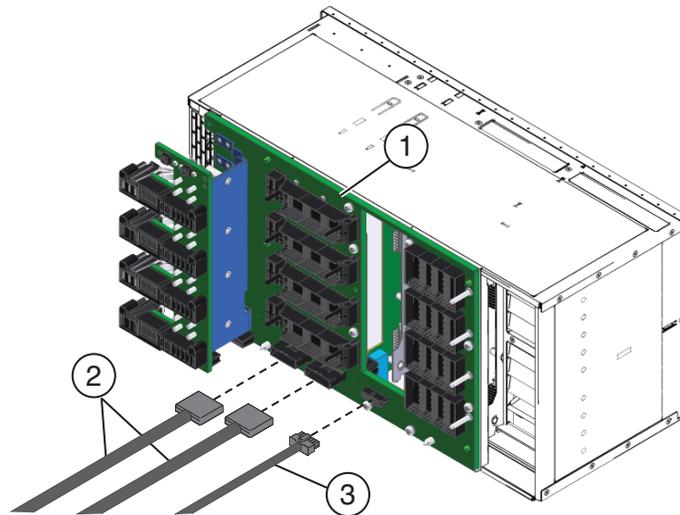
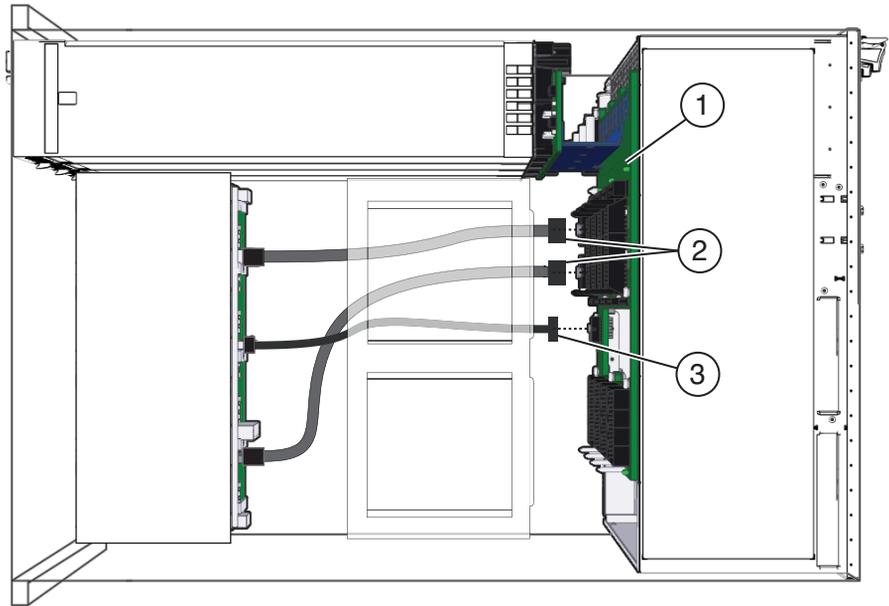
- 8 サーバー内の SAM を部分的に固定するには、プラスのねじ回し (2 番) を使用して、右端の 3 つの緑色の脱落防止機構付きねじを締めます。

脱落防止機構付きねじのうち 2 つは、ファンモジュールベイ FM0 と FM2 の通気ベーンを通じてアクセスできます。ねじにアクセスするには、通気ベーンの上部和下部を持ち上げて開きます。



- 9 SAM をサーバー内に完全に固定するには、左の 2 つの FM の通気ベーンを注意深く開き、2 つの緑色の脱落防止機構付きねじを締めます。

- 10 サーバーの正面から、3本のハードドライブバックプレーンケーブルをミッドプレーンに接続します。



- 11 サーバーの背面にファンコントローラボードを取り付けます。120ページの「ファンモジュールコントローラボードを取り付ける方法」を参照してください。

- 12 4つのファンモジュールを取り付けます。117ページの「ファンモジュールを取り付ける方法」を参照してください。
- 13 Network Express Module または Network Express Module フィラーを取り付けます。125ページの「NEMまたはNEM フィラーを取り付ける方法」を参照してください。
- 14 PCIe Express Module または PCIe Express Module フィラーを取り付けます。129ページの「PCIe EMまたはPCIe EM フィラーを取り付ける方法」を参照してください。
- 15 SPモジュールを取り付けます。132ページの「SPモジュールを取り付ける方法」を参照してください。
- 16 ネットワーク配線するケーブルをサーバーの背面に接続します。
- 17 操作のためにサーバーを準備する。58ページの「操作のために準備を行う方法」を参照してください。
- 18 SAM シリアル番号のFRUIDをバックアップして更新します。145ページの「FRUID情報の管理」を参照してください。

Sun Fire X4800 M2 サーバーのサービスに関する手順および情報

この節では、ファームウェアの更新、BIOS 設定ユーティリティへのアクセス、温度センサーおよび LED 部品の位置特定に関連するトピックおよびタスクについて説明します。

- 145 ページの「FRUID 情報の管理」
- 147 ページの「ファームウェアに関する情報および手順」
- 148 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする方法」
- 149 ページの「BIOS 設定ユーティリティ画面」
- 180 ページの「LED 部品の位置と機能」
- 191 ページの「温度センサーの位置」

FRUID 情報の管理

この節では、サーバーのコンポーネントの FRUID 情報を管理するタスクについて説明します。FRUID 情報はマザーボード上で保持されています。この情報は、主要部品を交換するたびにバックアップおよび更新してください。

注 - この節で説明するタスクは、Oracle Service 要員だけを対象としています。

- 145 ページの「マザーボードの FRUID 情報をバックアップする方法」
- 146 ページの「マザーボードの FRUID 情報を復元する方法」
- 146 ページの「マザーボードの FRUID 情報を更新する方法」

▼ マザーボードの FRUID 情報をバックアップする方法

注 - この情報は、Oracle Service 要員だけを対象としています。

サーバーは TLI をサポートし、PRIMARY というマザーボード (MB) FRUID コンテナ、および BACKUP1 というサービスプロセッサ (SP) ファイルシステム上のファイルに、TLI レコードを格納します。サーバーでコンポーネントを追加または交換した場合は、この手順を使用して、SP ファイルシステム上の BACKUP1 に対して、MB FRUID PRIMARY コンテナ内の最新の TLI レコード情報のバックアップを開始できます。

- 1 サービスモードを開始します。
- 2 **PRIMARY** コンテナを **SP** ファイルシステムにバックアップするには、次のコマンドを入力します。
copypsnc PRIMARY BACKUP1

参照 [146 ページの「マザーボードの FRUID 情報を復元する方法」](#)

▼ マザーボードの **FRUID** 情報を復元する方法

注 - この情報は、Oracle Service 要員だけを対象としています。

この手順により、FRUID のバックアップが復元されます。

- **FRUID** 情報を復元するには、サービスモードに切り替えて次のコマンドを入力します。

copypsnc BACKUP1 PRIMARY

BACKUP1 に格納されている MAC アドレスは間違っています。これは、古い MB のアドレスであるためです。

▼ マザーボードの **FRUID** 情報を更新する方法

注 - この情報は、Oracle Service 要員だけを対象としています。

FRU を交換したら、マザーボードにある FRUID 情報を更新します。

- 1 **ILOM** を使用して新しいコンポーネントの情報を取得します。
たとえば、CLI から新しいマザーボードの MAC アドレスを取得するには、**show** コマンドを使用します。

show /SYS/MB/NET0

MAC アドレスがリストに表示されます。

- 2 コンポーネント情報をメモします。
- 3 サービスモードに切り替え、**setpsnc** コマンドを使用して **FRUID** 情報を更新します。
たとえば、マザーボードの MAC アドレスを変更するには、次のコマンドを入力します。

setpsnc -m new-mac_address

ここで、`new_mac_address` は新しいマザーボードの MAC アドレスです。

- 4 MB FRUID 情報をバックアップします。145 ページの「マザーボードの FRUID 情報をバックアップする方法」を参照してください。

ファームウェアに関する情報および手順

この節では、ファームウェアの更新に関連するトピックおよびタスクについて説明します。

- 147 ページの「ファームウェアを更新する方法」
- 147 ページの「Tools and Drivers CD を使用する方法」
- 148 ページの「SP モジュールおよび CMOS ファームウェアの互換性に関する考慮事項」

▼ ファームウェアを更新する方法

- ファームウェアの更新の詳細については、『Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) 4800 Supplement for Sun Fire X4800 M2 Server』を参照してください。

▼ Tools and Drivers CD を使用する方法

Sun Fire X4800 M2 サーバー Tools and Drivers CD には、ソフトウェアアプリケーション、ユーティリティー、BIOS および Oracle ILOM のファームウェア更新が含まれています。Tools and Drivers CD の最新情報については、『Sun Fire X4800 M2 サーバーご使用にあたって』を参照してください。

Tools and Drivers CD は、Sun Fire X4800 M2 サーバーの製品のページから ISO イメージとしてオンラインで入手できます。

- 1 最新の Tools and Drivers CD の ISO イメージをダウンロードして、次のいずれかを実行します。
 - ISO イメージを使用して CD を作成する。
 - ISO イメージを仮想 CD としてマウントする。
- 2 CD からサーバーを起動するか、CD のコンテンツを参照する。

SP モジュールおよびCMOD ファームウェアの互換性に関する考慮事項

注-互換性と最適な性能を確保するために、サーバーのファームウェアを最新バージョンに更新してください。

ファームウェアは、SP モジュールと CPU モジュール (CMOD) の両方に常駐します。両方のコンポーネント上にあるファームウェアのバージョンが一致する必要があります。SP モジュール上のファームウェアのみを更新できます。CMOD に常駐するファームウェアは、SP モジュールが管理します。SP モジュールでは、すべての CMOD が SP モジュールのファームウェアのバージョンに自動的に更新されます。CMOD が交換され、そのバージョンが SP モジュールに常駐するファームウェアのバージョンと異なっている場合は、SP モジュールにより、新規の CMOD が SP モジュールに常駐するファームウェアのバージョンに更新またはダウングレードされます。SP モジュールが交換され、そのファームウェアが CMOD 上のファームウェアと異なっている場合は、SP モジュールにより、CMOD が SP モジュールに常駐するファームウェアのバージョンに更新またはダウングレードされます。

次の表に、ユーザーが開始したファームウェアの更新およびコンポーネントの交換に対する SP モジュールの応答を示します。

ユーザー処理	SP 応答
SP モジュールのファームウェアの更新	すべての CMOD のファームウェアが、SP モジュールに常駐するファームウェアのバージョンに更新されます。
CMOD の交換または追加	新規の CMOD のファームウェアが、SP モジュールに常駐するファームウェアのバージョンに更新されます。
ダウングレードされたファームウェアを使用する SP モジュールのインストール	すべての CMOD のファームウェアが、その SP モジュールに常駐するファームウェアのバージョンにダウングレードされます。
更新されたファームウェアを使用する SP モジュールのインストール	すべての CMOD のファームウェアが、SP モジュールに常駐するファームウェアのバージョンに更新されます。

▼ BIOS 設定ユーティリティーにアクセスする方法

始める前に サーバーを設定し、POST と起動メッセージを確認します。

- 1 サーバーをリブートするか、電源を入れます。
POST メッセージを確認し、F2 キーを押すように指示するプロンプトを待ちます。

- 2 プロンプトが表示されたら、**F2** キーを押します。
BIOS セットアップユーティリティのメインメニューが表示されます。
- 3 左右矢印キーまたは **Tab** キーを使用して、ユーティリティの最上位項目に移動します。
- 4 上下矢印キーを使用して、サブメニュー間を移動します。
- 5 オプションを変更し、設定を保存してユーティリティを終了する方法の手順については、ヘルプの情報を参照します。

参照 [149 ページの「BIOS 設定ユーティリティ画面」](#)

BIOS 設定ユーティリティ画面

この節では、BIOS 設定ユーティリティ画面の検索可能な表示について説明します。BIOS 設定ユーティリティへのアクセス方法の詳細については、[148 ページの「BIOS 設定ユーティリティにアクセスする方法」](#)を参照してください。

- [150 ページの「Main \(メイン\)」](#)
- [151 ページの「Advanced \(詳細\)」](#)
- [165 ページの「PCIPnP」](#)
- [166 ページの「Boot \(ブート\)」](#)
- [169 ページの「Security \(セキュリティ\)」](#)
- [170 ページの「RC Settings \(RC 設定\)」](#)
- [173 ページの「Chipset \(チップセット\)」](#)
- [180 ページの「Exit \(終了\)」](#)

Main(メイン)

BIOS 設定ユーティリティのメイン画面

```
*****
* Main   Advanced   PCIPnP   Boot   Security   RC Settings   Chipset   *
*
* System Overview                               ** Use [ENTER], [TAB] *
* ***** or [SHIFT-TAB] to                    *
* AMIBIOS                                       ** select a field.   *
* Version   :08.00.16                          **                 *
* Build Date:06/01/11                          ** Use [+] or [-] to *
* Sun BIOS Revision: 15.01.23.00               ** configure system Time.*
*
* Product Name:   Sun Fire X4800 M2           **                 *
* BMC Firmware Revision: 3.0.14.25           **                 *
* CPLD Revision: 7.8                         **                 *
*
* Processor                                           **                 *
* Intel(R) Xeon(R) CPU E7- 8870 @ 2.40GHz       ** *   Select Screen *
* Speed      :2400MHz                               ** **  Select Item   *
* Count      :8                                     ** +-  Change Field *
*
* System Memory                                       ** Tab  Select Field *
* Size       :128.0 GB                               ** F1   General Help *
*
* System Time [12:21:15]                             ** (CTRL+Q from remote kbd)*
* System Date [Mon 06/06/2011]                       ** F10  Save and Exit *
*
* * Serial Number Information                       ** (CTRL+S from remote kbd)*
* ** ESC   Exit                                     **                 *
*****
```

Advanced (詳細)

Advanced Settings (詳細設定) のメイン画面

```

*****
* Main   Advanced   PCI/PnP   Boot   Security   RC Settings   Chipset   *
*
* Advanced Settings                               * Configure CPU.   *
* ***** *
* WARNING: Setting wrong values in below sections *
*           may cause system to malfunction.      *
*
* * CPU Configuration                             *
* * ACPI Configuration                            *
* * I/O Virtualization                           *
* * IPMI Configuration                            *
* * PCI Express Configuration                     *
* * Remote Access Configuration                   *
* * Trusted Computing                             *
* * USB Configuration                             * *   Select Screen *
* * Intel VT-d Configuration                       * **   Select Item  *
*
*                                           * Enter Go to Sub Screen *
*                                           * F1   General Help  *
*                                           * (CTRL+Q from remote kbd)*
*                                           * F10  Save and Exit  *
*                                           * (CTRL+S from remote kbd)*
*                                           * ESC  Exit           *
*****

```

Advanced Settings (詳細設定) > CPU Configuration (CPU の構成)

```

*****
*           Advanced                                                                    *
*                                                                                       *
* Configure advanced CPU settings ** For UP platforms, *
* Module Version:01.0E ** leave it enabled. *
* ***** For DP/MP servers, *
* Manufacturer:Intel ** it may use to tune *
* Intel(R) Xeon(R) CPU E7- 8870 @ 2.40GHz ** performance to the *
* Frequency :2.40GHz ** specific application. *
* BCLK Speed :133MHz ** *
* Cache L1 :640 KB ** *
* Cache L2 :2560 KB ** *
* Cache L3 :30720 KB ** *
* Ratio Status:Unlocked (Min:08, Max:18) ** *
* Ratio Actual Value:18 ** *
* ** * Select Screen *
* Hardware Prefetcher [Enabled] ** ** Select Item *
* Adjacent Cache Line Prefetch [Enabled] ** +- Change Option *
* ACPI MADT ordering [Modern ordering] ** F1 General Help *
* Max CPUID Value Limit [Disabled] ** (CTRL+Q from remote kbd)*
* Intel(R) Virtualization Tech [Enabled] ** F10 Save and Exit *
* x2APIC [Enabled] ** (CTRL+S from remote kbd)*
* Intel(R) HT Technology [Enabled] ** ESC Exit *
* Core 0 [Enabled] ** *
* Core 1 [Enabled] ** *
* Core 2 [Enabled] ** *
* Core 3 [Enabled] ** *
* Core 4 [Enabled] ** *
* Core 5 [Enabled] ** *
* Core 6 [Enabled] ** *
* Core 7 [Enabled] ** *
* Core 8 [Enabled] ** *
* Core 9 [Enabled] ** *
* A20M [Disabled] ** * Select Screen *
* MTRR Mapping [Continuous] ** ** Select Item *
* Intel(R) SpeedStep(tm) tech [Enabled] ** +- Change Option *
* Performance/Watt select [Traditional] ** (CTRL+Q from remote kbd) *
* Intel(R) C-State tech [Enabled] ** F10 Save and Exit *
* C3 State [Disabled] ** (CTRL+S from remote kbd) *
* C6 State [Enabled] ** ESC Exit *
* C State package limit setting [Auto] ** F1 General Help *
* C1 Auto Demotion [Enabled] ** (CTRL+Q from remote kbd) *
* C3 Auto Demotion [Enabled] ** F10 Save and Exit *
* ACPI T State [Enabled] ** (CTRL+S from remote kbd) *
* DCU Mode [16KB, 4-way, ECC] ** ESC Exit *
*****

```

Advanced Settings (詳細設定) > ACPI Settings (ACPI設定)

```
*****
*           Advanced                                     **
*                                                                 **
* ACPI Settings                                         * Advanced ACPI      **
* ***** * Configuration settings **
* * Advanced ACPI Configuration                       *               **
* * General WHEA Configuration                       * Use this section to **
* *                                                                 * configure additional **
* *                                                                 * ACPI options.      **
* *                                                                 *               **
* *                                                                 *               **
* *                                                                 *               **
* *                                                                 *               **
* *                                                                 *               **
* *                                                                 *               **
* *                                                                 * * Select Screen    **
* * ** Select Item                                     * **               **
* * Enter Go to Sub Screen **                          * Enter Go to Sub Screen **
* * F1 General Help **                                * F1 General Help **
* * (CTRL+Q from remote kbd)**                        * (CTRL+Q from remote kbd)**
* * F10 Save and Exit **                              * F10 Save and Exit **
* * (CTRL+S from remote kbd)**                        * (CTRL+S from remote kbd)**
* * ESC Exit **                                       * ESC Exit          **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > ACPI Settings (ACPI 設定) > Advanced ACPI Configuration (ACPI の詳細な構成)

```
*****
*           Advanced                                     **
*                                                                 **
* Advanced ACPI Configuration                          * Include OEMB table **
* ***** * pointer to R(X)SDT                        **
* AMI OEMB table          [Enabled]                    * pointer lists   **
* Headless mode           [Enabled]                    *                 **
* EMS support (SPCR)      [Enabled]                    *                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
* * * * * Select Screen                                **
* * * * * Select Item                                  **
* * +- * Change Option                                **
* * F1 * General Help                                  **
* * * * * (CTRL+Q from remote kbd)**
* * F10 * Save and Exit                               **
* * * * * (CTRL+S from remote kbd)**
* * * * * ESC Exit                                    **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > ACPI Settings (ACPI 設定) > General WHEA Configuration (WHEA の全般的な構成)

```
*****
*           Advanced                                           **
*                                                                 **
* General WHEA Configuration                                * Enable or disable **
* ***** * Windows Hardware                               **
* WHEA Support          [Enabled] * Error Architecture.  **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
* * * Select Screen                                         **
* ** Select Item                                           **
* +- Change Option                                         **
* F1 General Help                                          **
* (CTRL+Q from remote kbd)**
* F10 Save and Exit                                       **
* (CTRL+S from remote kbd)**
* ESC Exit                                                **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > I/O Virtualization (I/O の仮想化)

```
*****
*           Advanced                                     **
*                                                                 **
* Configure I/O Virtualization Parameters           * Configure SR-IOV    **
* ***** *                                                                 **
* SR-IOV Supported           [Enabled]             *           **
* BIOS ARI Support           [Disabled]            *           **
*                                                                 *           **
*                                                                 *           **
*                                                                 *           **
*                                                                 *           **
*                                                                 *           **
*                                                                 *           **
*                                                                 *           **
*                                                                 *           **
*                                                                 * *       **
*                                                                 * **      **
*                                                                 * +-      **
*                                                                 * F1     **
*                                                                 *(CTRL+Q from remote kbd)**
*                                                                 * F10   **
*                                                                 *(CTRL+S from remote kbd)**
*                                                                 * ESC   **
*                                                                 * Exit  **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > IPMI Configuration (IPMI の構成)

```
*****
*           Advanced                                           **
*                                                                 **
* IPMI Configuration                                           * View all events in the **
* ***** * BMC Event Log.                                     **
* Status Of BMC           Working                               * It will take a max. of **
* * View BMC System Event Log                               * 15 seconds to read all **
* Clear BMC System Event Log                               * BMC SEL records.      **
* * Set LAN Configuration                                   *                       **
* BMC Watch Dog Timer Action [Disabled]                    *                       **
*                                                                 *                       **
*                                                                 *                       **
*                                                                 *                       **
*                                                                 *                       **
*                                                                 *                       **
* * * Select Screen                                          **
* * * Select Item                                           **
* Enter Go to Sub Screen **
* F1 General Help **
* (CTRL+Q from remote kbd)**
* F10 Save and Exit **
* (CTRL+S from remote kbd)**
* ESC Exit **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > IPMI Configuration (IPMI の構成) > View BMC System Event Log (BMC システムイベントログの表示)

```
*****
*           Advanced                               **
*                                                                 **
* Total Number Of Entries:          909           * Use +/- to traverse **
* *****                               * the event log.      **
* SEL Entry Number:                 [ 1]         *                    **
* SEL Record ID:                    040B        *                    **
* SEL Record Type:                  02 (System Event) *                    **
* Event Timestamp:                  Apr 12, 2000 04:38:55 *                    **
* Generator ID:                     0020        *                    **
* Event Message Format Ver:         04 (IPMI ver 2.0) *                    **
* Event Sensor Type:               25 (Entity Presence) *                    **
* Event Sensor Number:             11           *                    **
* Event Dir Type:                  08           *                    **
* Event Data:                      00 FF FF     *                    **
*                                                                 **
*                               * *   Select Screen  **
*                               * **   Select Item   **
*                               * +-   Change Option  **
*                               * F1   General Help   **
*                               *(CTRL+Q from remote kbd)**
*                               * F10  Save and Exit  **
*                               *(CTRL+S from remote kbd)**
*                               * ESC   Exit         **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > IPMI Configuration (IPMI の構成) > Set LAN Configuration (LAN 構成の設定)

```
*****
*           Advanced                                           **
*                                                                 **
* LAN Configuration.                                           * Enter channel number **
* ***** * for SET LAN Config **
* Channel Number          [01] * Command. **
* IP Assignment           [DHCP] * Proper value below 16. **
* *                                                                 **
* Current IP address in BMC: 010.006.143.240 * **
* Current MAC address in BMC: 00.21.28.4F.2C.9A * **
* Current Subnet Mask in BMC: 255.255.255.000 * **
* Current Gateway in BMC: 010.006.143.001 * **
* *                                                                 **
* Refresh * **
* *                                                                 **
* IP Address [010.006.143.240] * * Select Screen **
* Subnet Mask [255.255.255.000] * ** Select Item **
* Default Gateway [010.006.143.001] * Enter Update **
* * * F1 General Help **
* Commit * (CTRL+Q from remote kbd)**
* * * F10 Save and Exit **
* * * (CTRL+S from remote kbd)**
* * * ESC Exit **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > PCI Express Configuration (PCI Express の構成)

```
*****
*          Advanced                                     **
*                                                                 **
* PCI Express Configuration                * Enable/Disable PCIe **
* ***** * hotplug support by **
* PCIe Hotplug Support [Enabled] * allocating additional **
* HotPlug Reserve I/O Port Size [Auto] * bus, memory and I/O **
* HotPlug Reserve Memory Size [Auto] * resource for hotplug **
* HotPlug Reserve PFMemory Size [Auto] * slots. **
* * ** **
* Setting De-emphasis on REMs [-3.5dB ] * **
* Setting De-emphasis on FEMs [-3.5dB ] * **
* Setting De-emphasis on EMs [-3.5dB ] * **
* * ** **
* E-Sync on REM cards [Disabled] * **
* E-Sync on FEM cards [Disabled] * * Select Screen **
* E-Sync on EM cards [Disabled] * ** Select Item **
* * +- Change Option **
* * F1 General Help **
* * (CTRL+Q from remote kbd)**
* * F10 Save and Exit **
* * (CTRL+S from remote kbd)**
* * ESC Exit **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > Remote Access Configuration (リモートアクセス構成)

```

*****
*          Advanced                                          **
*                                                                 **
* Configure Remote Access type and parameters          * Select Remote Access **
* ***** * type.                                          **
* Remote Access          [Enabled]                      *          **
*                                                                 **
* Serial port number     [COM1]                          *          **
*   Base Address, IRQ    [3F8h, 4]                       *          **
* Serial Port Mode       [09600 8,n,1]                   *          **
* Flow Control           [None]                          *          **
* Redirection After BIOS POST [Always]                   *          **
* Terminal Type          [ANSI]                          *          **
* VT-UTF8 Combo Key Support [Enabled]                    *          **
* Sredir Memory Display Delay [No Delay]                  *          **
*                                                                 **
* *          Select Screen                                **
* **         Select Item                                  **
* +-        Change Option                                **
* F1        General Help                                **
*          *(CTRL+Q from remote kbd)**
*          * F10 Save and Exit                          **
*          *(CTRL+S from remote kbd)**
*          * ESC  Exit                                    **
*****

```

Advanced Settings (詳細設定) > Trusted Computing (信頼できるコンピューティング)

```
*****
*           Advanced                                     **
*                                                                 **
* Trusted Computing                                     * Enable/Disable TPM **
* ***** * TCG (TPM 1.1/1.2) supp **
* TCG/TPM Support Enabled      [No]          * in BIOS          **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
* *          Select Screen          **
* **        Select Item            **
* +-       Change Option           **
* F1       General Help            **
*          *(CTRL+Q from remote kbd)**
*          * F10 Save and Exit     **
*          *(CTRL+S from remote kbd)**
*          * ESC  Exit              **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > USB Configuration (USB の構成)

```
*****
*           Advanced                                     **
*                                                                 **
* USB Configuration                                     * Enable/Disable **
* ***** * USB HUB for Multiport **
* Module Version - 2.24.5-13.4                          * **
*                                                                 * **
* USB Devices Enabled :                                  * **
*   2 Keyboards, 2 Mice, 2 Hubs                          * **
*                                                                 * **
* Multiport Cable USB          [Enabled]                 * **
*                                                                 * **
*                                                                 * **
* * * Select Screen                                     **
* ** Select Item                                       **
* +- Change Option                                     **
* F1 General Help                                     **
* *(CTRL+Q from remote kbd)**
* F10 Save and Exit                                   **
* *(CTRL+S from remote kbd)**
* ESC Exit                                           **
*****
```

Advanced Settings (詳細設定) > Intel VT-d Configuration (Intel VT-d 構成)

```

*****
*           Advanced                                           **
*                                                                 **
* Intel VT-d Configuration                                     * Intel VT-d feature **
* ***** * Enabled/Disabled **
*                                                                 **
* Intel VT-d [Enabled] * * **
* Coherency Support [Disabled] * * **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
* * * Select Screen **
* ** Select Item **
* +- Change Option **
* F1 General Help **
* *(CTRL+Q from remote kbd)**
* * F10 Save and Exit **
* *(CTRL+S from remote kbd)**
* * ESC Exit **
*****

```

PCIPnP

詳細な PCI/PnP 設定

```

*****
* Main    Advanced  PCIPnP  Boot    Security  RC Settings  Chipset  **
*
* Advanced PCI/PnP Settings                      * Clear NVRAM during **
***** * System Boot.                            **
* WARNING: Setting wrong values in below sections * **
*           may cause system to malfunction.      * **
*
* Clear NVRAM                                [No]          * **
* PCI Latency Timer                          [64]          * **
*
* MAC Address NIC 0:  00:21:28:A7:8D:9C          * **
* MAC Address NIC 1:  00:21:28:A7:8D:9D          * **
* MAC Address NIC 2:  00:21:28:A7:90:D8          * **
* MAC Address NIC 3:  00:21:28:A7:90:D9          * *   Select Screen **
* MAC Address NIC 4:  00:21:28:A7:91:10          * **   Select Item   **
* MAC Address NIC 5:  00:21:28:A7:91:11          * +-   Change Option **
* MAC Address NIC 6:  00:21:28:A7:8D:90          * F1   General Help  **
* MAC Address NIC 7:  00:21:28:A7:8D:91          * (CTRL+Q from remote kbd)**
*
*                                           * F10  Save and Exit  **
*                                           * (CTRL+S from remote kbd)**
*                                           * ESC  Exit           **
*****

```

Boot(ブート)

ブート設定

```

*****
* Main    Advanced  PCIPnP   Boot    Security  RC Settings  Chipset  **
*
* Boot Settings                                     * Configure Settings **
* ***** * during System Boot. **
* * Boot Settings Configuration                    * **
*
* * Boot Device Priority                            * **
*
*
*
* Prompt on Config Change      [Disabled]          * **
*
*
*
*
* *      Select Screen **
* **    Select Item **
*
* Enter Go to Sub Screen **
*
* F1    General Help **
*
* (CTRL+Q from remote kbd)**
*
* F10   Save and Exit **
*
* (CTRL+S from remote kbd)**
*
* ESC   Exit **
*****

```

Boot Settings(ブート設定)> Boot Settings Configuration(ブート設定の構成)

```
*****
*                                     Boot                                     **
*                                                                 **
* Boot Settings Configuration          * Allows BIOS to skip          **
* *****                            * certain tests while          **
* Quick Boot                          [Enabled]                       * booting. This will          **
* Quiet Boot                          [Disabled]                      * decrease the time         **
* AddOn ROM Display Mode              [Force BIOS]                   * needed to boot the        **
* Wait For 'F1' If Error              [Disabled]                     * system.                   **
* Retry Boot List                    [Enabled]                        *                             **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
*                                                                 **
* * * * * Select Screen          **
* * * * * Select Item           **
* * * * * +- Change Option      **
* * * * * F1 General Help       **
* * * * * (CTRL+Q from remote kbd)**
* * * * * F10 Save and Exit     **
* * * * * (CTRL+S from remote kbd)**
* * * * * ESC Exit              **
*****
```

Boot Settings(ブート設定)> Boot Device Priority(ブートデバイスの優先順位)

```

*****
*                                     Boot                                     **
*                                     **
* Boot Device Priority                * Specifies the boot          **
* *****                            * sequence from the          **
* 1st [RAID:(Bus 01 Dev 00)PCI RAID Adapter] * available devices.        **
* 2nd [PXE:IBA GE Slot 1000 v1331]          *                             **
* 3rd [PXE:IBA GE Slot 1001 v1331]          * A device enclosed in     **
* 4th [PXE:IBA GE Slot 4100 v1331]          * parenthesis has been     **
* 5th [PXE:IBA GE Slot 4101 v1331]          * disabled in the          **
* 6th [PXE:IBA GE Slot 8100 v1331]          * corresponding type       **
* 7th [PXE:IBA GE Slot 8101 v1331]          * menu.                     **
* 8th [PXE:IBA GE Slot C100 v1331]          *                             **
* 9th [PXE:IBA GE Slot C101 v1331]          *                             **
*                                     *                             **
*                                     * *   Select Screen         **
*                                     * **  Select Item           **
*                                     * +-  Change Option         **
*                                     * F1  General Help          **
*                                     *(CTRL+Q from remote kbd)**
*                                     * F10 Save and Exit         **
*                                     *(CTRL+S from remote kbd)**
*                                     * ESC  Exit                   **
*****

```


RC Settings (RC 設定) > QPI Configuration (QPI 構成)

```

*****
*                                                                 RC Settings                               **
*                                                                 **
* QPI Configuration                                             * MMIOH Size to be      **
* ***** * allocated per IOH                                  **
* Current QPI Frequency      :6.400GT                          *                               **
*                                                                 *                               **
* MMIOH Size Per IOH         [2G]                               *                               **
* Logical Interrupt Mode     [Flat Mode]                       *                               **
* Cluster Mode Check Sampling [Enabled]                        *                               **
* QPI Debug Message Output Level [Err/Warn/Info0|1]          *                               **
* CRC Mode                   [8bit CRC]                        *                               **
* QPI Scrambling              [Enabled]                        *                               **
*                                                                 *                               **
*                                                                 *                               **
* * * Select Screen                                           **
* * * Select Item                                             **
* * +- Change Option                                         **
* * F1 General Help                                           **
* * (CTRL+Q from remote kbd)**
* * F10 Save and Exit                                         **
* * (CTRL+S from remote kbd)**
* * ESC Exit                                                  **
*****

```

RC Settings (RC 設定) > Integrated Memory Controller Configuration (統合メモリコントローラの構成)

```
*****
*                                                                 RC Settings                **
*                                                                 **
* Integrated Memory Controller Configuration          * This would select how **
* ***** * many memory nodes are **
*                                                                 * included in **
* InterleaveType [Automatic] * Interleaving. **
* Interleave order [Low High 0] * **
* Mapper Mode [Close] * **
* Initialization mode [Parallel] * **
* Page Policy [Close] * **
* Scheduler Policy [Adaptive] * **
* * **
* * **
* * * * Select Screen **
* * ** Select Item **
* * +- Change Option **
* * F1 General Help **
* * (CTRL+Q from remote kbd)**
* * F10 Save and Exit **
* * (CTRL+S from remote kbd)**
* * ESC Exit **
*****
```


Advanced Chipset Settings (チップセットの詳細設定) > CPU Bridge Configuration (CPUブリッジ構成)

```

*****
*                                     Chipset                               **
*                                     **
* CPU Bridge Chipset Configuration      * Spread spectrum             **
* *****                               * modulation.                  **
*                                     *                                 **
*                                     *                                 **
* Spread Spectrum Mode                  [Enabled]                       **
*                                     *                                 **
*                                     *                                 **
*                                     *                                 **
*                                     *                                 **
*                                     *                                 **
*                                     *                                 **
*                                     *                                 **
*                                     * *   Select Screen             **
*                                     * **   Select Item              **
*                                     * +-   Change Option            **
*                                     * F1   General Help             **
*                                     *(CTRL+Q from remote kbd)**
*                                     * F10  Save and Exit             **
*                                     *(CTRL+S from remote kbd)**
*                                     * ESC   Exit                      **
*****

```

Advanced Chipset Settings (チップセットの詳細設定) > NorthBridge Chipset Configuration (NorthBridge チップセット構成)

```
*****
* NorthBridge Chipset Configuration                * Configure Option ROM **
* ***** * **
* * **
* * **
* * Option ROM Scan for PCIe devices * **
* * I/O Allocation for PCIe devices * **
* * Resource Rebalancing features * **
* * **
* MMIO Reclaim [Enabled] * **
* PCI MMIO 64 Bits Support [Disabled] * **
* * **
* * * Select Screen **
* * * Select Item **
* * Enter Go to Sub Screen **
* * F1 General Help **
* * (CTRL+Q from remote kbd)**
* * F10 Save and Exit **
* * (CTRL+S from remote kbd)**
* * ESC Exit **
*****
```

Advanced Chipset Settings (チップセットの詳細設定) > CPU Bridge Configuration (CPUブリッジ構成) > Option ROM Scan for PCIe devices (PCIe デバイスのオプションの ROM スキャン)

```

*****
*                                     Chipset                               **
*                                                                 **
* Option ROM Scan for PCIe devices          ** Enable/Disable loading **
* *****                               of the Option ROM for **
*                                                                 **
*                                     ** PCIe NIC3.0                       **
* Scanning OPROM on BL3 NIC0      [Enabled]          **                **
* Scanning OPROM on BL3 NIC1      [Enabled]          **                **
* Scanning OPROM on BL3 FEM0      [Disabled]         **                **
* Scanning OPROM on BL3 FEM1      [Disabled]         **                **
* Scanning OPROM on BL3 EM0       [Disabled]         **                **
* Scanning OPROM on BL3 EM1       [Disabled]         **                **
*                                                                 **
* Scanning OPROM on BL2 NIC0      [Enabled]          **                **
* Scanning OPROM on BL2 NIC1      [Enabled]          **                **
* Scanning OPROM on BL2 FEM0      [Disabled]         ** *   Select Screen   **
* Scanning OPROM on BL2 FEM1      [Disabled]         ** **  Select Item    **
* Scanning OPROM on BL2 EM0       [Disabled]         ** +-  Change Option  **
* Scanning OPROM on BL2 EM1       [Disabled]         ** F1  General Help   **
*                                                                 **
* Scanning OPROM on BL1 NIC0      [Enabled]          ** (CTRL+Q from remote kbd)**
* Scanning OPROM on BL1 NIC1      [Enabled]          ** F10  Save and Exit **
* Scanning OPROM on BL1 FEM0      [Disabled]         ** (CTRL+S from remote kbd)**
* Scanning OPROM on BL1 FEM1      [Disabled]         ** ESC  Exit          **
* Scanning OPROM on BL1 EM0       [Disabled]         **                **
* Scanning OPROM on BL1 EM1       [Disabled]         **                **
*                                                                 **
* Scanning OPROM on BL0 REM       [Enabled]          ** *   Select Screen   **
* Scanning OPROM on BL0 NIC0      [Enabled]          ** **  Select Item    **
* Scanning OPROM on BL0 NIC1      [Enabled]          ** +-  Change Option  **
* Scanning OPROM on BL0 FEM0      [Disabled]         ** F1  General Help   **
* Scanning OPROM on BL0 FEM1      [Disabled]         ** (CTRL+Q from remote kbd)**
* Scanning OPROM on BL0 EM0       [Disabled]         ** F10  Save and Exit **
* Scanning OPROM on BL0 EM1       [Disabled]         ** (CTRL+S from remote kbd)**
*                                                                 **
*                                     ** ESC  Exit          **
*****

```

Advanced Chipset Settings (チップセットの詳細設定)>CPU Bridge Configuration (CPUブリッジ構成)>I/O Allocation for PCIe devices (PCIeデバイスのI/O割り当て)

```

*****
*
*                               Chipset                               **
*
* I/O Allocation for PCIe devices          ** This can prevent I/O    **
* *****                               resources from          **
*                                     ** being assigned         **
* I/O Allocation for BL3 NIC      [Enabled] ** to NIC3.0 & NIC3.1    **
* I/O Allocation for BL3 REM      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL3 EM0      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL3 EM1      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL3 FEM0     [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL3 FEM1     [Enabled] **                       **
*
* I/O Allocation for BL2 NIC      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL2 REM      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL2 EM0      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL2 EM1      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL2 FEM0     [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL2 FEM1     [Enabled] **                       **
*
* I/O Allocation for BL1 NIC      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL1 REM      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL1 EM0      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL1 EM1      [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL1 FEM0     [Enabled] **                       **
* I/O Allocation for BL1 FEM1     [Enabled] **                       **
*
*                                     ** *   Select Screen    **
* I/O Allocation for BL0 NIC      [Enabled] ** **   Select Item     **
* I/O Allocation for BL0 REM      [Enabled] ** ** +-  Change Option  **
* I/O Allocation for BL0 EM0      [Enabled] ** ** F1   General Help  **
* I/O Allocation for BL0 EM1      [Enabled] ** ** (CTRL+Q from remote kbd)**
* I/O Allocation for BL0 FEM0     [Enabled] ** ** F10  Save and Exit  **
* I/O Allocation for BL0 FEM1     [Enabled] ** ** (CTRL+S from remote kbd)**
*
*                                     ** ESC  Exit           **
*****

```

Advanced Chipset Settings (チップセットの詳細設定) > CPU Bridge Configuration (CPUブリッジ構成) > Resource Rebalancing features (リソースの再分散機能)

```
*****
*
*                               Chipset                               **
*
*                               **
* Resource Rebalancing features          * Total IO Ratio value **
* *****                               * in all Processor      **
*
*                                     * Modules should add up **
*
*                                     * to 8. IO Ratio value 0 **
* BL3 IO RATIO                        [Auto] * is not supported. The **
* BL2 IO RATIO                        [Auto] * granularity is 8Kb.  **
* BL1 IO RATIO                        [Auto] *                               **
* BL0 IO RATIO                        [Auto] *                               **
*
*                                     *                               **
* BL3 MMIO RATIO                      [Auto] *                               **
* BL2 MMIO RATIO                      [Auto] *                               **
* BL1 MMIO RATIO                      [Auto] *                               **
* BL0 MMIO RATIO                      [Auto] * *   Select Screen    **
*
*                                     * **   Select Item     **
*
*                                     * +-   Change Option   **
*
*                                     * F1   General Help    **
*
*                                     * (CTRL+Q from remote kbd)**
*
*                                     * F10  Save and Exit    **
*
*                                     * (CTRL+S from remote kbd)**
*
*                                     * ESC   Exit           **
*****
```

Advanced Chipset Settings (チップセットの詳細設定) > South Bridge Chipset Configuration (South Bridge チップセットの構成)

```

*****
*                                     Chipset                               **
*                                     **
* South Bridge Chipset Configuration * Options                            **
* ***** *                                                                     **
* SMBUS Controller      [Enabled]      * Enabled                          **
*                                     * Disabled                            **
* Restore on AC Power Loss [Last State] *                               **
* SATA Master Break Event [Disabled]    *                               **
*                                     *                               **
*                                     *                               **
*                                     *                               **
*                                     *                               **
*                                     *                               **
*                                     *                               **
*                                     *                               **
*                                     * *   Select Screen                **
*                                     * **  Select Item                  **
*                                     * +-  Change Option                 **
*                                     * F1  General Help                   **
*                                     *(CTRL+Q from remote kbd)**
*                                     * F10 Save and Exit                  **
*                                     *(CTRL+S from remote kbd)**
*                                     * ESC  Exit                            **
*****

```

Exit (終了)

Exit Options (終了オプション)

```

*****
* Advanced   PCI/PnP   Boot   Security   RC Settings   Chipset   Exit   **
*
* Exit Options                                     * Exit system setup   **
* ***** * after saving the                       **
* Save Changes and Exit                           * changes.           **
* Discard Changes and Exit                         *                   **
* Discard Changes                                  * F10 key can be used **
*                                                    * for this operation. **
* Load Optimal Defaults                           *                   **
*                                                    *                   **
*                                                    *                   **
*                                                    *                   **
*                                                    *                   **
*                                                    *                   **
* *          Select Screen                         **
* **         Select Item                           **
* Enter Go to Sub Screen **
* F1         General Help                          **
* (CTRL+Q from remote kbd)**
* F10        Save and Exit                         **
* (CTRL+S from remote kbd)**
* ESC        Exit                                  **
*****

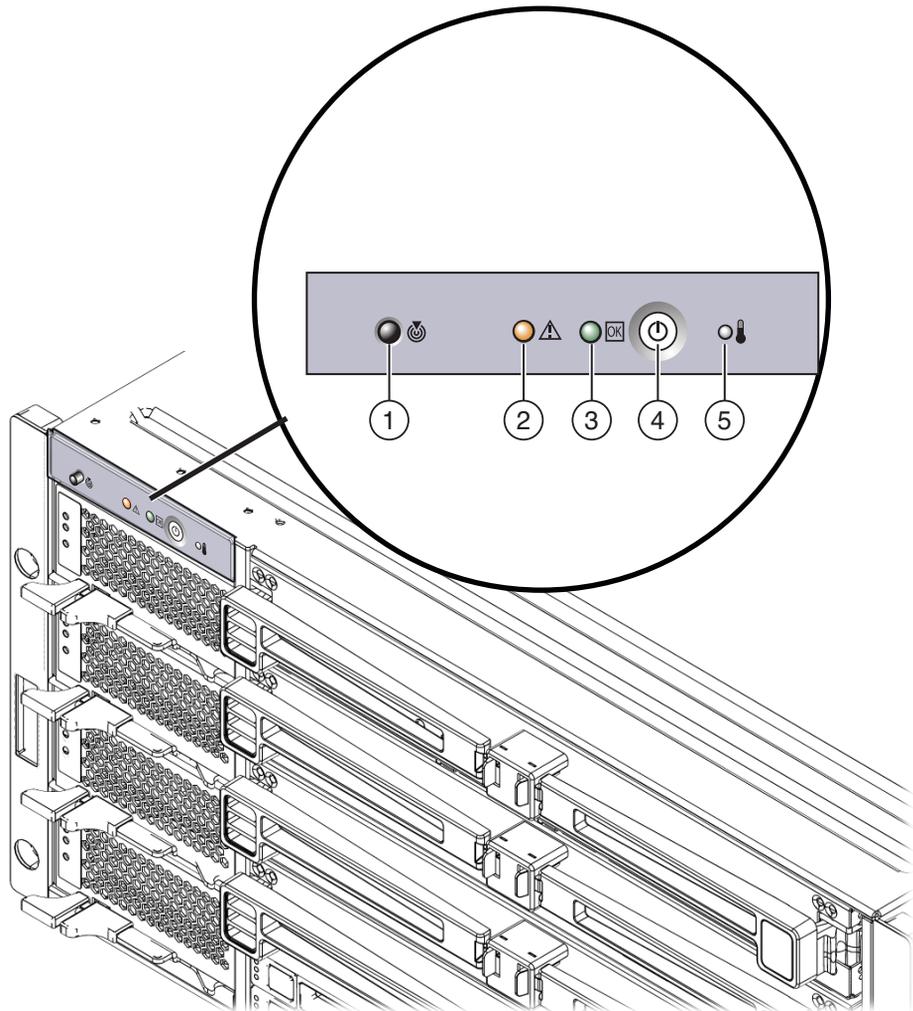
```

LED 部品の位置と機能

この節では、Sun Fire X4800 M2 サーバー 上の LED 部品の位置と意味に関する情報について説明します。

- 181 ページの「フロントインジケータパネルの LED」
- 182 ページの「CPU モジュール (CMOD) の LED」
- 184 ページの「フロントパネル電源装置の LED」
- 185 ページの「フロントパネルハードドライブの LED」
- 185 ページの「背面パネル Network Express Module の LED」
- 187 ページの「背面パネル SP モジュールの LED」
- 190 ページの「背面パネル PCIe EM の LED」

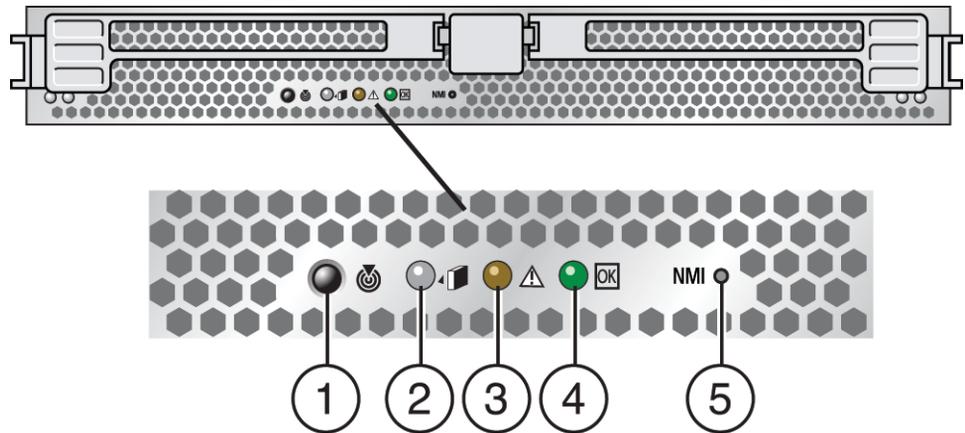
フロントインジケータパネルのLED



LEDの名前	色	動作状態
1 特定するもの	白色	<p>ラック内でサーバーを識別します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 通常は消灯しています。 ■ 位置特定ボタンまたは Oracle ILOM により有効にされた場合に点滅します。

LED の名前	色	動作状態
2 障害	オレンジ色	シャーシの障害状態を示します。 <ul style="list-style-type: none">■ 通常は消灯しています。■ コンポーネントが障害状態にある場合は、点灯したままになります。
3 OK/電源	緑色	サーバーの電源の状態を示します。 <ul style="list-style-type: none">■ AC 電源コードの接続が解除されている場合は消灯します。■ ホスト BIOS の起動中は、BIOS が POST を完了するまで 1 秒間隔で点滅します。■ AC 電源コードがサーバーに接続されている場合、SP 起動中にすばやく点滅します。■ スタンバイ電源モード (SP の起動後) でゆっくり点滅 (2900 ミリ秒オフ、100 ミリ秒オン) します。■ 全電力モード中は点灯したままになります。■ 47 ページの「電源およびリセット」を参照してください。
4 電源ボタン	なし	<ul style="list-style-type: none">■ 1 回押すと電源が投入され、スタンバイ電源モードから全電力モードになります。■ 1 回押すと、全電力モードからスタンバイ電源モードへと正常に電源が切断されます。■ 押したまま 4 秒間保持すると、全電力モードからスタンバイ電源モードへと即時停止を実行します。■ 48 ページの「電源ボタンおよび電源 OK LED」を参照してください。
5 異常な温度上昇	オレンジ色	サーバー内が異常な温度上昇の状態にあることを示します。 <ul style="list-style-type: none">■ 通常は消灯しています。■ サーバーの周囲温度が上方しきい値を超えた場合は、点灯したままになります。

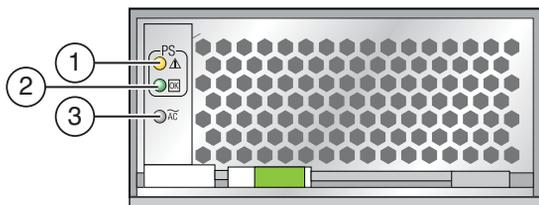
CPU モジュール (CMOD) の LED



LED の名前	色	動作状態
1 CMOD 位置特定 LED	白色	<ul style="list-style-type: none"> 通常は消灯しています。 位置特定ボタンまたは Oracle ILOM により有効にされた場合に点滅します。
2 取り外す準備ができています。	青色	使用されていません。コールドサービス。
3 CMOD 保守要求 (障害)	オレンジ色	<p>CMOD の障害状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 通常は消灯しています。 CMOD が障害状態にある場合は、点灯したままになります。

LEDの名前	色	動作状態
4 CMOD OK LED	緑色	<p>CMOD の状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ AC 電源が切断されているときはオフになります。 ■ SP が CMOD を初期化中 (サーバーが AC 電源に接続されているとき) はすばやく点滅します。 ■ スタンドバイ電源モード中は点灯したままになります。 ■ 47 ページの「電源およびリセット」を参照してください。
5 NMI ボタン	なし	サービス専用です。

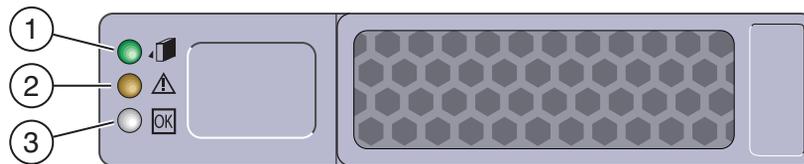
フロントパネル電源装置の LED



LEDの名前	色	動作状態
1 PSU の障害	オレンジ色	<p>電源装置の障害状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 通常は消灯しています。 ■ 電源装置が障害状態にある場合は、点灯したままになります。
2 PSU OK LED	緑色	<p>または、PSU がオンの場合。そのほかの場合は消灯します。</p>

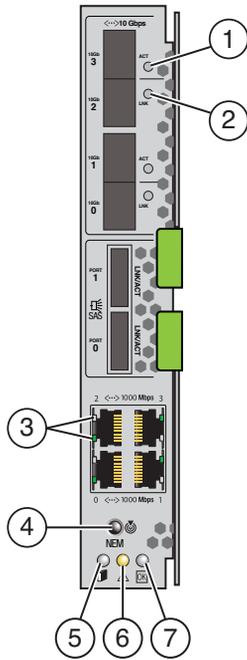
LED の名前	色	動作状態
3 AC LED	緑色	<ul style="list-style-type: none"> ■ 点灯: AC は接続されています。 ■ 消灯: AC が接続されていません。

フロントパネルハードドライブの LED



LED の名前	色	動作状態
1 ホットスワップ LED	青色	<ul style="list-style-type: none"> ■ 消灯: 通常処理中です。 ■ 常時点灯: ドライブ取り外しの準備が整っていることを示します。
2 障害	オレンジ色	<ul style="list-style-type: none"> ■ 消灯: 通常処理中です。 ■ 常時点灯: システムにより HD に障害が検出されています。
3 動作状態	緑色	<ul style="list-style-type: none"> ■ 点滅: ドライブ動作状態、スタンバイ。 ■ 消灯: 電源が切断されているか、ドライブ動作状態ではありません。

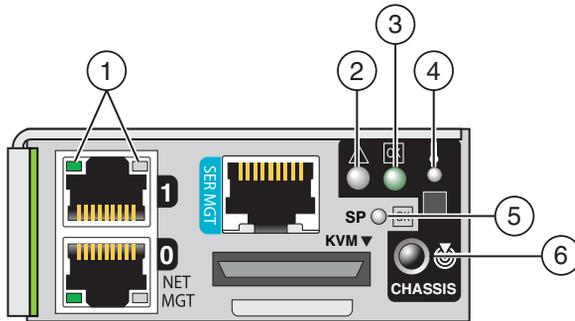
背面パネル Network Express Module の LED



LED の名前	色	動作状態
1 10G ビットの Ethernet ポート動作状態 LED	緑色	点灯:100M ビットでリンクが確立されています。
	オレンジ色	点灯:10M ビットでリンクが確立されています。
2 10G ビットの Ethernet ポートリンク LED	緑色	点灯:リンク動作状態。 注-オレンジ色のLEDは、確立されたリンクが、そのポートの全容量を使用していないことを示します。

LEDの名前	色	動作状態
3 10/1000/1000Base-T Ethernet LED (上)	緑色	点灯:1Gビットでリンクが確立されています。
	オレンジ色	点灯:100Mビットでリンクが確立されています。 注-オレンジ色のLEDは、確立されたリンクが、そのポートの全容量を使用していないことを示します。 消灯:10Mビットでリンクが確立されています。 注-オレンジ色のLEDは、確立されたリンクが、そのポートの全容量を使用していないことを示します。
10/1000/1000Base-T Ethernet LED (下)	緑色	点灯:リンク動作状態。
4 NEM 位置特定 LED	白色	<ul style="list-style-type: none"> ■ 通常は消灯しています。 ■ 位置特定ボタンまたは Oracle ILOM により有効にされた場合に点滅します。
5 取り外し可能 LED	青色	消灯。使用されていません。
6 保守要求 (障害) LED	オレンジ色	<p>障害状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 通常は消灯しています。 ■ 障害状態にある場合は、点灯したままになります。
7 電源 OK LED	緑色	<p>ホストがオフの場合は消灯しています。</p> <p>ホストがオンの場合は点灯します。</p>

背面パネル SP モジュールの LED

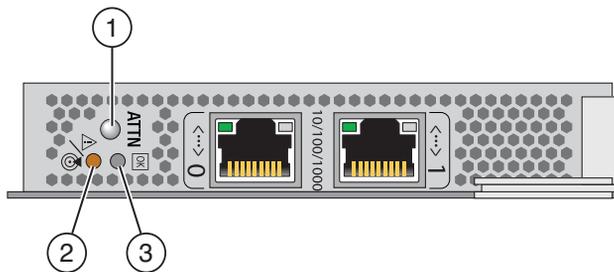


LEDの名前	色	動作状態
1 10/1000/1000Base-T Ethernet LED (左)	緑色	点灯:1Gビットでリンクが確立されています。
	オレンジ色	点灯:100Mビットでリンクが確立されています。 注-オレンジ色のLEDは、確立されたリンクが、そのポートの全容量を使用していないことを示します。
	オレンジ色	消灯:10Mビットでリンクが確立されています。 注-オレンジ色のLEDは、確立されたリンクが、そのポートの全容量を使用していないことを示します。
10/1000/1000Base-T Ethernet LED (右)	緑色	点灯:リンク動作状態。
2 シャーシ保守要求 (障害) LED	オレンジ色	サーバーの障害状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 通常は消灯しています。 ■ サーバーが障害状態にある場合は、点灯したままになります。

LEDの名前	色	動作状態
3 シャーシ電源 OK LED	緑色	<p>サーバーの電源の状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ AC電源コードの接続が解除されている場合は消灯します。■ AC電源コードがサーバーに接続されている場合、SP起動中にすばやく点滅します。■ SP起動後のスタンバイ電源モード中は、ゆっくりと点滅します。■ 全電力モード中は点灯したままになります。■ 47ページの「電源およびリセット」を参照してください。
4 シャーシ異常な温度上昇 LED	オレンジ色	<p>サーバー内が異常な温度上昇の状態にあることを示します。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 通常は消灯しています。■ サーバー内部の温度が上方しきい値を超えた場合は、点灯したままになります。

LED の名前	色	動作状態
5 SP モジュール OK LED	緑色または黄色	<p>SP モジュールの電源の状態を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ AC 電源コードの接続が解除されている場合は消灯します。 ■ SP モジュールに電源が供給されると3回点滅します。 ■ SP の起動中は消灯しています。 ■ SP が動作状態になると点灯します。 ■ SP が動作状態でない場合は黄色になります。 ■ 47 ページの「電源およびリセット」を参照してください。
6 シャーシ検出 LED	白色	<p>ラック内でサーバーを識別します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 通常は消灯しています。 ■ 位置特定ボタンまたは Oracle ILOM により有効にされた場合に点滅します。

背面パネル PCIe EM の LED



LEDの名前	色	動作状態
1 ATTN ボタン	なし	電源を入れた状態での取り外し、および追加を行う場合に押します。
2 保守要求(障害) LED	オレンジ色	障害状態を示します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 通常は消灯しています。 ■ 障害状態にある場合は、点灯したままになります。
3 OK LED	緑色	SP が作動可能になると点灯したままになります。 SP が作動可能でない場合はオフになります。

温度センサーの位置

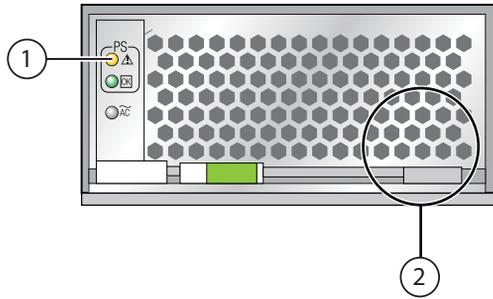
この節では、サーバー内の温度センサーの位置と指定に関する情報を示します。Sun Fire X4800 サーバーには、サーバーの4か所 (CMOD、電源、ミッドプレーン、NEM) に温度センサーが搭載されています。

最適に動作するには、サーバー外部との連続した空気の内部的な流れにより、仕様動作時の内部温度を維持する必要があります。吸気口および排気口をふさがないでください。各部の温度センサーの位置については、次の節を参照してください。

- 191 ページの「電源装置の吸気温度センサー」
- 193 ページの「CMOD 吸気温度センサー」
- 192 ページの「電源装置排気口の温度センサー」
- 193 ページの「NEM 温度センサー」

電源装置の吸気温度センサー

各電源には、吸気グリルの背後にあるユニットの右下前面の近くに、内部吸気温度センサーが取り付けられています。吸気グリルをふさがないでください。電源にはユーザーが保守可能な部品はありません。電源を開けないようにしてください。

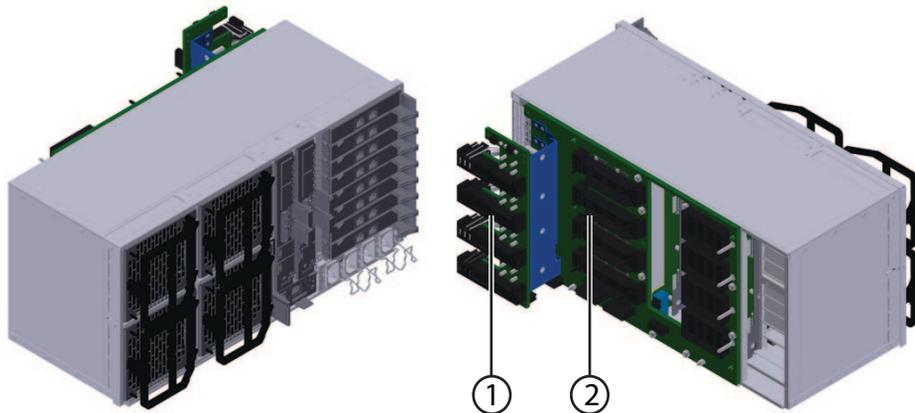


各部の説明

- 1 保守要求 (障害) LED
- 2 内部温度センサーの一般的な位置

電源装置排気口の温度センサー

ミッドプレーンボードには、電源装置のコネクタの背後の左側に2つのセンサーが取り付けられています。これらは、U1およびU2と指定された電源装置排気口温度センサーです。

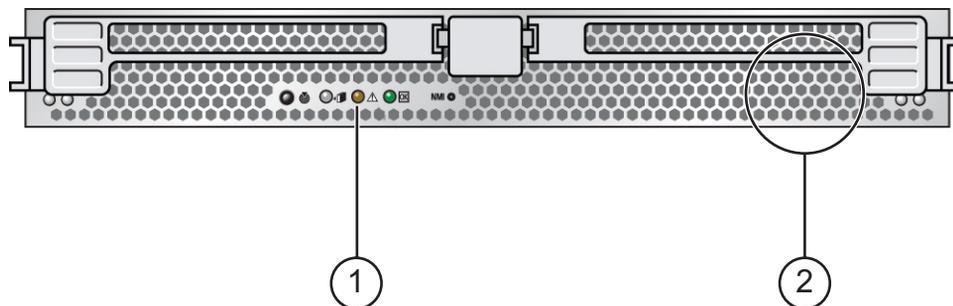


各部の説明

- 1 内部電源装置コネクタ
- 2 ミッドプレーンボード

CMOD 吸気温度センサー

各 CMOD には、吸気グリルのすぐ背面の前面右側に、マザーボードに取り付けられた内部温度センサーがあります。これは U3005 と指定されている CMOD 吸気温度センサーです。CMOD 吸気温度センサーは保守可能な部品ではありません。センサーにほこりをためたり、CMOD 吸気グリルをふさいだりしないでください。



各部の説明

- 1 保守要求 (障害) LED
- 2 内部温度センサーの一般的な位置 (CMOD の前面から見た場合)

NEM 温度センサー

各 NEM には、U2741 と呼ばれ、ボードに取り付けられた内部温度センサーがあります。温度センサーは保守可能な部品ではありません。センサーにほこりをためたり、センサーの周囲をふさいだりしないでください。

Sun Fire X4800 M2 サーバー仕様

- 195 ページの「物理仕様」
- 195 ページの「電源仕様」
- 196 ページの「環境仕様」

物理仕様

仕様	値
幅	17.5 インチ (445 mm)
高さ	8.61 インチ (218.75 mm)
奥行	27.56 インチ (700 mm)
重量	180 ポンド

電源仕様

注- 次の表に表示されている電力消費数は、サーバーで使用される電源装置の最大定格出力数です。これらの数値は、システムの実際の消費電力の定格ではありません。消費電力の最新情報については、次の Web サイトにアクセスし、該当するページを参照してください: URL

仕様	値
ユニバーサル AC 入力	200-240 VAC
VAC 200 時の最大電流	20 A
最大使用可能電力	3500 W
最大消費電力	3800 W
定格電圧・電流	3878 VA @ 240 VAC, 0.98 PF

環境仕様

仕様	値
温度 (動作時)	5°- 35° C、最大高度 10,000 フィート
湿度	10 - 90% RH 結露なし
高度 (動作時)	10,000 フィート 海面から 900 m まで 35° C、高度が 300 m 増えるごとに最高温度は 1° C ずつ低下 3,000 m で 28° C
通気 (最大可能)	552 CFM
通気 (標準)	250 CFM

索引

数字・記号

5-2M CMOD 指定, 14

A

AC 電源ケーブル, 取り外しと取り付け, 65-66

AC 電源ブロック, 21

概要, 41, 42

ATTN ボタン, 191

B

BIOS 設定ユーティリティー, アクセス, 148-149

BIOS 設定ユーティリティー画面

Advanced, 151

Boot, 166

Chipset, 173

Exit, 180

Main, 150

PCI/PnP, 165

RC Settings, 170

Security, 169

C

CLI, Oracle ILOM, サーバー電源の遠隔制御, 50-51

CMOD

5-2M 指定, 14

LED, 182

CMOD (続き)

温度センサー、吸気口, 193

概要, 11, 14

カバー

取り付け, 83-84

取り外し, 82-83

構成, 89

コンポーネント内部, 18

指定, 88

接続, 18

追加, 79-80

取り付け, 84-87

取り外し, 80-82

配置規則, 89

バッテリーの交換, 93-95

非互換性, 14

ファームウェアと SP モジュールの互換性, 148

CMOD の追加, 79-80

CMOD フィラー

取り付け, 91-92

取り外し, 90-91

CPU

サポートされる Intel, 34

指定, 107

CPU とヒートシンク構成部品

概要, 33

取り付け, 110-114

取り外し, 107-110

CPU モジュール, 「CMOD」を参照

CRU (顧客交換可能ユニット), CRU および FRU リスト, 54

D

DIMM

- 概要, 29
- 構成, 100
- 最大構成, 101
- サポートされない構成, 101
- 指定と配置規則, 100
- 取り付け, 98-100
- 取り外し, 96-97

E

- ESD 手順と注意事項, 56

F

FEM

- 概要, 32
- 取り付け, 105-106
- 取り外し, 104-105

FRUID 情報, バックアップ, 145-146

FRU (現場交換可能ユニット), CRU および FRU リスト, 54

I

- IPMI, サーバー電源の制御, 52

L

LED

- CMOD, 182
- NEM, 185, 187
- 異常な温度上昇, 181, 187
- 位置特定, 181, 185
- 検出, 187
- 電源 OK, 181, 182, 184, 185, 187
- 電源装置, 184
- ネットワークの動作状態, 185
- ハードドライブ, 185
- フロントインジケータパネル, 181

LED (続き)

- 保守要求 (障害), 22, 181, 182, 184, 185, 187

M

- My Oracle Support, 使用する方法, 5-6
- My Oracle Support (support.oracle.com) には製品を見つける, 5-6

N

NEM

- LED, 185, 187
- 温度センサー, 193
- 概要, 21, 36
- 指定と割り当て, 122
- 取り付け, 125-127
- 取り外し, 123-124
- NET MGT ポート, 37
- Network Express Module, 「NEM」を参照
- NMI ボタン, 184

O

OK (電源) LED, 22

Oracle ILOM

- サーバー電源のリモート制御
- CLI, 51-52

Oracle ILOM (Integrated Lights Out Management), 37

- サーバー電源の遠隔制御
- CLI, 50-51
- Web インタフェース, 51-52

P

PCIe EM

- 概要, 21, 40
- 指定と配置規則, 127
- 取り付け, 129-131
- 取り外し, 128-129
- PCIe Express Module (PCIe EM), 「PCIe EM」を参照

R

RAID 拡張モジュール, 「REM」を参照

REM

概要, 30

取り付け, 103-104

取り外し, 102

RJ-45 (シリアル) ポート, 39

S**SAM**

AC 電源ブロック, 41

概要, 11, 18

取り付け, 140-144

取り外し, 136-140

ファンモジュールコントローラボード (FB), 42

ミッドプレーン, 43

SP (サービスプロセッサ) モジュール, 21

概要, 37

取り付け, 132-134

取り外し, 131-132

ファームウェアと CMOD の互換性, 148

support.oracle.com, 5-6

T

Tools and Drivers CD, 147

U

UCP (ユニバーサルコネクタポート), 37, 39, 135, 136

USB ポート

内部の概要, 35

マルチポートケーブル, 39

W

Web インタフェース, Oracle ILOM, サーバー電源の遠隔制御, 51-52

X

XL ブラケット構成部品, 概要, 26

あ

アクセス, BIOS 設定ユーティリティ, 148-149

アップグレードキット, 79-80

安全性に関する重要な情報, 56

い

異常な温度上昇 LED, 22

位置特定 LED, 22, 183, 185, 187

お

温度センサー, 位置, 191

か

概要, 9

く

グリース, サーマル, 112

こ

交換

CMOD バッテリー, 93-95

ハードドライブバックプレーン, 74

工具類, 必要なリスト, 55

更新

CMOD ファームウェア

考慮事項, 148

SP モジュールファームウェア

考慮事項, 148

ファームウェア, 147

構成, CMOD, 89

互換性のないCMODバージョン, 14
コマンド行インタフェース, 「CLI」を参照
コンポーネント
 CMOD、内部, 18
 概要, 11-45
 AC電源ブロック, 41
 CMOD, 14
 CMODバッテリー, 33
 CPUとヒートシンク構成部品, 33
 DIMM, 29
 FEM, 32
 Intel CPU, 34
 NEM, 36
 PCIe EM, 40
 REM, 30
 SPモジュール, 37
 サーバーの背面, 18
 サーバー背面, 21
 電源装置, 24
 ドライブバックプレーン, 27
 内蔵USBポート, 35
 ハードドライブとXLブラケット構成部
 品, 26
 ファンモジュール (FM), 35
 ファンモジュールコントローラボード
 (FB), 42
 フロントパネルのインジケータモ
 ジュール, 22
 マルチポートケーブル, 37, 39
 ミッドプレーン, 18, 43
 交換
 電源装置, 61
 ハードドライブバックプレーン, 74
 フィルター (CMOD), 90
 シャーシ, 12
 ホットスワップリスト, 55

さ

サーバー, 概要, 11-45
サーバーのサービス
 CRUおよびFRUリスト, 54
 ESD手順と注意事項, 56
 安全性に関する重要な情報, 56

サーバーのサービス (続き)
 工具リスト, 55
 準備
 サービス, 57-58
 操作, 58-59
 静電気防止用マット, 57
 タスク表, 53
 ホットスワップコンポーネントリスト, 55
サーバーの準備
 サービス, 57-58
 操作, 58-59
サーバーの電源, オン, 48-49
サーバーへの電源供給, オフ, 49-50
サーバーへの電力供給
 IPMI, 52
 遠隔
 CLI, 50-51
 Webインタフェース, 51-52
サーバーを操作, 58-59
サーマルコンパウンド (グリース), 112
サブアセンブリモジュール, 「SAM」を参照

し

システムの冷却, 35
指定
 CMOD, 88
 CPU, 107
 DIMM, 100
 NEM, 122
 PCIe EM, 127
 電源装置, 61
 ハードドライブ, 66
 ファンモジュールコントローラボード
 (FB), 119
シャーシ
 概要, 11
 CMOD, 14
 コンポーネント, 12
 電源装置
 指定, 61
 ハードドライブ
 指定, 66
 フロントインジケータパネル, 48

仕様

仕様, 196

電源, 195

物理, 195

障害 LED, 「保守要求 LED」を参照

シリアル (RJ-45) ポート, 39

す

スタンバイ電源モード, 47, 49

せ

正常な電源切断, 49-50

静電気防止用マット, 57

設置, 電源装置, 63-65

全電力モード, 47

た

ダウングレード, ファームウェア, 148

タスク表, サービス手順, 53

つ

爪, 取り外しおよび取り付けレバー, 44

て

電源

温度センサー

吸気口, 191

型, 47

仕様, 195

電源装置

AC ブロック, 42

LED, 184

温度センサー

排気口, 192

概要, 24

電源装置 (続き)

指定, 61

設置, 63-65

取り外し, 61-63

電源ボタンおよび電源 OK LED, 48

電源ボタンと電源 OK LED, 22

と

ドライブバックプレーン, 概要, 27

取り付け

AC 電源ケーブル, 65-66

CMOD, 84-87

CMOD カバー, 83-84

CMOD バッテリ, 93-95

CMOD フィラー, 91-92

CPU とヒートシンク構成部品, 110-114

DIMM, 98-100

FEM, 105-106

NEM, 125-127

PCIe EM, 129-131

REM, 103-104

SAM, 140-144

SP モジュール, 132-134

ハードドライブ, 69-70

ハードドライブバックプレーン, 77-79

ハードドライブフィラー, 72-73

ファンモジュール (FM), 117-118

ファンモジュールコントローラボード
(FB), 120-121

マルチポートケーブル, 135-136

取り外し

AC 電源ケーブル, 65-66

CMOD, 80-82

CMOD カバー, 82-83

CMOD バッテリ, 93-95

CMOD フィラー, 90-91

CPU とヒートシンク, 107-110

DIMM, 96-97

FEM, 104-105

NEM, 123-124

PCIe EM, 128-129

REM, 102

SAM, 136-140

取り外し (続き)

- SP モジュール, 131-132
- 電源装置, 61-63
- ハードドライブ, 67-69
- ハードドライブバックプレーン, 75-77
- ハードドライブファイラー, 71-72
- ファンモジュール (FM), 115-116
- ファンモジュールコントローラボード (FB), 119-120
- ファイラーモジュール (CMOD), 80-82
- マルチポートケーブル, 134-135

は

ハードドライブ

- LED, 185
- 概要, 26
- 指定, 66
- 取り付け, 69-70
- 取り外し, 67-69

ハードドライブバックプレーン

- ケーブルルーティング, 74
- 取り付け, 77-79
- 取り外し, 75-77

ハードドライブファイラー

- 取り付け, 72-73
- 取り外し, 71-72

配置規則

- CMOD, 89
- DIMM, 100

バックプレーン, ハードドライブ, 27

バッテリー

- CMOD (バッテリータイプ: CR2032), 33
- 交換
 - CMOD, 93-95

ひ

- 非常電源切断, 49-50
- ビデオ解像度, SP モジュール, 37
- ビデオポート, 39

ふ

ファームウェア

- 更新, 147, 148
- 考慮事項, 148
- ダウングレード, 148

ファブリック拡張モジュール, 「FEM」を参照

ファンモジュール (FM), 21

- 概要, 35
- 取り付け, 117-118
- 取り外し, 115-116

ファンモジュールコントローラボード (FB), 21

- 概要, 42
- 指定, 119
- 取り付け, 120-121
- 取り外し, 119-120

ファイラー

- 取り付け
 - CMOD, 91-92
- 取り外し

CMOD, 90-91

ハードドライブ, 71-72, 72-73

ファイラーモジュール (CMOD), 取り外し, 80-82

部品

交換

- CMOD, 79
- CMOD バッテリー, 93-95
- CPU とヒートシンク構成部品, 107
- DIMM, 96
- FEM, 104
- NEM, 122
- PCIe EM, 127
- REM, 101
- SAM, 136
- SP モジュール, 131
- ハードドライブ, 66
- ハードドライブファイラー, 66
- ファンモジュール (FM), 114
- ファンモジュールコントローラボード (FB), 118
- マルチポートケーブル, 134

フロントインジケータパネル, 22

- LED, 181
- 電源ボタンおよび電源 OK LED, 48

ほ

保守要求 (障害) LED, 22

ホットスワップコンポーネントリスト, 55

ま

マザーボード, FRUID 情報のバック

アップ, 145-146

マルチポートケーブル

概要, 39

取り付け, 135-136

取り外し, 134-135

み

ミッドプレーン

概要, 18, 43

め

メモリー

「DIMM」を参照

れ

レバー, 取り外しおよび取り付けについて, 44

